

平成26年度

事業  
報告



THE ASAHI SHIMBUN SOCIAL WELFARE ORGANIZATION

# 朝日の社会福祉 2014

社会福祉法人 朝日新聞厚生文化事業団

# はじめに

## 「誰もが自分らしく豊かな暮らしを」

私たちの暮らしは確かに豊かになりました。にもかかわらず、次の時代・社会を託すべき子どもたちは今、6人に1人が貧困状態にあり、子どもたちを巡る「貧困の連鎖」が問題とされています。

当事業団では、児童養護施設や里親家庭で生活する高校生に、大学や専門学校への入学時に必要な費用を贈る「児童養護施設・里親家庭の高校生進学応援金」事業を行っています。18歳になったら原則自立を余儀なくされる子どもたちに、将来を生き抜くための「教育の力」をつけて欲しい。そんな思いからの事業で、2014年度は105人から応募があり、24人に総額約1000万円を応援しました。これら社会的養護が必要とされる子どもたちを対象とする事業を中心に、子どもたちが希望を持って生きることを応援する事業を展開していきたいと思っています。

無論、事業団の基本方針である「子ども」「障害のある人」「高齢者」の3本柱は変わりません。「認知症カフェ」への理解拡大やその普及促進、住み慣れた場所で介護・看護を受けながら、自分らしい高齢期を望む高齢者やその介護者に向けた連続講演会、認知度が低い「高次脳機能障害」への理解の広がりを図るための講演会など、特色ある活動を続けています。東日本大震災の被災者救援・復興支援事業を息長く継続していくことは、言うまでもありません。

同時に2015年度は、13年度から着手した「新3年計画」の最終年に当たります。これまでの活動の評価・検証を通してスクラップ・アンド・ビルドも含めて見直しを行い、新たな3年計画の策定につなげていきたいと思っています。

格差の拡大が言われる中で、「誰もが自分らしく豊かな生活」を享受できる社会を実現するにはどうしたらいいか。社会福祉はどのような形でその役割を果たすことができるのか。試行錯誤の連続とは思いますが、私たちなりに時代の要請に応える事業を展開していきたいと思っております。今後も、ご支援・ご協力をよろしくお願いいたします。

2015年5月  
社会福祉法人 朝日新聞厚生文化事業団

---

■ 2014年度(平成26年度) 朝日の社会福祉 ■

---

目

次

はじめに.....	1
東日本大震災.....	5
朝日のあたる家(岩手) 5	
こども応援金 6	
大切な人を失った子どもに寄り添う「グリーフサポート」 7	
子どもグリーフサポートトレーナー養成研修 8	
グリーフキャンプ 9	
被災地ピジット(青森・宮城・岩手 22カ所) 10	
東日本大震災救援事業へのご寄付、14年度は2300万円 13	
子どもの福祉.....	14
児童養護施設・里親家庭の高校生進学応援金 14	
社会的養護の当事者グループ全国ネットワーク「こどもっと」 15	
ピア・キャンプの開催(静岡) 17	
「子どもシェルター」の講演会(新潟) 17	
第61回朝日夏季保育大学(長野) 18	
親子で楽しむクリスマスコンサート(東京) 21	
第31回福祉施設絵画展(名古屋) 21	
障害のある人の福祉.....	22
自閉症カンファレンスNIPPON～TEACCHモデルに学ぶ実践研究会(東京) 22	
メジボフ教授講演会「自閉症を正しく理解すること」(大分、静岡、秋田) 23	
朝日福祉ガイドDVD「自閉症の人が求める支援」 24	
第31回全国高校生の手話によるスピーチコンテスト(東京) 24	
講演会「高次脳機能障害の当事者が伝えたいこと」(鳥取・熊本・千葉) 25	
うつ病についての講演会(岩手、東京、大阪) 27	
視力障害の大学生のための「聖明・朝日盲大学生奨学金」(東京) 29	
第60回耳の日記念行事(全国) 29	
「心の輪を広げる体験作文」「障害者週間のポスター」(東京) 30	
第33回肢体不自由児・者の美術展(東京、福岡) 30	
第43回聴美会展(名古屋) 31	
第49回名古屋市障害者作品展示会 31	

第35回障害者歩くスキーの集い(札幌)	31
第35回朝日九州車いすバスケットボール選手権大会(熊本)	32
第26回九州車いすツインバスケットボール選手権大会(佐賀)	32
<b>高齢者の福祉</b> .....	<b>33</b>
高齢者在宅ケアモデル事業	33
高齢者プロジェクト「自分らしい人生の最終章とは？」(大阪、東京)	34
おひとりさまの認知症と成年後見制度	35
朝日福祉ガイドブック「生き方、逝き方ガイドブック」	36
高齢期の豊かなくらし研究会講演会(大阪)	36
フォーラム 認知症カフェを考える	38
朝日高齢者福祉セミナー2014(名古屋)	39
高齢者施設訪問プログラム「ゆうゆうピジット」(全国16カ所)	39
<b>福祉啓発・公衆衛生など</b> .....	<b>42</b>
第10回自殺防止事業「病的ギャンブリングの現状と対策」(福岡)	42
いのちの電話などに福祉助成金(福岡)	42
アサヒベビー相談室(大阪、高槻、大津)	43
第66回保健文化賞(東京)	44
遺贈・遺言セミナー(東京、大阪、名古屋、福岡)	44
広島土砂災害救援金	45
<b>チャリティー事業</b> .....	<b>46</b>
朝日チャリティー美術展(名古屋、大阪、東京)	46
第64回メサイア演奏会(東京)	47
第56回各派合同三曲演奏会(大阪)	48
第62回洋舞合同祭(大阪)	49
協賛能(大阪)	49
第61回各流合同茶会(大阪)	50
朝日関西学生チャリティー茶会(大阪)	50
第60回歳末朝日チャリティー茶会(名古屋)	51
第52回チャリティー大茶会(北九州)	51
杵勝会歳末チャリティー長唄演奏会(東京)	51
浦和学院高校吹奏楽部チャリティーコンサート(さいたま)	51

主な後援・協賛・協力事業一覧	52
チャリティー美術展に出展いただいた皆様	58
ご寄付をいただいた皆様	66
新3年計画 2013-2015	72
朝日福祉ガイド DVD・ビデオ・本のご案内	74
朝日新聞厚生文化事業団のあゆみ	76
2014年度事業活動計算書より抜粋	78
理事・監事・評議員名簿	79
お問い合わせ・寄付の受け付け・職員名簿	80

# 東日本大震災

## 朝日のあたる家（岩手）

当事業団、NPO法人 福祉フォーラム・東北主催

岩手県陸前高田市米崎町の地域交流拠点「朝日のあたる家」＝写真＝が2015年2月17日に開設2周年を迎えました。

### ●コミュニティハウス

「朝日のあたる家」は、朝日新聞厚生文化事業団の震災救援事業に寄せられた寄付金によって建設された「コミュニティハウス」です。木造平屋建て床面積約240平方メートル。大小4つのホールや和室、キッチンがあり、グランドピアノやプロジェクターなども備えられています。運営には「福祉フォーラム・東北」（新田國夫会長）が当たっています。



### ●「認知症カフェ」の開催

認知症のある人や、その家族らが集い、交流を行う「認知症カフェ」を開催しています。地元で長く活動をしている「認知症にやさしい地域支援の会」と一緒に事業を進めてきました。毎月第4木曜日の午後に、毎回、20人から30人程度の地域の方が参加。お茶を飲みながら歓談したり、皆で体操をしたり、歌ったりするプログラムのほか、認知症や介護に関する相談の時間も設けられています。

13年6月から「認知症カフェ」を継続して開催しながら、朝日のあたる家における「認知症カフェ」のあり方、その意義やスタイル、運営方法などを模索してきました。私たちの願いは、「認知症カフェ」をきっかけに地域コミュニティが再生すること。そして、その中心に認知症の人がいる、という地域づくりです。

この願いをかなえるべく、15年度から「アップルカフェ」の愛称で月に2回、朝日のあたる家独自の「認知症カフェ」を開催する準備が整いました。

「アップルカフェ」は、認知症のある人、その家族、認知症に関心のある地域の人、行政の担当者などが気軽に集まり、お茶を飲みながら語り、ひと時を過ごせる居心地の良い場所と時間を提供します。

仮設住宅などでの不自由な暮らしや、復興住宅など新しい環境の中で慣れない生活を強いられ、部屋に閉じこもりがちになることで、認知症の症状が悪化したり、顕在化したりしていると考えられています。そのような方々にも「認知症カフェ」の参加を呼びかけていきたいと考えています。認知症への偏見をなくし、認知症になっても暮らしやすい地域をつくることを目指しています。

### ●多彩な催し

朝日のあたる家では、「認知症カフェ」のほか、心と体の健康、認知症・介護などの相談室を開設するほか、講演会やコンサート、子どもと大人が一緒に楽しめる絵本ライブなど、さまざまな催しを開いてきました。また、料理教室をはじめ、体操・手芸・囲碁・健康マージャンの教室も定期的で開催されています。



### ●仮設住宅に暮らす人たちなど1万400人が利用

ちょっとした待ち合わせに使ったり、学校帰りの子どもたちが気軽に立ち寄ってくれたり、この1年間で、仮設住宅の住民をはじめ、子どもから高齢者まで延べ6400人の利用者がありました。開設以来、延べ1万400人が朝日のあたる家を利用しました。

近くの保育園の子どもが庭で遊んでいくことが多い「朝日のあたる家」。家の中から、その光景を見ている高齢者の顔に笑顔があふれることがあります。地域の「おばさん」から教わった小正月の「みずき団子」を、遊びに来ていた中学生と一緒に飾るなど、季節ごとの行事が受け継がれていく場としても使っていただいています。

また、月1回の会報誌「おはやがんす」を発行するなど、地域の方に積極的に情報を発信しています。



住民、医師、看護師、介護サービス従事者といった方々が職種を超えて、被災地支援をする「包括的ケア体制」が望まれるなか、福祉フォーラム・東北と当事業団は、「朝日のあたる家」を拠点として、現地に密着した在宅ケア事業を構築することを目指しています。

## こども応援金

当事業団主催

震災で両親を亡くした子ども（孤児）に「東日本大震災こども応援金」を届けています。金額は未就学児・小学生が1人当たり300万円、中学生が200万円、高校生相当年齢が150万円。「自由に使えるお金」として、対象の子どもたちに直接、渡しています。

震災直後から両親を亡くした子どもたちのことを考えていた私たちは、全国の多くの方々から、ご寄付と一緒に届く「被災地の子どものために」

こども応援金 贈呈者数の内訳  
(2015年3月末現在 県名などは被災時)

	岩手	宮城	福島	合計
未就学児	8	8	3	19
小学生	34	45	10	89
中学生	24	21	2	47
高校生	16	27	4	47
合計	82	101	19	202

という声にも背中を押され、この取り組みを始めました。

経済的な不安を和らげ、子どもが夢をあきらめずに将来への希望を持てることに少しでも役立ちたいと、すべての孤児に渡すことを目標にしています。

11年7月から贈呈を始め、対象と見込んできた220人の9割を超える202人に総額4億8850万円を贈ることができました。震災から4年がたち、子どもたちは成長の節目ごとに多くの不安を感じることがあるかも知れません。こども応援金は15年度も受け付けを継続します。

## 大切な人を失った子どもに寄り添う「グリーフサポート」

NPO法人子どもグリーフサポートステーション、米国キッズ・ハート・ツー・ハワイなどと協働

### ●東日本大震災の被災地で子どものグリーフに向き合う

東日本大震災などの災害や事故、自死、病気、離婚などで大切な人と死別・離別したり、虐待などで安心・安全な暮らしを失ったりした子どもたち。“喪失”による悲しみや寂しさ、会いたい気持ちなど(グリーフ)を抱えた子どもたちが、自分らしく歩むプロセスに寄り添う支援がグリーフサポートです。

このグリーフサポートの視点から東日本大震災で大切な人を失った子どもに寄り添うために、NPO法人子どもグリーフサポートステーションとともに、仙台市青葉区の仙台駅前に「子どもグリーフサポートステーション」を2012年9月に開設。子どもが、ファシリテーターと呼ばれる研修を受けたスタッフと好きな遊びをしたり、おしゃべりしたりしながら自由に感情を表現するワンデイプログラムを毎月2回程度実施しました。陸前高田市米崎町の朝日のあたる家でも定期的にプログラムを行い、14年4月から12月末までに合わせて延べ約260人の子どもが参加しました。

### ●札幌、福岡で講演会も

7月5日には福岡市・レソラNTT夢天神ホール(こどもグリーフサポートふくおか、子どもグリーフサポートステーション、当事業団主催)で、翌6日は札幌市・TKP札幌駅カンファレンスセンター(グリーフサポートSaChi、同ステーション、当事業団主催)で大切な人を亡くした子どもたちのグリーフサポートをテーマにした講演会を実施しました。米国ハワイ州でグリーフサポートに取り組み、震災後は定期的に仮設住宅などを訪れているキッズ・ハート・ツー・ハワイのシンシア・ホワイトさん=写真=や各地の実践者らが講演し、合せて230人を超える人が参加しました。また大阪では、NPO法人ぐりーふサポートハウスと連携して子どものサポートプログラムを毎月2回程度行いました。



### ●これからも必要とされるグリーフサポート

震災から4年を経ても、亡くなった人に会いたい気持ちや寂しさ、喪失によって生まれた自分を責める気持ちなどは無くなりません。私たちの実践は、こうした子どもの抱えたグリーフを取り除くものではなく、そうした想いに寄り添い、自分のペースで気持ちを整理し、一人ひとりが自分らしく歩むことを支えるものです。「話を聴いてくれる人がいる」「一緒に遊んでくれる人がいる」「同じような悲しみを持つ友だちがいる」。こうした居場所が必要だと私たちは考えています。

### ●被災沿岸地域を訪問

6月と11月には、岩手県陸前高田市、宮城県東松島市、福島県新地町などの仮設住宅を、キッズ・ハート・ツー・ハワイのシンシア・ホワイトさん、伊藤ヒロさんと訪問し、それぞれの集会所でブレスレット編みなどを行いました＝写真。仮設住宅に暮らす大人も参加し、なごやかで落ち着いた時間の中で、復興住宅への転居によってコミュニティが再び失われてしまうことへの不安や震災からこれまでの暮らしへの思いなど、様々なことが話し合われました。



※朝日新聞厚生文化事業団に寄せられた東日本大震災救援募金によって12年度から運営されてきたNPO法人子どもグリーフサポートステーションとの協働は、2014年末を持って終了しました。当事業団は、今後も様々な団体などと連携して子どものグリーフ事業に取り組んでいきます。

## 子どもグリーフサポートトレーナー養成研修

当事業団主催、米国キッズ・ハート・ツー・ハワイ協力

### ●グリーフを背負った全国の子どもたちに

東日本大震災で喪失を体験し、安心できる居場所を必要とする子どもたちは全国に散らばっています。一人でも多くのそうした子どもたちにサポートを届けることを私たちは目指しています。また、自死や交通事故、虐待などで喪失体験をした子どもたちにもこの実践を役立てたいと考えています。

こうした思いで、全国各地ですでにグリーフサポートを実践している人を対象に、「トレーナー養成研修」を開始しました。

講師は、キッズ・ハート・ツー・ハワイのシンシア・ホワイトさんと伊藤ヒロさん。アシスタントは「だいじな人を亡くした子どもの集まり」のファシリテーター、小嶋リベカさんで、2ヶ年にわたる全4回の研修会です。



初回は11月22日～24日に朝日新聞東京本社で開き、北海道、宮城県、東京都、大阪府、福岡県の団体などから14人が参加。喪失を体験した子どもを支えるために欠かせないグリーフとトラウマの知識や安心・安全を子どもが感じられるプログラムを行うためのスキル、支援者が自分自身に向き合う技術のトレーニングなどを、指導者としての視点で学びました。

以後の研修会は、15年6月と11月、16年6月に実施する予定です。

2年間にわたる研修を経て、グリーフサポートのトレーナーとなるみなさんが各地での取り組みをさらに拡充するとともに、自らが指導者となって後継を育て、質の高いグリーフサポートを実践できる人が全国に増えることを期待しています。

## グリーフキャンプ

当事業団、日本キャンプ協会、日本YMCA同盟主催

東日本大震災で大切な人を亡くした子どもが、その喪失を現実として受け入れることができるように、その過程に寄り添い見守る――。

震災から4年目を迎える14年度のグリーフキャンプは静岡県富士宮市の朝霧高原で、14年9月13日～15日の2泊3日と15年3月28日～31日の3泊4日の2回、開催しました。参加したのは震災で両親を失い、当事業団から「こども応援金」を贈られた小学2年生から中学3年生で、それぞれ7人と13人の子どもたちです。



岩手県、宮城県、福島県の各地から新幹線を乗り継いでたどり着いた朝霧高原では、雄大な富士山が迎えてくれます。宿泊する静岡県立朝霧野外活動センターでは、静岡県キャンプ協会を核としたスタッフに見守られながら、ハイキングやアイススケート、野外炊事などでキャンプ生活を楽しみました。続けて参加してくれている子どももいることは、このキャンプが安心できる空間となっている証しと言えるでしょう。

これから生きる長い年月、彼ら、彼女たちのそばには、いつもそんな空間と人が存在するような社会を育む必要があります。今後もさまざまな取り組みで、子どもたちのグリーフに向き合える取り組みを続けていきます。

震災から1年経った2012年3月、10人の子どもたちと台湾で初めて行ったグリーフキャンプから3年。その間6回開催したキャンプには、計80人の子どもたちが参加しました。東日本大震災に際してみなさまから寄せられた救援募金をもとに、日本キャンプ協会、日本YMCA同盟とともに実施してきた当事業は、14年度をもっていったん終了いたします。上記のとおり、東日本大震災で大切な人を亡くした子どもたちに寄り添うさまざまな取り組みは、今後も続けてまいります。

## 被災地ビジット（青森・宮城・岩手22カ所）

当事業団主催

東日本大震災のため、不自由で不安な生活を強いられている方々が少しでも心豊かなひとときを過ごせるように、「被災地ビジット」を14年度も実施しました。高齢者施設訪問「ゆうゆうビジット」にご協力をいただいている、千住真理子さん、川島成道さん、おおたか静流さん、大友剛さんらと共に、青森県、宮城県、岩手県の被災された方々を訪れました。

### ●川島成道さん、永田美穂さんが中学生へエールを

バイオリニストの川島成道さんとピアニストの永田美穂さんが6月26、27日に、岩手県大船渡市と陸前高田市の3か所の中学校でミニリサイタルを開きました。

陸前高田市の高田東中学校では、約200人の生徒らを前に7曲を披露。クラシック音楽だけでなく、「ムーンリバー」や「サンライズ・サンセット」といった映画音楽も演奏しました。高田東中の校庭に建つ仮設住宅で暮らす89世帯の住民の一部の方も一緒に参加して音楽を楽しみました。



大船渡市の末崎中学校と大船渡中学校でも、普段はあまり触れることのない本物のクラシック音楽に生徒らが熱心に聴き入りました。川島さんは、自分とバイオリンの出会いについて語り、「生きていくうえで一生続けていくものと出会ってほしい。1日1日を頑張って積み重ねていくことが大事」と中学生たちにエールを送りました。

川島さんと永田さんは「朝日のあたる家」でも演奏会を開き、小学生から高齢の方まで地域の方々約40人が、生で聴くバイオリンとピアノの音色を堪能しました。

### ●子どもから高齢者、障害のある人へ、千住真理子さんと山洞智さんが届けた音楽

8月28、29日には、バイオリニストの千住真理子さんと、ピアニストの山洞智（さんとうさとし）さんが、宮城県石巻市と女川町を訪問しました。保育園の子どもたちから介護老人保健施設に入所する高齢者まで、幅広い年齢層の方々にミニリサイタルを開きました。いまだに不自由な生活を強いられている方々に音楽を届けるため、仮設住宅も訪問。石巻市流留地区にある内田仮設住宅には、少し離れた女川町の住民が生活しています。仮設住宅の集会所は、詰めかけた20人の住民らでいっぱいになりました。千住さんと山洞さんは「アメイジング・グレイス」や「愛のあいさつ」など8曲を披露。「歌の中には誰にも壊すことのできない美しい風景があります」と紹介して演奏した「浜辺の歌」には、目に涙を浮かべながら聴き入る方もいました。

千住さんと山洞さんは11月に、「被災地ビジット」では初めての県となる青森県の八戸市などを訪問しました。

12日に、八戸市の湊高台保育園を訪問。湊高台保育園の前身の園は、海の間近にあったため

園舎内に津波が浸入してしまい、12年5月に現在の高台に移転しました。

千住さんは、園児ら約100人を前に「もみじ」など6曲を演奏。最後に「皆さんが楽しい気持ちになるような曲」と「愛の喜び」を披露し、加賀昭子園長は「震災から3年たっても心を寄せていただき、人と人とのつながりに感謝します」と述べました。

湊高台保育園での開催を知った湊小学校校長の田中昭子先生が「ぜひ当校にも」と声をあげ、湊小学校への訪問もかないました。

そのほか、浜市川保育園と障がい者施設妙光園も訪問し、被災地で暮らす、子ども、高齢者、障害のある人へ音楽を届けることができました。



### ●「それでもここに来てくださってありがとう」

おおたか静流さん、大友剛さんが宮古の保育所、グループホームを訪問

歌手のおおたか静流さんとミュージシャンでマジシャンの大友剛さんは、9月10、11日に岩手県宮古市の保育所3か所と、高齢者のグループホーム2か所を訪問しました。

10日に訪問した宮古市の新里保育所では、子どもら50人と一緒に、テレビでおなじみの「でんでらりゅうば」や「ちゃわんむしのうた」などを歌ったり、踊ったりして楽しみ、大友さんが翻訳した絵本「ねこのピート」の読み聞かせやプレゼントの贈呈などもありました。

グループホームさくらつつみでは、大友さんのピアノにあわせて、おおたかさんが「浜辺の歌」を歌うと、着席して聴いていた入居者が舞台へ飛び出して来て、おおたかさんと手を組んで一緒に歌い出すという楽しいハプニングが起きました。



東日本大震災からちょうど3年半にあたる11日には、「グループホームたろう」を訪問。震災の起きた14時46分には、追悼の意を込めて「ふるさと」を演奏。入居者や集まった近所の方々から約60人の大合唱となりました。

この2日間で訪問した施設には、津波による直接の被害はありませんでした。しかし、震災当初は怖い思いをした子どもばかりです。園やグループホームは残っていても、家が被災している方々もいます。大きな被害がなかったために、今までこのような訪問はほとんどなかったそうです。私たちは、支援がなかなか届かない方々にも、安心できる、心豊かな時間を届けたいと考えています。訪問する先々で「もっと大きな被害を受けたところはあるのに・・・」という言葉が聞きましたが、その最後にはいつも「それでもここに来てくださってありがとう」という言葉が続きました。「ここに何うことに決めて良かった」と思える瞬間でした。この言葉に後押しされ、「支援を継続したい」と願う協力者の皆さんと共に、15年度も引き継ぎ、被災地のさまざまな場所を訪問する予定です。

14年度は、福祉フォーラム・東北、女川町社会福祉協議会、石巻市で避難所にいる時から支援を継続している団体「チームわたほい」、青森県すこやか福祉事業団など、現地で活動している皆さんのご協力をいただき、計22カ所を訪問しました＝表。11年度からの通算の訪問先は95カ所になりました。

	訪問者（敬称略）	訪問日	地域	訪問先
1	川畠成道・永田美穂	6月26日	岩手県大船渡市	末崎中学校
2		6月26日	岩手県陸前高田市	高田東中学校
3		6月26日	岩手県陸前高田市	朝日のあたる家
4		6月27日	岩手県大船渡市	大船渡中学校
5	千住真理子・山洞智	8月28日	宮城県女川町	女川町地域福祉センター
6		8月28日	宮城県女川町	女川町地域医療センター
7		8月28日	宮城県女川町	介護老人保健施設のぞみ
8		8月29日	宮城県石巻市	内田仮設住宅
9		8月29日	宮城県石巻市	仮設大森第3団地
10		8月29日	宮城県石巻市	渡波保育所
11	おおたか静流・大友剛	9月10日	岩手県宮古市	新里保育所
12		9月10日	岩手県宮古市	グループホームさくらつつみ
13		9月10日	岩手県宮古市	花輪保育所
14		9月11日	岩手県宮古市	佐原保育所
15		9月11日	岩手県宮古市	グループホームたろう
16	千住真理子・山洞智	11月11日	青森県弘前市	通勤寮拓心館
17		11月11日	青森県青森市	青森山田保育園
18		11月11日	青森県青森市	障害児入所施設八甲学園
19		11月12日	青森県八戸市	湊高台保育園
20		11月12日	青森県八戸市	障がい者支援施設妙光園
21		11月12日	青森県八戸市	八戸市立湊小学校
22		11月12日	青森県八戸市	浜市川保育園

## 東日本大震災救援事業へのご寄付、14年度は2300万円

14年度の朝日新聞厚生文化事業団の東日本大震災救援事業に寄せられたご寄付は2359万9869円に上りました。東日本大震災救援募金（震災直後から12年3月末まで実施）も含めたご寄付の累計は14年3月末現在で約9万件、総額36億9625万8211円となりました。

13年度までの年度別では10年度が17億1703万9856円、11年度が17億9627万3050円、12年度が1億1362万4052円、13年度が4572万1384円でした。

### 【ご参考】

#### ●事業団一任のご寄付の用途

東日本大震災救援募金（12年3月末まで）は、11年7月から原則として朝日新聞厚生文化事業団独自の震災救援事業のためのご寄付に切り替えさせていただきました。東日本大震災救援募金のうち、用途について「朝日新聞厚生文化事業団に一任する」というご意思が確認できたご寄付と、当事業団の震災救援事業へのご寄付を合わせて、「こども応援金」「子どもグリーンステーション」「グリーンキャンプ」「朝日のあたる家」「障害当事者派遣プロジェクト」「被災地プロジェクト」など、当事業団独自の被災者救援事業に充てさせていただきます。

#### ●お預かりしたご寄付の配分

救援募金のご寄付のうち、いわゆる「義援金」として寄託された分や、用途についてのご意思が確認できない分は「お預かりしたお金」として総額24億6991万9348円を12年10月までに配りました。内訳は以下の通りです。

- ①岩手県災害義援金募集委員会、宮城、福島両県災害対策本部に各2億円の計6億円（11年4月）
- ②宮城県（災害孤児・遺児支援基金）2億5千万円、岩手県（いわての学び希望基金）2億円、福島県5千万円の計5億円（11年7～8月、いずれも震災で親を亡くした孤児・遺児のための用途指定）
- ③日本赤十字社に4億6741万9348円（11年3～4月と7月、12年3月、4月、10月）
- ④宮城、岩手、福島、茨城の各県社会福祉協議会に各1億円の計4億円（11年3月）
- ⑤宮城、岩手、福島県の各共同募金会に被災した施設・団体への助成金として各1億円の計3億円（11年11月）
- ⑥災害ボランティアセンター運営費として被災地の市区町村社会福祉協議会70団体に計1億9千万円（11年5～8月）
- ⑦福島県内の社会福祉施設に放射線量測定器計250台を配るため同県社会福祉協議会に1250万円（11年7月）

# 子 ど も の 福 祉

## 児童養護施設・里親家庭の高校生進学応援金

当事業団主催

2015年春に高校を卒業し、児童養護施設や里親家庭から、夢の実現に向けて大学や専門学校に進学する高校生に対して、入学時に必要な入学金など、最大100万円を贈る「児童養護施設・里親家庭の高校生進学応援金」を実施し、内定者のうち辞退者2人を除く24人に合計約1000万円を贈りました。



3月23日、24日には、「進学応援金の集い」を開催し、贈呈対象者のうち22人が参加しました。23日は東京都品川区大井町のホテル・アワーズイン阪急で、前年度に応援金を受けて進学した3人と、児童養護施設や里親家庭で育ち進学している学生や社会人の先輩3人も加わって、将来の夢や希望、施設を出る不安などをグループごとに語り合いました  
＝写真。



児童養護施設などから進学する人たちには、同じ立場の人と思いを共有したり、不安を分かち合ったりできるこの「集い」のような機会がほとんどありません。

これまでの集団生活から一人暮らしになることへの不安、学費や生活費の工面の実際、親との関係やそれぞれの生き立ちなど様々なテーマについて真剣な話し合いが行われました。



参加者が思いを書きこんだ手形

話し合いの後は、思いを書いた手形作りやプレスレットの製作、シンガー・ソングライターの高橋涼子さんによるコンサートを楽しみました。

翌日は東京ディズニーシーを観光しながら、更に親交を深めました。

### ●社会的養護で暮らす子どもの進学

児童養護施設には約3万人の子どもが暮らしています。この子どもたちの高校卒業後の進学率は約2割で、全国の高校卒業者の平均と比べると大きな開きがあります。中学を卒業して就職する子ども、高校を中退する子どもも少なくありません。虐待など、さまざまな困難を経た子どもたちにとって、「進学」はまた困難なものとなっています。進学後も親などに頼ることがで

きないために、経済的に困窮したり孤立したりして、中退せざるを得なくなる子どももいます。

進学応援金は、当事業団の創設80周年の記念事業として2008年に始まりました。これまでに贈呈を受けた126人全員を対象に事業団が行ったアンケートでは、夢や目標に向かって仕事や勉強に取り組み、生き生きとした生活を送っている姿の報告がありました。しかし一方では、生活費や学費を稼ぐことが困難な様子や頼る人がおらずに孤立してしまう姿、無理をして心身を病み休学せざるを得なくなった状況などもつづられています。

#### アンケートの回答の一部

- ・現在はアルバイトで経済的に生活していくことで精一杯の状況。
- ・生活費にゆとりはなく将来的にも不安。 ・金銭のやりくりをすることが想像以上に難しい。
- ・施設を出てしまうと守ってくれる人が誰もいないということを痛感しています。
- ・同じ境遇の人たちとのネットワークがもっとあれば新生活を迎えやすいのかなと思います。

#### ●多くの子どもが安心できる社会に

「施設で育っても安心して大学まで進学できるような制度が整っていたらいいと思う。施設から大学進学が当たり前な世の中になってほしい」。アンケートには、これから児童養護施設などを巣立つ子どもを応援したいという意見も多く寄せられました。

この進学応援金で支援ができる子どもの人数には限りがあり、申込者の多くにやむを得ずお断りをしなければならない状況が毎年続いています。限られた人数ですが、贈呈した一人ひとりの未来が拓（ひら）かれることが、私たちの何よりの願いです。そして、彼らが自立して暮らし、社会的養護で暮らす子どものために社会に働きかけ、影響を与えてくれればと期待をしています。

多くの子どもたちが安心して自分の未来を描ける社会が実現されることを目指し、今後もこの課題に取り組んでいきます。

## 社会的養護の当事者グループ全国ネットワーク「こどもっと」

当事業団、社会的養護の当事者グループ全国ネットワーク「こどもっと」主催

#### ●全国ネットワークで情報交換

児童養護施設や里親家庭で暮らしたことのあつた人たちが中心になって活動するグループと朝日新聞厚生文化事業団が、社会的養護の当事者グループ全国ネットワーク「こどもっと」を2010年4月に結成。全国の当事者活動の活性化のために、情報交換やピア・キャンプ、研修会などを行っています。

当事者活動は、社会的養護を巣立った人たちによる支え合い、「ピアサポート」を中心とした活動です。同じように社会的養護で育った先輩たちが、「当事者」であるという強みを活かして、経験した喪失や苦しみ、悲しみ、喜びなどを



安心して共有できる場を各地で作っています。子どもや若者は、安心できる環境の中で、自分自身のストーリーを語ることで、過去や今の自分を少しずつ整理していくことができます。

### ●当事者活動の全国ネットワークで目指すこと～マニフェストの作成～

米国ハワイ州のNPO組織キッズ・ハート・ツー・ハワイでトラウマケア・グリーフ(悲嘆)サポートを行うシンシア・ホワイトさんらを講師に、6月28、29日と11月22、23日に朝日新聞東京本社で研修会を実施。シンシアさんは米国の里親養育で育ち、パートナーで東京都内の児童養護施設で育った伊藤ヒロさんと一緒に、ハワイでフォスターケアの当事者団体の運営に全面的にかかわっています。

研修会では、全国のグループのネットワークである「こどもっと」のこれからの活動のについて議論し、次の3つを柱とするマニフェストを作成しました。

- ① 私たちは、子どもの声を受け止めるさまざまな環境をつくるために行動します
- ② “自分は大切なんだ”と子どもたち一人ひとりが知るための教育を大切にします
- ③ 日本の子どもとその家族が安心して自分の人生を選択して暮らすために、私たちは制度を向上させ、社会的な資源を充実させるために行動します

### ●社会的養護と当事者の声

虐待をはじめ何らかの事情で実の親と離れて暮らさなければならない子どものために、家庭に代わる養育の場として制度的に用意されているのが児童養護施設や乳児院、里親家庭などです。こうした制度を「社会的養護」と言い、約4万6千人の子どもがこの制度を利用しながら全国で暮らしています。

虐待などの不安定な生活環境に置かれていた子どもは、心や体の成長に遅れや偏りがあることが少なくありません。そのため、安心できる環境の中で周囲の人に大切にされながら、じっくりと養育を受けることが欠かせません。

しかし第2次大戦後に「戦災孤児の保護」のために整えられ、大きな見直しを経ずにきた社会的養護は、子どもたちが安心できる暮らしや、自分らしく社会で生きるための準備をする環境を整えることができていないのが実情です。制度そのものが子どもへの「社会的な虐待状態」と言われることすらあります。

例えば、施設で暮らす多くの子どもは高校卒業と同時に自立を迫られます。中学校卒業や高校中退と同時に施設を出る子どももいます。しかし、不安定な環境に育ち、頼れる親族も、帰る場所も、お金もない彼らの多くは、努力だけでは抜け出せない大変な困難を強いられます。

この社会的養護について、構造を含めての見直しが少しずつ始まりました。

あるべき社会的養護を実現するためには、そこで暮らす子どもや暮らしたことのある人たち「当事者」の声が制度に生かされなければなりません。各地で活動を始めた、社会的養護を受けたことのある人による当事者団体が「子どもの声」を聴き、力を合わせ、様々な立場の人の協力を得ながら、社会的養護の改革の核となることが期待されます。

## ピア・キャンプの開催（静岡）

当事業団、社会的養護の当事者グループ全国ネットワーク「こどもっと」主催  
日本キャンプ協会、静岡県キャンプ協会後援、原田積善会協賛

10月11、12日にピア・キャンプを、静岡県立富士山麓山の村で実施しました。こどもっと設立以来、継続しているキャンプです。全国に暮らす社会的養護の高校生が集い、交流を通して、若いリーダーを育てることが目的です。参加者とスタッフで合わせて約30人が参加しました。2泊3日のプログラムを予定していましたが、台風の接近に伴い、安全を考慮し、1泊2日に短縮しました。



ピア・キャンプでは①高校生が楽しむこと②高校生同士や当事者スタッフがじっくりと語り合うこと③そのために少人数の班でプログラムを行うことを大切にしています。



今回も、同じような体験をしている仲間や先輩と一緒にキャンプを過ごし、関係を深め、日頃の暮らしの中で話をする機会が無かったり、話をしにくかったりすることを、安心して話し合えるよう、全体のプログラムを検討し、事前にスタッフの研修会を行うなど、準備を進めてきました。

「話したくないことはパスができる」など、安全・安心な場をつくるための最低限のルールを作ったの分ち合いの時間も作りました。

台風のために、ラフティングやキャンプファイヤーなど、一部のプログラムは中止となりましたが、「こんなに楽しかったのは久しぶりすぎて、嬉しかった」、「みんなの考えなどを聞いて共感できたことがたくさんあった」、「みんなのことがよく分かったし、みんなが私のことも分かってくれた」など、仲間と過ごした時間が有意義だったという多くのアンケートが参加した高校生から寄せられました。

## 「子どもシェルター」の講演会（新潟）

当事業団、子どもセンターぽると主催  
新潟県、新潟市、新潟県医師会、新潟県歯科医師会、新潟県薬剤師会、子どもシェルター全国ネットワーク会議、新潟県弁護士会後援

シンポジウム「帰る場所のない子どもにシェルターを！～子どもセンターぽると設立記念シンポジウム～」を4月19日に新潟市中央区の万代市民会館ホールで開催し、約130人が参加しました。

子どもシェルターとは、親による虐待や養育放棄などにより帰る場所のない子どもたちを一時的に保護する施設です。10代後半の居場所のない女子を対象としたシェルターを14年秋に設立する準備を進めていた「子どもセンターぽると」と当事業団が協働し、このシンポジウムを開

催しました。

特別公演は、ミュージシャンのおおたか静流さんとミュージシャンでマジシャンの大友剛さんのコンサート。「子どもたちが安心して暮らせるように」というメッセージが込められたステージで、会場は温かな空気でも包まれました。

続いて、日本で初めての子どもシェルター「カリヨン子どもの家」などを東京で運営する坪井節子さん（カリヨン子どもセンター理事長）が「子どもたちに寄り添う～子どもシェルターの活動」と題して講演。「子どもたちに一人ぼっちじゃないと感じてもらいたい」「東京だけではなく、各地にシェルターができればと願ってきた」と語り、帰る場のない子どもとの出会いから子どもシェルターを設立するに至った経緯を紹介しつつ、シェルターの必要性を解説しました。

パネルディスカッションでは、新潟県児童養護施設指導課長の石橋一さんが、県内の社会的養護の現状を具体的な数字を交えて説明し、「地域の方々や多くの機関の方々とスクラムを組んでやっていきたい」と意気込みを語りました。

最後に子どもセンターぼると理事で弁護士の黒沼有紗さんが「帰る場所がない子どもを助けたい、との一心で一步を踏み出した」とシェルターを設立しようと考えた思いを語り、「地域の皆様のご理解とご協力が必要です」と参加者に協力を呼びかけました。



## 第61回朝日夏季保育大学（長野）

当事業団主催。長野県、諏訪市、全国社会福祉協議会、長野県社会福祉協議会、長野朝日放送後援  
大同生命厚生事業団協賛

朝日夏季保育大学は、保育従事者の技術と教養の向上を図ることを目的にして、1954年に保育先進県と言われた長野県の諏訪市で開催して以来、今日まで継続している事業です。14年度も諏訪市の駅前市民会館で7月25、26日に開かれ、保育士をはじめ、幼稚園の先生ら、「乳幼児の健やかな育ち」を願うのべ約900人が参加しました。

オープニングは、食育ジャーナリスト砂田登志子さんによる講演「食は元気の素・いのちの素・幸せの素」。砂田さんは、「野菜の命 魚の命 みんなの命をいただいて ぼくらの身体をつくるんだ」というフレーズが入る「いのちの歌」を例にして、食べ物でつながっていく「命」の営みを子どもたちに分かりやすく伝える工夫について話しました。「頭、喜、豊、登の4文字すべてに豆が入っている。豆はすばらしい食べ物。活性力になる」というように、漢字の成り立ちを使うことで「食」の大事さについて子どもたちに伝えていけることを説明しました。

続いて、東京家政大学の増田まゆみさんは、2015年から始まる「子ども・子育て支援新制度」のポイントを解説。さらに保育における「真」とは何かを、受講者に問いかけました。保育園でのお散歩などの日常の様子をビデオ映像で見せながら「先生の思いと子どもの関心ごとは異なることもある。お散歩の中でも子どもは多様な経験をしている。日常の中の子どもの育ちには、た

くさんの意味がある」と話しました。新制度の基本的な考え方にも触れながら「就学前に多様な経験をして学びを身に付けていくことが小学校へつながっていく。そんな“保育”をすることが大事」と訴えました。

保育大学初日の最後は、新たなスタイルの「子どもに学ぶ保育講座」。60回以上積み重ねてきた保育大学では、今まで様々な講義を通し、子どもと関わるうえで欠かせない理念や、虐待や貧困、保育制度といった時事的なテーマを受講者と共に考え、学ぶことでご好評をいただきました。

一方で、日々の保育現場で子どもたちを前にして、具体的に何をどのように伝えるか、という「実践性」について、より深く学びたいという声も多くいただいていた。「子どもに学ぶ保育講座」は、そんな声にお応えするため、新しい試みとして14年度から始めたものです。この試みは、「明日の保育に活かせる質の高い実技」を身に付けていただくため、会場内での講義だけでなく、講師が実際に保育園へと出向き、子どもを前に公演を行うその姿からより実践的に学ぼうという講座です。

第1回の講師は、廃品打楽器奏者の山口ともさん。山口さんには6月に、諏訪市内の保育園2か所に出向き、「ガラクタ音楽会」を開催していただきました。廃品で作った楽器を演奏したり、ペットボトルの中に各自好きなものを入れて作ったオリジナルシェイカーを使って体を動かして演奏したり、子どもたちと一緒に新聞紙を使って音を出したりして楽しみました。その様子を撮影し、編集したビデオの映像を保育大学初日に上映しました。



山口さんは、子どもがどのようなことに関心をもつのか、また身近なものを使って子どもとどう一緒に音を楽しむのか、実際の様子をビデオを通して伝えました。

当日の舞台でも、お手製の廃品楽器の数々を使って生演奏を披露。手作り楽器の説明をしながら、保育園にある身近なものを利用して、音をだしていくポイントについて解説しました。

また、新聞を使った楽器やオリジナルペッカーを受講者にも実際に手にして体験してもらい、舞台と会場が一体となった大演奏会が繰り広げられました。最後はペッカーをもった山口さんが会場内を行進。そのあとを受講者が次々に続いて歩く大行進で、初日の講義は幕となりました。

2日目最初の講義は、朝日夏季保育大学で近年特に力を入れている「発達障害の子ども」に関する講座。今年は、「保育現場での“気になる子”の理解とかかわり」をテーマに、イラストや写真、図形などでイメージを伝える「視覚支援」についておさらいし、支援の基本となる「構造化」の仕方について、横浜市東部地域療育センターの臨床心理士安倍陽子さんが実例をあげながら解説しました。安倍さんは「担任が一人で抱え込むのではなく、園全体で統一した、子どもへのかかわりやチームワークのシステム作りが必要」と、家族や他の機関と連携していくことの大切さを訴えました。

続いて、学校・家庭・福祉の現場での子どもの人権擁護活動にたずさわり、日本初の子どものためのシェルターなどを運営している弁護士の坪井節子さんが「子どもに寄り添う～虐待やいじめを受けた子どもたちとの出会いを通して～」と題して講演しました。

坪井さんは、子どもの話に耳を傾けること、子どもを尊重することが大事と語り、「生まれてきてよかったね。ありのままのあなたでいい」「ひとりぼっちじゃない」といったことを子どもに感じて欲しいと話しました。「0歳から人間としての権利を保障していくべきだ」と子どもの権利に触れながら、「子どもと大人は、対等かつ全面的なパートナー」と訴えました。

午後は、横浜労災病院勤労者メンタルヘルスセンター長の山本晴義さんの講演「保育士のためのメンタルヘルス」。山本さんは受講者同士の話し合いの時間を作りながら、「ストレス要因を知ること」「自分なりのストレス解消法をもつこと」が大切と解説しました。



第61回保育大学の最後の講座は、新沢としひこさんによるスペシャルステージ「子どもと一緒に～歌とあそびとお話と～」。新沢さんは、「みんなの心の友だちになるような歌を、ひとつでも多く届けられるように」と、自作の名曲の数々を披露。絵本の朗読も行いました。「遊びの中にある、柔軟性や創造性のある発想や、豊かな身体表現は、子どもの時代に存分に伸ばしてあげたい」という新沢さん

の思いから、手遊びや体操を取り入れて、受講者と一緒に遊ぶ場面もありました。

受講者からは「子どもと一緒にたくさん歌ったり踊ったりしたい」、「新沢さんのメッセージソング、いつも心にしみます」といった声をいただきました。

受講者が舞台へとあがる場面や、新沢さんが客席に背中を向けて、会場全員で写真を撮る場面などもあり、笑いあり、涙ありの参加型の感動のステージとなりました。



7・25 (金)		7・26 (土)	
10:10   10:30	開講式	9:15   10:45	「保育現場での“気になる子”の理解とかわり ～発達障害の子どもへの支援」 ◆安倍陽子【横浜市東部地域療育センター、 臨床心理士】
10:30   12:00	「食は元気の素・いのちの素・幸せの元」 ◆砂田登志子【食育ジャーナリスト】		昼食休憩
	昼食休憩	11:00   12:30	「子どもに寄り添う～いじめや虐待を受けた 子どもたちとの出会いを通して～」 ◆坪井節子【社会福祉法人カリヨン 子どもセンター理事長、弁護士】
13:00   14:00	「新制度スタートを前に～あらためて保育の『新』と 『真』を考える～」 ◆増田まゆみ【東京家政大学教授】	13:30   15:00	「保育士のためのメンタルヘルス」 ◆山本晴義【横浜労災病院勤労者 メンタルヘルスセンター長】
14:45   16:45	「ともとのガラクタ研修会～身近なもので音楽を～」 ◆山口とも【打楽器奏者】	15:15   16:45	「子どもと一緒に～歌とあそびとお話と～」 ◆新沢としひこ【シンガーソングライター】

## 親子で楽しむクリスマスコンサート（東京）

当事業団主催

恒例の「親子で楽しむクリスマスコンサート」を12月23日午後1時から東京・有楽町朝日ホールで開催し、家族連れら約500人がクリスマスのひと時を楽しみました。

出演したのは中川ひろたかさん（シンガー・ソング絵本ライター）と数々のあそびうたライブを行っている鈴木翼さん、あそびうたユニットのロケットくれよん（山口たかしさん、高田さとしさん）。



中川さんによる「イマジン」の演奏で幕を開け、絵本コーナーをはさみながら、中川さんのステージが続きました。その後、鈴木翼さんとロケットくれよんが登場し、あそびうたなどを披露しました。次々と子どもたちが舞台にあがり、一緒に楽しむ場面も。舞台と参加者が一緒になって歌って踊って、会場は大きく盛り上がりました。

「はじめの一步」や「にじ」、「みんなともだち」といった中川さんの名曲が披露されたところでいったん幕を閉じました。鳴り止まない拍車で再び登場した中川さんらは、アンコールとして、「クリスマスなので」と「ヤッター！サンタがやってくる」を演奏。アンコール曲も含め、計16曲が演奏されました。中川さんの世界観を堪能できる盛りだくさんの内容で、子どもも大人も一緒に楽しめるコンサートになりました。

## 第31回福祉施設絵画展（名古屋）

名古屋市児童養護連絡協議会、名古屋市知的障害者福祉施設連絡協議会主催  
当事業団後援

名古屋市児童養護連絡協議会、名古屋市知的障害者福祉施設連絡協議会の福祉施設に入所、通所する人の作品を展示する絵画展を7月下旬から8月下旬に市内の地下街ギャラリーなどで開きました。27施設から532点の応募があり、特賞6点、入選32点、佳作47点が選ばれました。

朝日新聞厚生文化事業団理事長賞は「Animals★」＝写真＝を描いた那爛陀学園（高2）の菅みずほさんが受賞しました。



# 障 害 の あ る 人 の 福 祉

## 自閉症カンファレンスNIPPON～TEACCHモデルに学ぶ実践研究会（東京）

当事業団主催、自閉症カンファレンスNIPPON実行委員会  
厚生労働省、文部科学省、日本自閉症協会、全日本手をつなぐ育成会、日本知的障害者福祉協会後援



自閉症の人たちへの支援の会議として国内最大級の「自閉症カンファレンスNIPPON 2014」を、東京都新宿区の早稲田大学で8月23、24日に開催しました＝写真。今回で13回目、全国から福祉・教育・医療関係者、家族ら約1000人が参加しました。

1989年、日本国内の自閉症の人たちへの支援が混とんとした状況の中、当事業団は米国ノースカロライナ大学で開発された包括的な自閉症支援システム「TEACCH（ティーチ）プログラム」による5日間にわたるトレーニングセミナーを日本で初めて開催しました。後に「自閉症支援の黒船」と呼ばれるこのセミナーには、創始者の故エリック・ショプラー教授はじめ、現地から3人のセラピストが来日し、自閉症支援の基礎を日本に伝えました。

14年度は、その「トレーニングセミナー」開催25周年を記念して、現在では自閉症の人たちへの支援のスタンダードといえる同プログラムの米国人トレーナー3人を招きました。2004年以来毎年、自閉症カンファレンスNIPPONのために来日し、自閉症支援の基本と新しい情報を伝えてきた米国・ノースカロライナ大学の元TEACCH部部長ゲーリー・メジボフ教授＝写真左＝と、同大学TEACCH部のセラピストのキャシー・ハーシーさん＝写真中央、同じくカイア・メイツさん＝写真右＝の3人です。



カンファレンスは、佐々木正美教授の「開会宣言」でスタート。「高機能自閉症やアスペルガーの人への高等教育」「自閉症の子どもへの社会的なかかわりの教え方」といったテーマをはじめとして、自閉症に関する最新の情報が紹介されました。

3つの分科会では合計15の国内の実践報告が行われ、各地の活動を報告するポスターセッションや入門解説講座として初心者向けの「基礎からの構造化」、「基礎からの評価と自立課題」、特別講座の「医療サポートセミナー」や「コミュニケーション機器セミナー」、それに当事業団制作の最新DVD「自閉症の人が求める支援」の上映といった盛りだくさんの内容が2日間にわたって行われました。今回も佐々木教授を中心に、延べ100人を超える若いボランティアスタッフによって運営されました。

## メジボフ教授講演会「自閉症を正しく理解すること」(大分、静岡、秋田)

当事業団など主催

ノースカロライナ大学のゲーリー・メジボフ教授が「自閉症カンファレンス」のために来日するのに合わせて、講演会「自閉症を正しく理解すること～自閉症の支援で最も大切なこと」を、8月28日に大分市・コンパルホール、30日に静岡市・しずぎんホールユーフォニア、31日に秋田市文化会館で開きました。「自閉症の人たちの学習スタイル～正しく理解する」「構造化された指導～自閉症の学習スタイルに合わせた支援」「自閉症の支援で最も大切なこと～TEACCHプログラムのコア・バリュー」という5時間に渡る3講義に、計約950人が耳を傾けました。

原因が特定できず、理解の難しい自閉症。教育現場、専門家や親にさえ正しく理解されていないことが多く、そのことが本人たちの生活する上での困難をさらに増やし、複雑にしています。適切な支援を行うために必要なことは「自閉症の人たちを正しく理解すること」です。世界的で最も認められ、実践されている自閉症の人への支援モデルであるTEACCHプログラムを、世界規格に育て上げたメジボフ教授が、分かりやすい講演を毎年日本各地で行うことにより「正しい支援は自閉症の障害を正しく理解すること」という基本を伝えてきました。

2004年度に始まった当講演会は、熊本(04年)、長野(05年)、京都(06年)、青森(07年)、奈良(08年)、札幌・沖縄県豊見城(09年)、高松(10年)、博多・宮崎(11年)、長崎・盛岡・福島・仙台(12年)、さらに鹿児島・山形・宇都宮(13年)の各市を回り、今年の3か所と合わせこれまでに計20都市で開催しました。当講演会をきっかけに、自閉症の人への支援活動が地域で根を張り充実するよう、今後も各地の関係者と協力しながら、活動を積み重ねていきます。

(各会場とも厚生労働省、文部科学省後援。大分会場はNPO法人それいゆ、当事業団主催、大分県、大分市、大分県教育委員会、大分市教育委員会、大分県発達障がい者支援センターECOCAL、大分県自閉症協会、TEACCHプログラム研究会大分支部の後援、静岡会場は静岡県自閉症協会、当事業団主催、静岡県、静岡市、浜松市、静岡県教育委員会、静岡市教育委員会、浜松市教育委員会の後援、秋田会場は日本自閉症協会、秋田県発達障害者支援センター、当事業団主催、秋田県、秋田市、秋田県教育委員会、秋田県医師会、秋田労働局、秋田LD・AD/HD親の会アインシュタインの後援)

## 朝日福祉ガイドDVD「自閉症の人が求める支援」

朝日福祉ガイドDVD「自閉症の人が求める支援～よくわかる自立のためのアイデア～」を制作、13年秋から頒布を始めました。自閉症の人、それぞれの個性に合わせた支援の基本である「構造化」を映像化した、画期的なDVDです。

①「スケジュール」や「視覚支援」などの具体的な要素を解説した「基本編 基礎からわかる構造化」②学校の教室を例に生徒に合わせた環境の作り方などを具体的に紹介した「実技編 構造化と再構造化のしかた」③さまざまなケースを収録し、共通する支援の考え方と方法、それぞれに合わせた個別の支援について、より理解を深められる「実践編 自立のための構造化」の3巻で、監修は佐々木教授とメジボフ教授。3巻セット価格10692円、各巻4320円（ともに税込み）。



## 第31回全国高校生の手話によるスピーチコンテスト（東京）

全日本ろうあ連盟、当事業団、朝日新聞社主催。厚生労働省、文部科学省、テレビ朝日福祉文化事業団、日本手話通訳士協会、全国聾学校長会後援。NEC協賛。東京都聴覚障害者連盟協力

手話の普及とボランティア活動、福祉教育の推進を目的に1984年から始まった「全国高校生の手話によるスピーチコンテスト」。31回目となった今回は、8月30日に東京都中央区の有楽町朝日ホールで開催しました。全国の応募者99人から原稿と映像の審査を経て選ばれた高校生10人が約500人の来場者の前で、手話と音声と同時に使ったスピーチを披露し、日ごろの練習の成果を競いました。

第1位には高知県立安芸高校3年坂本龍成さん＝写真上＝が輝きました。坂本さんは「手話の全国普及を目指して」と題して、聾青年部のキャンプで言葉が通じなかった経験をスピーチ。最後は「聴覚障害者のみなさんが全国どこにいても手話でコミュニケーションをとることができ、疎外感や孤独を感じることなく、安心して暮らせる社会になってほしい」と力強く述べました。

2位の東京都立墨田川高校3年、道見優奈さん＝写真中＝は、「食べ物の持っている力」と題して、管理栄養士になる夢を主張。3位の神奈川県立横浜南陵高校2年、今野衣都美さん＝写真下＝は、「通じ合うしあわせ」と題して、聴覚障害者との交流が、手話への向き合い方を変えるきっかけになったことをスピーチしました。

入賞者には賞状とトロフィー、協賛のNECからノートパソコンやタブレットなどの賞品が贈られました。また、参加者全員にNECからコンテス



トの録画DVDが贈られました。

今回は秋篠宮ご夫妻の長女眞子さまが出席し、開会式では手話を交えて「出場されるみなさまには、自分の思いや考えを豊かな手話で表現していただきたいと思います」と出場者へエールを送りました。

特別プログラムでは、第22回の入賞者で、現在ろう女優として活躍している貴田みどりさんが「人生が180度、変わる瞬間」をテーマに講演。「手話との出会いで人生が大きく変わった」と手話で語りました。

審査員は小椋英子・日本手話通訳士協会会長、竹垣守・厚生労働省障害保健福祉部企画課自立支援振興室長、粟野達人・東京都聴覚障害者連盟会長、久松三二・全日本ろうあ連盟常任理事・事務局長、西滝憲彦・全日本ろうあ連盟京都事務所長、各務滋・朝日新聞論説委員のみなさんに務めていただきました。



3位までを除く入賞者と出場者は次の通りです。(敬称略)

奨励賞＝石川真実(滋賀県立八幡高校3年)、切通幸太(福岡県立久留米筑水高校3年)

出場者＝北谷柚衣(北海道札幌平岸高校3年)、佐伯瑞穂(宮城県・クラーク記念国際高校3年)、

勝浦梨乃(東京都・玉川学園高等部3年)、竹下美咲(大分県・楊志館高校3年)、

知念優華(沖縄県立陽明高校3年)

## 講演会「高次脳機能障害の当事者が伝えたいこと」(鳥取・熊本・千葉)

当事業団など主催。日本脳外傷友の会、大同生命厚生事業団(鳥取、千葉)後援

交通事故や病気で脳を損傷した高次脳機能障害の人たちは、日常生活の中でさまざまな問題に直面しています。当事業団では、当事者とその家族、医療・福祉関係者らを対象に、2009年度から高次脳機能障害の人たちを支援する講演会活動に取り組んでいます。14年度も「高次脳機能障害の当事者が伝えたいこと」と題し、鳥取、熊本、千葉の各県で講演会を開催しました。

### ●鳥取

7月19日、米子市の国際ファミリープラザ・ファミリーホールで、高次脳機能障害講演会「当事者が伝えたいこと～ここで暮らしたい」(当事業団、高次脳機能障害者家族会主催)を開催し、関係者を含め70人が集いました。

まず、橋本圭司・国立成育医療研究センター発達評価センター長＝写真＝が壇上に立ち、高次脳機能障害の症状と対応の仕方を説明しました。ある調査では、小、中学生で発達障害のある人は60万、高次脳機能



障害のある人は50万、認知症のある人は460万、合わせると推定600万余りの人が脳に何らかの障害があるとのこと。緑の中を歩く「森林療法」がリハビリとして確立しているという欧

米の例を紹介しながら、高次脳機能障害という障害だけにとらわれるのではなく、体全体を使った運動の効果を述べました。

次に、くも膜下出血で高次脳機能障害になった河原雅彦さんと竹本浩司さんの二人が橋本さんと対談。高次脳機能障害の人に対して周囲の人がどういうところに気をつけてほしいかという橋本さんの問いに、記憶障害が残る竹本さんは「早口で言われると理解できない。ゆっくりていねいに話しかけてほしい」と語り、発症後も同じ職場で継続して働いている河原さんも、地域の中で暮らしていくためには「周囲の障害に対する理解が不可欠」と強調しました。

休憩をはさんで、後半は高次脳機能障害の当事者が住み慣れた街でいきいきと暮らすためにはどうすればよいのかを、地域（まち）でくらす会理事長の井上徹さんが話しました。井上さんは、これまで取り組んできた事業の経緯を語り、さまざまな家族の問題に対応できる行政はまだ不十分としながら、高齢者や障害者、子どもを在宅支援する地域生活支援センターの設置と、高次脳機能障害などそれぞれの専門職を育成することの大切さを力説しました。

## ●熊本

9月23日、熊本市中央区の市民会館崇城大学ホールでは、当事業団と高次脳機能障害『ぷらむ』熊本の主催で講演会が催され、150人が参加しました。

国立成育医療研究センターの橋本圭司・発達評価センター長が「高次脳機能障害当事者との接し方」と題し、障害の理解と、どのように対応すればよいかを説明し、「何ができないかではなく、できることを伸ばすことが大切」と語りました。続いて、当事者の下崎智行さんとの対談＝写真＝が行われました。



下崎さんは、2004年に脳出血で高次脳機能障害を発症、記憶障害と身体障害（右半身マヒ）があります。2年半前から、就労継続支援A型事業所で、配送作業や部品の組み立てをしています。発症前に勤めていた会社から復職の話はありますが、簡単なデータ入力はできても自社製品が把握できない、また顧客の顔と名前が覚えられない、約束の時間が守れないなど、復職したくてもできない苦しい心の内を明かしてくれました。今は、毎日自宅周辺を1時間余り散歩するのが趣味。家の風呂の用意や洗濯、掃除など、日常生活でできることはやっているそうです。事業所に出かけ、同じ障害のある仲間に会えることが楽しいと顔をほころばせました。

休憩後、当事者で本格的にプロ歌手をめざす一ノ瀬たけしさんが登場し、9月に東日本復興支援で訪問した石巻市でたくさんの人たちと交流しコンサートを開いた体験を語り、デビュー曲「僕の道しるべ」などギターを弾きながら見事な歌声を披露してくれました。

続いて、熊本保健科学大学保健科学部リハビリテーション学科言語聴覚学専攻長の小園真知子さんをコーディネーターに、シンポジウム「当事者が地域で暮らすのは」を開催。国立病院機構菊池病院の医療社会事業専門員の谷所敦史さんは、障害の特性と、熊本県の相談支援体制について語り、その後、くまもと障がい者ワーク・ライフサポートセンター縁の就業支援ワーカーの原田文子さんが、医療、福祉、労働などの機関がチームとなって、就業と生活をトータルでサポートすることの大切さを訴え、前向きなサポートをしたいと語りました。

## ●千葉

3月14日、柏市のアミュゼ柏では、当事業団と東葛菜の花「高次脳機能障害者と家族の会」の主催で講演会が開催され、290人が参加しました。高次脳機能障害の当事者がどのようにすれば自立した生活をおくることができるかをテーマに講演・対談とシンポジウムの2部構成でした。

前半の講演では、国立成育医療研究センターの橋本圭司・発達評価センター長が「当事者とどのように接すればよいのか」というテーマで、当事者が示す様々な症状やサインを客観的、冷静に捉えることの必要性や、当事者とよりよくかかわるための多面的な支援方法について説明しました。

その後の、2001年の交通事故で高次脳機能障害になり、現在は高齢者施設で働いている綿貫吉典さんとの対談では、個々の困難の程度に合わせ報酬や形態を決め働くことを支援する「ユニバーサル就労」を焦点にして話し合われました。

後半は千葉県千葉リハビリテーションセンター・高次脳機能障害支援センター長の大塚恵美子さんをコーディネーターにシンポジウムがありました＝写真。



シンポジウムでは、成年後見制度を使いながら家族と離れ自立生活する高次脳機能障害の当事者の谷田部明さん、谷田部さんを支援する「生活クラブ風の村とんぼ舎かしわ」所長の宮城和子さん、そしてグループホームで生活する内木泰広さん、内木さんの母親の千鶴子さん、高次脳機能障害支援コーディネーターの橋縁(はしゆかり)さんのみなさんが登壇。「自立して生活するということはどういうことなのか」についてさまざまな切り口で話し合われました。

## うつ病についての講演会（岩手、東京、大阪）

当事業団など主催。地域精神保健福祉機構、全国精神保健福祉会など後援

うつ病への理解を深め、うつ病の人を支える仕組みを考える講演会を盛岡、東京、大阪で開催し、合わせて約530人が参加しました。

## ●盛岡、東京会場

東日本大震災の後、被災地で発病が予想されたうつ病などを早期発見するため、地域における住民の心のケアに取り組む仕組み作りが行われてきました。

その取り組みを例として、住民の「こころ」を支えていくための地域精神保健のあり方を学ぶ講演会「うつ病の予防と早期発見～被災地の喪失への支援を被災地に学ぶ～」を5月25日に「岩手・プラザおでって」で、10月19日に東京・浜離宮朝日ホールで開催しました。保健師などの支援者や一般の方々など、両会場とも約170人が参加しました。

盛岡会場は、岩手県こころのケアセンターと共同主催で開催しました。国立精神・神経医療研究センターの大野裕・認知行動療法センター長が、被災地での支援を例に、うつ病の予防と早期

発見について講演し、岩手県こころのケアセンターの大塚耕太郎・副センター長、岩手県大船渡保健所の保健師岩渕恵子さん、宮城県女川町の保健師佐藤由理さんがそれぞれの地域での取り組みを紹介しました。

女川町では、震災後、地域の再構築を目指した「女川町こころとからだとくらしの相談センター」が作られました。行政、民間、医療機関などが連携してネットワークを築き、住民の心のケアに取り組みました。

町内を8つのブロックに分けて、各ブロックに、こころとからだとくらしの健康相談などを担当できる保健師や看護師などの「ここから専門員」を配置。民生委員やボランティアなどとも連携しながら、地域で支え合う取り組みを行っています。その中の一つが、「お茶っこ飲みすっぺしの会」。仮設住宅で暮らす住民が中心となり、気軽にお茶を飲みに来られる場所と時間を作り、「聴き上手ボランティア」の皆さんが、住民の話し相手となります。このボランティアの皆さんは、定期的到大野裕さんから専門家の研修を受けています。講演会では、「聴き上手ボランティア」の皆さんも登壇し、日ごろから啓発の為に使っている紙芝居を利用して、具体的な活動の様子を披露していただきました。

佐藤由理さんが「心のケアは被災地で特に重要とされるが、どこの地域でも大きな問題。地域全体で孤立した人を支える仕組み作りが求められている」と話しました。講演の後のパネルディスカッションでは、被災地での取り組みをモデルに、日本社会全体に支援の仕組みをどのように広げていくのか、その可能性について話し合われました。

東京会場でも、大野裕さんや佐藤由理さん、「聴き上手ボランティア」の皆さんが登壇し、福島県あさかホスピタル院長の佐久間啓さんも含めて、避難所におけるこころのケアの取り組みについて話し合われました。

(盛岡：岩手県、盛岡市、地域精神保健福祉機構、全国精神保健福祉会連合会後援、東京：地域精神保健福祉機構、全国精神保健福祉会連合会後援)

## ●大阪会場

「みんなでうつを考えよう～うつ病の人への支援～」と題し、6月21日に朝日新聞大阪本社のアサコムホールで開催し、うつ病の当事者や家族など約200人が参加しました。

講師は、大野裕さんと、漫画「ツレがうつになりまして。」の著者の細川貂々(てんてん)さんと、「ツレ」こと夫で実際にうつ病を経験した望月昭さんの3人です。大野さんが「うつ病の理解と治療」について講演した後に、「てんてん」と「ツレ」さんの二人を交えてディスカッションを行いました。

二人は、当時の心境を交えながら夫婦でうつ病にどのように向き合ってきたのかを解説。

望月さんは、うつ病になった際には「あきらめる・あせらない・特別扱いしない・できることとできないことを見分けること」「かっこつけない・がんばらない・くらべない」といったことに気をつけ



ることが大事だと話しました。「うつ病の人を支えるには、周りの人の力やコミュニティの力が大切」という大野さんの言葉を実感できた講演会になりました。

(精神障害と社会を考える啓発の会、地域精神保健福祉機構、全国精神保健福祉会連合会後援)

※講師所属は開催時現在のものです

## 視力障害の大学生のための「聖明・朝日盲大学生奨学金」(東京)

当事業団、聖明福祉協会主催

視覚障害のある大学生のための「聖明・朝日盲大学生奨学金」の第46期奨学生が決まり、貸与式が東京都内のホテルで7月5日に行われました。奨学生に選ばれたのは、稲本剛志さん(大阪青山大学)、大場一輝さん(東北文化学園大学)、川口真実さん(立命館アジア太平洋大学)、川村実さん(筑波大学理療科教員養成施設)の4人。稲本さんは小学校の教員、大場さんは精神保健福祉士、川口さんはNGO職員、川村さんは理療科教員になることを夢に、学業に頑張ります。



式典では、聖明福祉協会の本間昭雄理事長が「これから色々な苦労があるかもしれませんが、1つ1つ克服して夢に向かって頑張ってもらいたい」と祝辞を述べました。当事業団の大井屋健治事務局長が審査経過を報告したあと、厚生労働省社会援護局障害保健福祉部企画課の竹垣守・自立支援振興室長が「高い志と強い向学心を持ち、困難に打ち勝って新たな道を切り開いていただきたい」と奨学生のみなさんにエールを送りました。

この奨学金は視覚障害の学生を対象として1969年に国内で初めて設けられ、14年度で貸与者の総数は202人になりました。

## 第60回耳の日記念行事(全国)

日本耳鼻咽喉科学会主催。厚生労働省、文部科学省、日本医師会、当事業団など後援

日本耳鼻咽喉科学会は、ろうや難聴の予防と聴覚障害者に対する適切な指導・治療を図るため、3月3日を「耳の日」と定め、この日を中心に各都道府県にある日本耳鼻咽喉科学会の地方部会が、聴覚や音声の重要性の啓発や無料相談などを開催しています。

14年度も同学会東京都地方部会が、補聴器が上手に使用できない人や日常会話が聴き取りにくい人らを対象にした無料相談会を、有楽町マリオン11階の朝日スクエアで3月1日に開催、専門医が約100人の相談に応じました。

## 「心の輪を広げる体験作文」「障害者週間のポスター」(東京)

内閣府主催。当事業団ほか後援

地域や職場・学校などで誰もが共に支え合って暮らす「共生社会」の実現を目指して、障害のある人となない人との心のふれあい体験を綴った「心の輪を広げる体験作文」と、障害のある人に対する国民の理解を広めるための「障害者週間のポスター」の募集が、14年度も行われました。作文とポスターで最優秀賞(内閣総理大臣賞)に選ばれた受賞者の表彰式が12月3日、中央合同庁舎の講堂で行われました。受賞した5人には賞状と副賞が贈られました。受賞者は次のみなさんです(敬称略)。

【作文】小学生＝名古屋市立上名古屋小学校4年 宮川幸音▽中学生＝香川大学教育学部附属高松中学校1年 小原拓登▽高校生・一般＝大東啓子

【ポスター】小学生＝玉名市立玉名町小学校4年 両角藍▽中学生＝埼玉県立特別支援学校大宮ろう学園中学部3年 石渡智樹

## 第33回肢体不自由児・者の美術展(東京、福岡)

日本肢体不自由児協会など主催。厚生労働省、文部科学省、当事業団など後援

肢体不自由児・者の生きがいづくりと、障害のある人に対する理解を深めることを目的に、「第33回肢体不自由児・者の美術展」が12月10日から13日まで東京芸術劇場(東京都豊島区)の5階ギャラリーで開催されました。この美術展には、全国の肢体不自由児・者から合計750点の応募があり、その中から選ばれた入賞作品92点(特賞24点、優秀賞33点、佳作賞35点)が展示され、初日には入賞者の表彰式も行われました。当事業団からは、特賞のうち、2作品(絵画、書)に朝日新聞厚生文化事業団賞を贈りました。

同展は全国各地を巡回して実施され、15年2月23日から3月1日まで、福岡市中央区天神のアクロス福岡と福岡市役所でも開催されました。

入賞者のうち、主な特賞は次のとおりです(敬称略)。

【厚生労働大臣賞】絵画 栗山朋美(茨城県つくば市)▽書 橋本吉司(富山県・志貴野ホーム障害者福祉センター)

【文部科学大臣奨励賞】絵画 越間那央弥(鹿児島県立大島養護学校高等部2年)▽書 増田拓馬(青森県立青森第一養護学校中学部1年)

【東京都知事賞】書 滝本ひとみ(東京都・社会福祉法人ドリームヴィ書道クラブ)▽コンピュータアート 島幸恵(東京都世田谷区)



【朝日新聞厚生文化事業団賞】絵画 矢口龍（静岡県立静岡南部特別支援学校中学部1年）▽書  
蛇平蒼大＝写真＝（青森県立八戸第一養護学校小学部2年・俊文書道会）

### 第43回聴美会展（名古屋）

中部聴力障害者美術同好会主催。当事業団など後援

聴覚に障害がある美術愛好者らが自主運営する美術展「聴美会展」が7月29日から8月3日まで、名古屋市中区の名古屋市民ギャラリーで開かれました。27人から絵画、彫刻、写真などの作品約100点が集まりました。優秀作品に贈られる朝日新聞厚生文化事業団賞は、風景写真「目覚めの時」を出品した山口富男さんが受賞しました。手話サークルの支援者や障害者施設の人ら約1800人が訪れ、過去最多を記録しました。



### 第49回名古屋市障害者作品展示会

名古屋市、名古屋市身体障害者福祉連合会主催。当事業団など後援

名古屋市障害者作品展示会が15年2月3日から8日まで、名古屋市瑞穂区の市博物館で開かれました。障害のある4歳から89歳までの人が5部門305点（書道60点、絵画86点、写真41点、手芸55点、工芸63点）を出品しました。

5部門の優秀作品には当事業団が「朝日賞」の楯と賞状を贈りました。会期中に家族や友人ら約千人が訪れました。

### 第35回障害者歩くスキーの集い（札幌）

当事業団、朝日新聞北海道支社主催。三菱電機協賛

障害のある人もない人も一緒にスキーを楽しむ「第35回障害者歩くスキーの集い」を札幌市南区の滝野すずらん丘陵公園で15年1月18日に開催しました。

コースは1キロ、3キロ、5キロ、7キロの4つに分かれ、計174人が参加。それぞれのペースでゴールを目指しました。30回以上参加しているという全盲の河田厚子さん（61）は、「1時の方向に」「半歩右に」などと伴走者に声をかけられながら、5キロのコースを楽しみました。「最初は雪が降っていたので、少し疲れましたが、最後はとても気持ちよかったです」と話していました。今回も多くのボランティアが運営に加わり、大会を盛り上げました。

## 第35回朝日九州車いすバスケットボール選手権大会（熊本）

九州車椅子バスケットボール連盟、当事業団主催

第35回朝日九州車いすバスケットボール選手権大会が12月6、7日、熊本県嘉島町の町民体育館で開かれました＝写真。九州・沖縄の11チームがトーナメント方式で戦った結果、「佐世保WBC」（長崎）が2年連続の優勝を果たしました

今大会は、第13、14回（長崎がんばらんば大会）の全国障害者スポーツ大会で、2年連続3位の好成績を残した長崎県チームを引っ張る「佐世保WBC」が、大会連覇できるかどうか注目されました。

「佐世保WBC」は初戦を危なげなく勝ち上がり、準決勝では「SEASIRS（シーサーズ）」（沖縄）と対戦して62対33で決勝に駒を進めました。決勝の相手は「福岡 breez」を52対62で破り、大会通算17回の優勝を誇る「太陽の家スパーズ」（大分）。勢いに乗る「佐世保WBC」と昨年の雪辱に燃える「太陽の家スパーズ」の戦いは76対35で「佐世保WBC」が勝利をものにしました。3位決定戦は「福岡 breez」が「SEASIRS」を70対52で下しました。

上位2チームは15年5月に東京で開催予定の全国大会への出場権を獲得しました。



## 第26回九州車いすツインバスケットボール選手権大会（佐賀）

九州車椅子バスケットボール連盟、九州車椅子ツインバスケットボール委員会主催、当事業団共催

第26回九州車いすツインバスケットボール選手権大会は6月21、22日、佐賀市の佐賀県立総合体育館で9チームが参加して、熱戦が繰り広げられました＝写真。

ツインバスケットボールはフリースローサークルの中にもう一つ低いゴールがあるのが特徴です。下肢だけでなく上肢にも障害を持つ人も参加でき、日本で考案されました。高低2つのゴールがあることで、障害の重い選手もシュートを打つことができます。選手は障害の程度によって狙えるゴールが決められているなど、選手一人ひとりが障害の程度に応じて存在感を発揮でき、達成感を感じることができる競技です。

決勝は昨年、初優勝を飾り、日本車椅子ツインバスケットボール選手権で2年連続ベスト4の実力をつけた博多パトラッシュ（福岡）対、歴戦の王者、太陽の家ブレイカーズ（大分）の戦いとなりました。両チームとも相譲らぬ激戦の結果、62対60のワンシュートの差で博多パトラッシュが2連覇を成し遂げました。3位決定戦では籠球会（福岡）が78対33で福岡BEATを下しました。



# 高 齢 者 の 福 祉

## 高齢者在宅ケアモデル事業

当事業団など主催

高齢となり認知症の症状が出ても、住み慣れた家、住み慣れたまちで暮らしていける地域づくりを目指し、「認知症カフェ」を全国に広める取り組みを行っています。

その一つとして、2014年2月、南伊豆の小さな集落で、「認知症カフェ あまなつ」を地元で活動するNPO法人風楽（ふうら）とともに開設しました。

NPO法人風楽（代表・渡邊映子さん）は、障害があっても、高齢になっても、誰もが安心して生活できる地域作りを目指して、障害のある子どものキャンプや、学童保育などを行ってきました。赤ちゃんや障害のある人、高齢者など誰でも利用できる「共生型デイサービス」を14年12月に立ち上げるなど、伊豆半島の南端にある過疎の町、南伊豆町で活躍してきた団体です。

認知症カフェは、認知症の人やその家族、認知症のことが気になる地域の人やボランティア、そして医療やケアの専門職、行政担当といったさまざまな人が気軽に集まり、お茶を飲みながら語り、ひと時を過ごす場所です。情報交換をしたり、ときには個人的な悩みを相談したり、あるいは音楽やレクリエーションを楽しんだりもします。参加者が安心できる空間と時間を共有する場です。

### ●「認知症カフェ あまなつ」開設

「認知症カフェ あまなつ」は、静岡県南伊豆町子浦地区の、14年3月に廃校となった旧三浜小学校を利用して開いています。海の見える高台に校舎があり、玄関前からの景色は絶景です。改築してまだ10年の校舎の中は広い廊下が続いて天井も高く、床や扉には木が使われていて、明るく柔らかな雰囲気が伝わります。

廃校となった校舎を有効活用し、南伊豆で「認知症カフェ」を始めたい、というNPO法人風楽と当事業団の声に南伊豆町役場が賛同し、教室や水道、電気は無償での提供となり、事前の準備や地元集落への周知、当日の運営なども含め南伊豆町からは多くの協力を得ました。

2月22日に、関係者と地元の方々を招待して開所式を開催しました。地元の高齢者の方々をはじめ、南伊豆町の梅本和熙（かずひろ）町長、松本恒明副町長など、約20人が参加。

3月12日、いよいよスタートとなった「あまなつ」に、地元の方々約15人が集まりました。コーヒーや紅茶、和菓子などが用意され、それぞれ好きなものを食べながら、スタッフや参加者が一緒におしゃべりを楽しみました。



コーヒーや紅茶、お菓子などの代金はそれぞれ100円。地域の方なら誰でも「あまなつ」に参加できます。

「認知症カフェあまなつ」は、毎月第2木曜日、午後1時から開催しています。



## 高齢者プロジェクト「自分らしい人生の最終章とは？」

当事業団主催

人生の最期を自分らしく迎えるためには何が必要なのか……。本年度は「住み慣れた町で人生の最期を迎える」をテーマにして、連続講演会「自分らしい人生の最終章とは？」を大阪と東京で開催しました。

第1回は9月27日、大阪市西区の大阪YMCA会館で開き、約120人が参加。全国在宅療養支援診療所連絡会事務局長で医師の太田秀樹さんが「今なぜ在宅なのか」をテーマに講演しました。太田さん自身が制作にかかわった医師の研修用DVDなども紹介しながら、これからの在宅医療への期待を語りました＝写真上。



後半は、在宅医療や介護の問題について多くの記事を書いてきた朝日新聞横浜総局の佐藤陽記者のコーディネートで、会場の参加者から寄せられた質問に応える形で進行しました。

第2回は、大阪府中央区高麗橋の朝日生命ホールで10月25日に開かれ、医療関係者や福祉関係者を含む約170人が参加しました。前半は、白十字訪問看護ステーション統括所長の秋山正子さんと、ホームホスピス宮崎理事長の市原美穂さんの講演。後半は、朝日新聞元論説委員の岡本峰子さんがコーディネーター役となって、対談形式で会場からの質問に答えました。



秋山さんは、高齢化の進んだ東京都新宿区にある団地の戸山ハイツに2011年に開設した「暮らしの保健室」の設立背景について語り、制度の枠組みに関係なく気軽に相談できる場所の重要性について話しました。市原さんは、ホームホスピスの映像を見せながら、全国に広がるホームホスピスの地域連携の重要性について解説しました＝写真中。会場からはホームホスピスや、暮らしの保健室の運営や人材の育成についての質問が寄せられました。

第3回は11月8日に大阪YMCA会館で開催し、医師で作家の久坂部羊(くさかべよう)さんが、父親の「看取(みとり)」をテーマにして医療の無力さや死への考え方を話し、約230人が参加しました＝写真下。

久坂部さんは大阪大学医学部を卒業して医師になりましたが、



2003年に作家デビュー。14年5月に「悪医」で日本医療小説大賞を受賞しています。講演は、13年に87歳で亡くなった父親の朗らかな死を描いた最新作「人間の死に方」をベースに、前立腺がんを宣告されながらも治療を拒否した父親と自分のやりとりなどをユーモラスに語り、会場からは何度も大きな笑いがわき起こりました。聴講者からは「実体験をもとにした久坂部さんのお話しはわかりやすく、身に染みました」「死を迎える家族、自分の心構えができた気がします」といった感想が多数寄せられました。

全プログラムの日程は下記の通り（敬称略）。

#### 第1回 今なぜ在宅なのか

- 東京会場=10月12日、浜離宮朝日ホール（中央区築地） 140人  
 大阪会場=9月27日、大阪YMCA会館（大阪市西区土佐堀） 120人
- 第1部 講演 国の施策と私たちの生活  
 講師 太田秀樹（全国在宅療養支援診療所連絡会事務局長）
- 第2部 対談 国の在宅支援に私たちはどう向き合っていけばよいのか  
 講師 太田秀樹、聞き手：佐藤陽（朝日新聞横浜総局記者）

#### 第2回 これから地域で何をすべきか

- 東京会場=11月2日、浜離宮朝日ホール 200人  
 大阪会場=10月25日、朝日生命ホール（大阪市中央区高麗橋） 170人
- 第1部 講演 地域を耕す～暮らしの保健室がめざすこと  
 講師 秋山正子（白十字訪問看護ステーション統括所長）
- 講演 地域で看取る～ホームホスピスの役割  
 講師 市原美穂（ホームホスピス宮崎理事長）
- 第2部 対談 これから地域でなすべきこと  
 講師 秋山正子、市原美穂、聞き手：岡本峰子（元朝日新聞論説委員）

#### 第3回 高齢期の最終章を自分らしく

- 東京会場=11月29日、浜離宮朝日ホール 300人  
 大阪会場=11月8日、大阪YMCA会館 230人
- 第1部 講演 人生の最終章を幸せに生きる  
 講師 久坂部羊（医師・作家）
- 第2部 自分らしい最期を迎えるために  
 講師 久坂部羊、聞き手：石井暖子（朝日新聞文化暮らし報道部次長）

## おひとりさまの認知症と成年後見制度

当事業団主催

ひとり暮らしの高齢者が認知症になったり、自身での判断が難しくなったりした場合に、自分に代わって契約や財産などの管理をしてもらう成年後見制度について学ぶ講演会「おひとりさまの認知症と成年後見制度」を、大阪市西区の大阪YMCA会館ホールで2月21日に開催しました。会場には約160人の市民が集まりました。

講師は司法書士の村山澄江さん、ノンフィクション・ライターの中澤まゆみさん、社会福祉士の田村満子さんの三人。村山さんは、「今日から成年後見人になりました」の著者で、成年後見制度の仕組みや利用の仕方について分かりやすい解説が好評の若手司法書士です。すでに判断力が衰えている人のための「法定後見」と、現状はまだ判断力に問題がない人が行う「任意後見」の違い



や、後見人にはどのような人がなっているのか、また費用や報酬についても解説しました。

中澤さんは、知人の女性の成年後見を引き受けた実体験を詳しく紹介。成年後見人を受け入れるということのリアルな現状について報告をするなかで「今は、後見人を続けてよかったと思っています」と振り返りました。認知症のケアなどに悩む人たちに対して「自分だけで背負い込まないで。周りの人に助けてと言って下さい」と訴えました。

田村さんは、ご近所の一般市民が後見人を行う「市民後見人」について、大阪府の実情を解説。同じ成年後見でも地域ごとに取り組み方が違う点などをわかりやすく説明しました。

後半の第二部では、参加者からの質問を受け付け、「信頼できる後見人は、どう探せばいいのか?」、「本人が後見をいやがっている場合には、どう対処したらいいのか?」といった質問が寄せられました。

この講演会は東京・築地の浜離宮朝日ホールでも3月15日に開かれ、北海道や岩手、京都などからも含めて約210人が参加しました。

東京では田村さんに代わり、認定社会福祉士で、東京・多摩地区で成年後見などのソーシャルサポートを行っているNPO法人ソーシャルネット「南のかぜ」理事長の長田さかゑさんに加わっていただきました。長田さんからは、代表を務めるNPO法人「南のかぜ」が行っている「法人後見」について解説がありました。法人後見だと、なんらかの理由で後見人個人が実務を行えなくなっても、担当者を変更する事によって後見の実務を滞りなく続けられる、といった利点などが報告されました。

## 朝日福祉ガイドブック「生き方、逝き方ガイドブック」

自分の親や伴侶、そして自分自身が最期を迎えるとき、どうすれば本人らしく、望むようなかたちの「逝き方」ができるのか。「死」や「看取り」が生活の場から切り離された近年、自分の身近な人の、あるいは自分の最期までの生き方（逝き方）をイメージすることはむずかしいものです。

いざ自分の親が認知症になったら、あるいは末期のがんと診断を受けたら、家族はどう対処すればいいのか。人生の終わりの日々をどう生きてもらい、そして最期をどう見送るか。タブー視されがちであったこの命題を、新田國夫医師の経験を踏まえて整理したのが新刊『生き方、逝き方ガイドブック～最期の暮らしと看取りを考える』です。

最期までをどのように生き、どのように逝くのか。その基本をできるだけ具体的に明らかにし、先の見通しが持てるようになることで、不安や恐れが少しでも軽減でき、親や自分自身、近しい人の最期の暮らしが、本人らしくより充実したものになるようにと願って作成したガイドブックです。

監修は高齢者の在宅ケアを東京都国立市で実践する新田國夫・新田クリニック院長。B5判108ページ、1200円+消費税。



## 高齢期の豊かなくらし研究会講演会（大阪）

高齢期の豊かなくらし研究会、当事業団主催

市民の目線に立って高齢期の問題を考え情報提供をしていこうと、学者や医療、看護、介護、福祉の専門家らが集まり、「高齢期の豊かなくらし研究会」（佐瀬美恵子代表）を2013年7月に創設しました。当事業団も同研究会と一緒に、専門家の情報交換会や市民向けの講演会を開催してきました。14年度は「認知症ケアとダンスセラピー」「大介護時代の今：介護保険は介護者を支援できるのか」「元気なときに死を語り合おう」という3つをテーマにした講演会を、大阪市北区中之島2丁目の朝日新聞アサコムホールで開催しました。

### ●講演会「認知症ケアとダンスセラピー」

認知症のケアとして注目を集めている「ダンスセラピー」の講演会を開催し、約100人の参加者がありました。

講演会の第1部では、高齢者のケアを研究する関西医科大講師の三宅真理さんが、オーストラリアの認知症ケアの実情を説明しました。日本と同様、高齢化が進むオーストラリアでは、積極的に認知症の予防に取り組むキャンペーンを行い、高齢者や障害者の生活の質を高めるための専門職「ダイバーショナルセラピスト（DT＝気晴らし療法士）」が施設に配属され、レクリエーションや創作活動、回想などを組み合わせたプログラムを行っている実情が紹介されました。なかでも認知症の当事者の主体的な活動として注目を集めているのが「ダンスセラピー」。心と身体、感覚などの総合的な体験を通じて健康と自立度を高め、人とのコミュニケーションをはかるためには、最も効果的な手段ということです。

第2部では、オーストラリアのダンスムーブメントセラピー協会のヘザー・ヒルさんが登場＝写真。ミュージシャンの奥野勝利さんも加わって、奥野さんのオリジナル曲「いっしょに踊ろう」を演奏。ヘザーさんのユーモアあふれる指導のもと、入場者も一緒になって楽しく踊りました。



### ●講演会「大介護時代の今：介護保険は介護者を支援できるのか」

10月19日に朝日新聞アサコムホールで開催しました。講師は津止正敏さん（立命館大学教授・男性介護者のネットワーク事務局長）＝写真。介護の推移と現状や2015年4月改正される介護保険の課題についての講演で、入場者は施設職員などの専門職や学生ら90人でした。

津止さんは各地で開催されているケアメン（男性介護者）のイベントに触れ、高齢の親ばかりでなく配偶者の介護など、さまざまな介護のタイプが出現し、それに伴うネットワークや家族の会が増えていると話し



ました。

参加者から寄せられたアンケートでは、「具体的な事例、統計に基づいた内容で理解を深めることができた」「在宅介護自体がSOSを求める状態にあることに改めて気づかされた」「在宅で介護をしている人が、地域の中でも安心して生活できるような仕組みを、ぜひつくってほしい」といった感想が寄せられました。

### ●講演会「元気なときに死を語り合おう」

生前に家族と死について話し合うことの大切さや、そのきっかけづくりについて、日本のホスピスケア界の草分けで淀川キリスト教病院理事長の柏木哲夫さんが、2月14日にアサコムホールで講演をしました＝写真。入場者は170人でした。



柏木さんは、1939年兵庫県生まれ。大阪大学医学部を卒業後、同大学精神神経科で心身医学の臨床と研究に携わり、淀川キリスト教病院で精神神経科を開設しました。73年に日本で最初のホスピスプログラムをスタートさせ、84年には同病院にホスピスを開設。人の生と死を見つめた経験をもとにたくさんの著書を出版しています。

講演会では、サマセット・モームや吉田松陰など過去の作家や偉人の死生観を紹介しつつ、「死というものは、生の延長上にあるのではなく、人は日々死を背負って生きている」「一枚の紙の表を生とすると、裏側には死が同時に裏打ちされている」など、死と生は表裏一体という考え方について話しました。

## フォーラム 認知症カフェを考える

朝日新聞社、当事業団、立教大学社会デザイン研究所主催

### ●大阪

「フォーラム 認知症カフェを考える2014」が7月26日、大阪市西区の大阪YMCA会館で開かれ、約420人が参加しました。「認知症カフェ」に期待される役割と課題をめぐって、専門家が議論を交わしました。厚労省は認知症施策の5カ年計画「オレンジプラン」で認知症カフェを支援策の一つに掲げ、普及をうたっています。

大阪のフォーラムでは、東京や京都などの実例が報告されました。東京都国立市にある「国立市認知症カフェ」では月1回、日曜日に約2時間、看護師らの講話をお茶を飲みながら聴く会を、市内のデイサービスセンターで開いています。主宰する医療法人社団「つくし会」理事長の新田国夫さんは、「認知症の人が住み続けられる地域をつくりたい。その支えになるものの一つが認知症カフェ」と訴えました。

### ●東京

東京会場での「フォーラム認知症カフェを考える2014」は11月9日、池袋の立教大学で開かれ、約630人が参加しました。

フォーラムでは、自治体が開くカフェとして、東京都港区と京都府宇治市、岐阜県恵那市の事例が報告されました。港区で5月から始まった「みんなとオレンジカフェ」は、4つの会場でそれぞれ月1回開催。午前10時から午後4時半まで、予約なしで参加でき、社会福祉士や看護師らのスタッフ、地元の専門医が講話や相談などにあたっています。港区高齢者支援課の保健師斎藤育子さんは「気軽に相談できる場所として定着してきている」と話しました。

## 朝日高齢者福祉セミナー2014（名古屋）

愛知高齢者福祉研究会、当事業団、朝日新聞社主催

高齢者を支える医療や福祉を考える「朝日高齢者福祉セミナー」が6月15日、名古屋市中区の朝日ホールで開かれました。「健康寿命を1日でも長くする」をテーマに講演とシンポジウムがありました。

愛知高齢者福祉研究会、朝日新聞社、当事業団の主催で約180人が参加。基調講演で岐阜大の今井一教授（保健体育）が健康に生活するための「十カ条」を説明しました。

老化スピードを早める活性酸素・フリーラジカルのメカニズムも読み解いたうえで、活性酸素を発生させない生活を心がけるために、運動の大切さを指摘。「大切なのは継続。三日坊主でいいから、それを数珠つなぎすれば継続になる」。

シンポジウムで管理栄養士の安藤京子・愛知文教女子短大教授が食生活の側面からアドバイスしました。ここでも強調されたのが継続の大切さ。「なんでも自分で調理しなければとがんばらずに、中食を上手に使って手抜きの達人でバランスのよい食事を続けましょう」。中部学院大短大部の有川一准教授は転倒・転落予防の側面から、筋力の鍛え方を具体的に指導しました。



## 高齢者施設訪問プログラム「ゆうゆうビジット」（全国16カ所）

当事業団主催

日ごろ外出の機会が少ない、高齢者向け施設の入居者や利用者らを対象に、音楽家や相撲の力士らが訪問して楽しいひと時を届ける「ゆうゆうビジット」は、2014年度で6年目を迎えました。14年度は、全国の特別養護老人ホームや介護老人保健施設など16カ所を訪問しました。

日色ともゑさんとギター・マンダリンのデュオ「マリオネット（ポルトガルギターの湯浅孝さん、マンダリンの吉田剛士さん）」が、天津市の特別養護老人ホーム「ケアタウンからさき」を4月に訪問しました＝写真。マリオネットの2人は、自作曲「南蛮渡来」や喜納昌吉さんの「花」などを演奏、日色さんは童話「白いぼうし」を朗読しました。さらに日色さんとマリオネットで童謡「月の砂漠」や「ふる



さと」の朗読、演奏を披露しました。最後は地元の大津にちなんで「琵琶湖周航の歌」を参加者全員で合唱し、会場は大いに盛り上がりました。また10月には石川県七尾市の介護老人福祉施設「秀楽苑」を訪問しました。

バイオリストの川島成道さんとピアニストの永田美穂さんは6月に、岩手県一関市の介護老人保健施設「シルバーヘルス一関」を訪問しました。11月にも熊本県八代市の介護老人福祉施設「みやび苑」を訪問し、いずれもミニコンサートを開きました。二人が演奏したのはクライスラーの「美しきロスマリン」、ワックスマンの「カルメン幻想曲」など7曲。100人を超す利用者に向けてクラシック音楽を奏で、優雅なひとときを楽しんでもらいました＝写真上。



大相撲名古屋場所を終えた高砂部屋の力士たちが7月、名古屋市の特養老人ホーム「山田清里苑」を訪問しました。訪れたのは朝興貴と朝上野の力士2人と、元力士で現在は部屋マネジャーの松田哲博さん。多目的スペースに畳を敷いて臨時の土俵を特設、集まった利用者や職員の前で力士が相撲の技を披露しました。松田さんは軽妙なトークでそれぞれの技を解説。相撲甚句も披露しました。



テレビでしか見る機会がなかった力士が実際に目の前に現れて、利用者たちは興奮気味。体を触ったり握手をしたりと、喜びが感じられました。そしてハイライトは高砂部屋伝統のちゃんこ鍋。松田さんが直々に大鍋に作ったちゃんこ鍋が全員にふるまわれ、みなさん大喜びでした。＝写真中。

九州場所が終わった11月には、福岡市の特別養護老人ホーム「油山福祉の里」を訪問。初場所が終わった1月にも、埼玉県鴻巣市の老人福祉施設「翔裕園」を訪れました。大阪場所が終わった15年3月には、奈良市の介護老人保健施設「アップル学園前」を訪問しました。

バイオリニストの千住真理子さんは、8月に仙台市の特別養護老人ホーム「一重の里」、「仙台楽生園ユニットケア施設群」、11月には岩手県二戸市の老人福祉施設「白梅荘」を訪問しました。

歌手のおおたか静流さんとマジシャンの大友剛さんは、9月に札幌市の介護老人福祉施設「たんぼの丘」と岩手県遠野市の介護老人福祉施設「やまゆりの里」を訪問しました。

12月には三重県尾鷲市の軽費老人ホーム「ケアハウスきらら」を訪問。尾鷲湾を望む高台にある「きらら」で、おおたかさんがカラスの鳴き声を披露すると、海上を飛び交っていたカラスの群れが窓に近寄ってくるというハプニングもありました＝写真下。



ギタリストの福田進一さんは、9月に兵庫県西宮市の特別養護老人ホーム「メヌエット」を訪問しました。11月に訪れた大阪市の介護付有料老人ホーム「ベルパージュ大阪帝塚山」は、偶然にも福田さんの実家の近く。利用者や施設職員のなかには顔見知りの方もいて、いつも以上に演奏に熱がこもりました。クラシックギター曲の中でも特に難易度の高いバッハの「三つのプレリュード」やモーツァルト「魔笛」などを披露。お年寄りに馴染みのある「さくら」変奏曲などを盛り込んで演奏し、最後は名曲「禁じられた遊び」で締めくくり大きな拍手喝采を浴びました。

「ゆうゆうビジット」は2010年2月に始まり、通算で84か所での実施となりました。14年度の全訪問先は次の通りです。

	訪問者(敬称略)	訪問日	地域	訪問先
1	日色ともゑ・マリアネット	4月11日	大津市	特別養護老人ホーム「ケアタウンからさき」
2	川島成道・永田美穂	6月25日	岩手県一関市	介護老人保健施設「シルバーヘルス一関」
3	高砂部屋	7月28日	名古屋市	特別養護老人ホーム「山田清里苑」
4	千住真理子	8月27日	仙台市	特別養護老人ホーム「一重の里」
5		8月27日	仙台市	特別養護老人ホーム「仙台楽生園ニッケア施設群」
6	福田進一	9月1日	兵庫県西宮市	特別養護老人ホーム「メヌエット」
7	おおたか静流・大友剛	9月1日	札幌市	介護老人福祉施設「たんぼぼの丘」
8		9月9日	岩手県遠野市	介護老人福祉施設「やまゆりの里」
9	日色ともゑ・マリアネット	10月26日	石川県七尾市	介護老人福祉施設「秀楽園」
10	福田進一	11月5日	大阪市	介護付有料老人ホーム「ベルパージュ大阪手塚山」
11	千住真理子	11月10日	岩手県二戸市	特別養護老人ホーム「白梅荘」
12	川島成道・永田美穂	11月11日	熊本県八代市	介護老人福祉施設「みやび園」
13	高砂部屋	11月24日	福岡市	特別養護老人ホーム「油山福祉の里」
14	おおたか静流・大友剛	12月15日	三重県尾鷲市	軽費老人ホーム「ケアハウスきらら」
15	高砂部屋	1月26日	埼玉県鴻巣市	老人福祉施設「翔裕園」
16		3月23日	奈良市	介護老人保健施設「アップル学園前」

# 福 祉 啓 発 ・ 公 衆 衛 生 ほ か

## 第10回自殺防止事業「病的ギャンブルの現状と対策」(福岡)

福岡いのちの電話、当事業団主催。朝日新聞社、九州朝日放送、福岡県、福岡市後援、大同生命厚生事業団協賛

福岡市の都久志会館で自殺を防ぐために何ができるのかを考える公開講座が10月25日に開かれました。精神科医で作家の帚木蓬生さんが「病的ギャンブルの現状と対策」についての講演を行い、約270人が耳を傾けました＝写真。



ギャンブル依存症の疑いがある人は、厚労省の研究班の発表によると推計536万人。成人全体の4.8%、男性に限ると8.7%を占めます。この割合は韓国の6倍、米国の3倍に当たり、世界のほとんどの国で成人の1%前後にとどまっているのと比べると、日本の割合は高水準です。また、ギャンブル依存者には多額の借金があるという報告もあり、1年以内に自殺を考えた人の割合は一般の人と比べ約10倍、生涯では約40倍になるともいわれています。

帚木さんによると、ギャンブル嗜好は男性の場合18歳(女性は24歳)から始まり、27歳(女性は31歳)でギャンブルによる借金を負うことになるそうです。パチンコ、スロットに依る人が9割を超え、依存者はウソと言いついで人格が変わってきます。周りの多くの人を巻き込み(特に配偶者)、悩みから病気にもつながります。ですが、本人はギャンブル中毒で脳の判断力が偏り、ギャンブル以外のことではケロッとしています。

帚木さんはギャンブル大国である実態が日本社会で認識されていないと述べ、精神科医や行政の不作為、警察、法律家たちなどの怠慢を指摘。これ以上被害者を増やさないために、依存症の予防と早期発見への環境作りをする必要があると指摘しました。

わが国の年間自殺者数は、4年連続で減りましたが、依然として多くの人が自殺で亡くなっている現実には変わりはありません。尊い命をなんとか守れないか、私たちにできることは何なのかを考えさせられる講演でした。

## いのちの電話などに福祉助成金(福岡)

当事業団では、福岡県内で地道な社会福祉活動が続け、継続的な支援が必要な団体を支援するための助成を続けています。助成金は運営費として活用できます。

ボランティア相談員が年中無休の24時間体制で電話相談に応じ、さまざまな事情から自殺を思うほど精神的危機に直面し、失いかけた生きる力



の回復を手伝う努力をしている、福岡いのちの電話（福岡市）と北九州いのちの電話（北九州市）、さらに交通事故遺族の救済、福祉更生の援助や慰霊祭、励ます会、就学援助、奨学生の推薦などを行っている、福岡県交通遺児を支える会（福岡市）の3団体に各15万円を贈りました。贈呈式は15年3月10日に朝日新聞西部本社で行いました＝写真＝3月11日朝日新聞朝刊福岡版。

## アサヒベビー相談室（大阪、高槻、大津）

当事業団主催

育児に悩む親のために、デパート内に無料の育児相談室を設け、医師や歯科医師、栄養士などの専門家が、病気や発育、栄養などの相談を行っています。実施場所は、大阪市をはじめ、大阪府高槻市や大津市にある三つのデパートです。

近鉄百貨店阿倍野店では、1957年に全国で初めてデパート内に無料の相談室を開設しました。2014年春にあべのハルカス近鉄本店としてリニューアルオープンし、2年目を迎えました。清潔感があって明るく快適な相談室には、大勢の相談者が訪れています。ここには、大阪市立大学医学部付属病院小児科の医師のほか、栄養士やカウンセラー、ヨガインストラクター、小児歯科医師といったさまざまな専門家が揃っています。秋（9月）と春（3月）には、保育の専門家によるパネルシアターや手遊び、管理栄養士による「離乳食講習会」など、ファミリーで参加できるイベントや父親向けの講座なども開催しています＝写真上。



04年に相談室を開設した西武百貨店大津店では、2014年秋に子ども用品売場をリニューアルしたのにあわせて、子育て支援施設「育（はぐ）ママセンター」が新設されました。この一角で、第1、3日曜日に、専門相談員が子育ての先輩の立場からアドバイスをするベビー相談を実施しています。リニューアル記念として人形劇団を招いてのイベントを開催しました＝写真下。



西武百貨店高槻店（1974年開設）では、毎週木曜日に小児科医が相談にあたり、地域に根差した運営を続けています。

各相談室の利用者数は次の通りです。

- ・あべのハルカス近鉄本店 1,105人（1回平均13.2人）、ミニ講演会 275人
- ・西武高槻店 380人（1回平均7.8人）
- ・西武大津店 98人（1回平均4.1人）

## 第66回保健文化賞（東京）

第一生命保険株式会社主催。厚生労働省、当事業団など後援

保健衛生の向上や、向上に寄与した研究・発見をした団体、個人に贈られる第66回「保健文化賞」の贈呈式が10月7日、東京都港区のホテルオークラで行われ、10団体と個人5人に賞金（団体各200万円、個人各100万円）と朝日新聞厚生文化事業団賞などが贈られました。この賞は1949年に制定されて以来、この分野の民間の表彰事業として最も定評のあるものです。受賞団体・個人は次の通りです。（敬称略）

**【団体】** 秋田県東成瀬村、ウィメンズネット「らいず」（茨城）、東厚生会（埼玉）、きぼうのいえ（東京）、ドナルド・マクドナルド・ハウス・チャリティーズ・ジャパン（同）、静岡県健康づくり食生活推進協議会、アレルギー支援ネットワーク（愛知）、島根いのちの電話、岡山いのちの電話協会、長崎在宅Dr.ネット

**【個人】** 産婦人科医・北村邦夫（群馬）、歯科医・飯島幸久（埼玉）、医師・丸山博（千葉）、歯科医・米山武義（静岡）、徳島県肢体不自由児者父母の会連合会長・円井美貴子

## 遺贈・遺言セミナー（東京、大阪、名古屋、福岡）

当事業団主催

近年、関心が高まってきている“社会貢献としての遺贈”について学ぶ「遺贈・遺言セミナー」を6月19日に東京都中央区の朝日新聞東京本社＝写真上＝で、7月5日に大阪市北区のアサコムホール、9月8日に名古屋市中区の朝日ホール、10月28日に福岡市博多区の福岡朝日ビルで、それぞれ開催しました。

講師は東京、大阪、名古屋の3会場については高齢者の財産管理や成年後見制度、相続問題に詳しい東京弁護士会の中山二基子さん、福岡は同県弁護士会の石井将さんが務めました＝写真下＝。

中山さんは「老いじたく」には、生きている間に安心して暮らすための「生きている間への備え」と、死後に残された者が困らない、または財産を世の中に役立てる遺贈など「亡くなった後への備え」の二種類があると話しました。

遺言がなくて困った人の実例や遺言をちゃんと書いていたためにトラブルを避けられた例など、遺言の大切さや遺言を書くときの留意点についても話しました。また2015年1月に改正される相続税法についても、いくつかの事例を挙げながら解説しました。

後半の質疑応答のコーナーでは、遺言書の書き方やホームロイヤーなどについて受講生から数



多くの質問が出され、時間いっぱいまで熱心なやりとりが続きました。

福岡で講師を務めた石井さんは「知っておくと役立つ遺言と相続と法律知識」をわかりやすく説明。「相続は被相続人の一生を映す鏡、人生の集大成でも最後の事業でもある。相続のトラブルを防ぐためにも遺言書やその他の処置を講ずることが重要」と話しました。終了後は個別相談コーナーを設け、相談者が直面している問題にアドバイスしていただきました。

名古屋での講演会は7月11日に予定していましたが台風の影響により9月8日に延期して開催しました。各会場の参加者は東京101人、大阪65人、名古屋65人で、福岡が12人でした。

## 広島土砂災害救援金

8月に広島で起きた土砂災害で74人が亡くなり、全壊した住宅は133軒、半壊・一部損壊の住宅は296軒と、大きな被害が出ました＝写真上。この災害の被災者の方々のため、当事業団と朝日新聞社は、8月26日から9月26日までの間、主に紙面を通じて広島土砂災害救援金の呼びかけを行いました。お寄せいただいた救援金は、1871件、総額3033万6587円に上りました。



当事業団の池内文雄理事長が、日本赤十字社広島県支部を10月3日に訪問し、朝日新聞社が同事業団に寄託した100万円を含めた救援金2983万3354円の目録を、同支部の桂木弘二事務局長に手渡しました＝写真下。



池内理事長は「小さな積み重ねでずいぶんと募金が集まりました」とあいさつ。受け取った桂木事務局長は「まだ避難生活をしている人もいます。被災者の方々に早くお届けできるよう手続きを取ります」と話しました。

残りの救援金も後日、全額を同広島県支部に送金しました。

# チャリティー事業

## 朝日チャリティー美術展（名古屋、大阪、東京）

当事業団、朝日新聞社主催

全国の芸術家や著名人から寄贈された作品を販売し、収益を社会福祉事業に充てる「朝日チャリティー美術展」を名古屋、大阪、東京で開催しました。2014年度も文化勲章受章者や人間国宝を含む画家、工芸・彫塑家、書家、宗教家、茶道家、各界の著名人ら約2800人にご協力をいただき、販売作品は日本画、洋画、工芸、彫塑、書、色紙など約3600点に上りました。

### ●名古屋展

第61回名古屋展は12月4日から6日まで、名古屋市中区栄の丸栄百貨店で開催しました＝**写真上**。約800人の作家から約1000点のご協力をいただき、入札と即売で展示・販売しました。



今年は開催の事前告知にこれまで以上に力を入れました。寄贈作家のお名前と主な作品の写真を掲載した朝日新聞特集面の別刷りをリニューアル。写真の枚数を大幅に増やし、より視覚的な作りになりました。さらに配布地域を名古屋管内ほぼ全域に広げました。これまで会場と一部地域での限定配布でしたが、一気に拡大。新たなお客さまにおいでいただく、よいきっかけとなりました。

さら若手を中心に新たにご協力いただく作家が増え、会場に華やぎが増しました。漫画・イラスト作品も拡充し、若いお客さまを中心に人気を呼びました。

### ●大阪展

今回88回目を迎えた大阪展は、12月20日から22日まで、大阪・なんば高島屋7階グラウンドホールで開催し、約1千人の作家から1300点の寄贈をいただき入札と即売で販売しました＝**写真中**。また、人気のイラストレーター、絵本作家、漫画家のコーナーのほか、本年度の特別企画として「琉球（沖縄）の工芸コーナー」を開催。近年若い人を中心に大変人気の高い沖縄のガラス工芸やシーサーの置物、紅型など、20人の作家から寄贈された作品を入札形式で販売し大変好評でした。また3日間の延べ入場者は、天候不順などの影響もあり昨年より若干少ない4500人でした。



### ●東京展

90回となる東京展は、15年3月6日から9日まで東京都中央区の松屋銀座で開催し、約1千人の作家から寄贈された作品1500点を入札と即売形式で販売しました＝**写真下**。

6、7日は日本画家、洋画家、8、9日は工芸家、著名人他の



作品を販売。今年度から新しくご協力をいただいた方々の作品も多数加わり、社会福祉への共感の輪がさらに広がっています。

今回は90回記念企画として、会期中にトークセッション「芸術の力」を、銀座フェニックスプラザで開催しました。初日の6日は、日本画家で東京芸術大学名誉教授の中島千波さんと、中島研究室出身の日本画家高橋浩規さんと洋画家の小柳景義さんの3人がトークを行い、佐藤美術館学芸部長の立島恵さんが司会を務めました。それぞれの作品の想いや、今後挑戦したいことについて話しました＝写真上。



8日は、洋画家の絹谷幸二さんと、その長男で彫刻家の絹谷幸太さん、次女で日本画家の絹谷香菜子さんの3人によるトーク。親子ならではの温かいエピソードを交えて、芸術教育について鼎談しました＝写真中。



9日は日本画家の千住博さんと妹でバイオリニストの千住真理子さんがトークを行い、司会はタレントの松尾貴史さんが務めました。二人は被災地での体験をもとに、絵画や音楽が社会に果たす役割について語りました＝写真下。著名な芸術家の話を聞きたいと会場には多くの来場者が訪れ、熱心に耳を傾けていました。



## ●Next Art展

次世代のアートを担う若手作家の作品を推薦するNext Art展を同じ会場で開催し、応募作162点から選ばれた29作品を展示、入札販売しました。5度目となる今回も多くの方々にぎわい、若手作家に期待を寄せる声も聞かれました。売り上げは、作家のさらなる創作活動と当事業団の社会福祉事業に役立てます。

(チャリティー美術展に作品を出展していただいた方々のお名前は58～65ページに、Next Art展の推薦作品の制作者は65ページに掲載しました)

## 第64回メサイア演奏会（東京）

当事業団、朝日新聞社主催。東京藝術大学音楽学部協力、JR東日本特別協賛

「メサイア・チャリティーコンサート」を12月26日、東京・上野の東京文化会館大ホールで開きました。東京藝術大学音楽学部指揮科招聘教授の高関健さんによる指揮で、藝大フィルハーモニアと同大学同学部声楽科の学生ら約200人が「メサイア」全曲を披露。壮大な「ハレルヤ」コーラスで来場者約2300人を魅了しました。

戦後間もない1951年に戦災で両親や家族を失った子どもたちや生活困窮者に対する支援を目的に始まった同コンサートは今年で64回目。作曲家ヘンデルが「社会福祉の目的以外に演奏を認めない」と言ったというオラトリオ（聖譚曲）「メサイア」は、現在も世界各地でチャリティー

コンサートとして演奏されています。

毎年厳しい学内オーディションにより選考されるソリストは、卒業後にプロとして活躍される方も多く、「藝大メサイア」のステージにソリストとして立つことは一流プロへの登竜門と言われています。今回のソリストは大学院生の朝倉春菜（ソプラノ）、山下裕賀（アルト）、松原陸（テノール）、竹内利樹（バス）のみなさんが務めました。



この演奏会は同大学同学部の教員、学生のみなさんが社会貢献の一環として出演、協力してくださっています。1997年からは美術学部の教員の協力も得てポスターやプログラムを制作しており、2013年に続き、先端芸術表現科教授の日比野克彦さんにご協力いただきました。

このコンサートはリピーターも多く、第1回から欠かさず聴きに来てくださる方や長年のファンに支えられ、チケットは今年も完売しました。

## 第56回各派合同三曲演奏会（大阪）

当事業団主催

琴、三絃、尺八の世界で活躍する邦楽の各派社中が出演する演奏会が11月24日、大阪市中央区のNHK大阪ホールで開催されました。約800人の観客は、次々と奏でられる優美で華やかな和の音色に浸りました。出演社中と曲目は次の通り（出演順、敬称略）。



朝日新聞歳末助け合い 第56回 各派合同三曲演奏会 2014年11月24日 於 NHK大阪ホール

須山知行・中島警子社中「君が代変奏曲」▽箏曲栄琴会「六段の調」▽菊武厚詞社中「春の曲」▽都山流大阪府支部「本曲湖上の月」▽菊扇弘子と琴栄会「菊花繚乱」▽菊井箏楽社「嵯峨の秋」▽菊田歌雄社中「さらし」▽中扇喜瑠鳳社中「万才」▽酒井典彦社中「黒田節による幻想曲」▽新都山流大阪府支部「本曲栄光」▽八千代会「みだれ（十段の調）」▽菊塚春秋会「花形見」▽遊琴会「湖都」▽日本音楽大道派仁康中里会「富士」▽箏曲和光会・琴古流玉川社「旅情」▽大阪正絃社「桜花爛漫」

## 第62回 洋舞合同祭（大阪）

当事業団主催

12月24日から26日までの3日間、大阪市北区中之島のフェスティバルホールで、モダンダンスとクラシックバレエの祭典「第62回洋舞合同祭」を開催しました。今回は新たに「地主薫バレエ団」「沼田真理子ダンスカンパニー」が加わり、16団体21チーム（児童の部9チーム、大人の部12チーム）の総勢600人の出演者が、日頃の成果を披露し、華やかなステージを繰り広げました。



以下の団体が記念表彰を受け、舞台上で当事業団から表彰状と記念品が贈られました。

- 【24日】60回記念表彰＝法村友井バレエ学校  
55回記念表彰＝貝谷バレエ團関西研究所
- 【25日】55回記念表彰＝大阪バレエアカデミー＝写真

出演団体は次の通り（出演順）

- 【24日】児童の部＝江口乙矢・須美子・満典舞踊研究所、下田春美バレエ教室、法村友井バレエ学校、野辺恵バレエスタジオ▽大人の部＝貝谷バレエ團関西研究所、法村友井ジュニアバレエ団、江口乙矢・須美子・満典舞踊研究所
- 【25日】児童の部＝大阪バレエアカデミー、江川バレエスクール、波多野澄子バレエ研究所▽大人の部＝江川バレエスクール、波多野澄子バレエ研究所、山本小糸バレエスクール、MRB松田敏子リラクゼーションバレエ、大阪バレエアカデミー
- 【26日】児童の部＝本田道子バレエスクール、宝塚音楽学校附属宝塚コドモアテネ▽大人の部＝田村弘子バレエ研究所、スズキ・バレエアート・スタジオ、地主薫バレエ団、沼田真理子ダンスカンパニー

## 協賛能（大阪）

能楽協会大阪支部、当事業団主催

関西で活躍する能楽師や狂言師が一堂に集まる恒例の「歳末助け合い協賛能」を12月23日、大阪府中央区の大槻能楽堂で開催しました。観世流、宝生流、金剛流、金春流、喜多流の五流と、狂言の大蔵流、和泉流の各流派が出演。能は「経正」「藤」「天鼓」、狂言は「仏師」が演じられました。

公演は午前と午後の2回に分かれていましたが、いずれも能楽堂の前には入場待ちの列ができて、関心の高さをうかがわせました。収益金は48万6000円になり、全額が厚生文化事業団に寄付されました。



## 第61回各流合同茶会（大阪）

当事業団主催

初心者でも、各流派のお茶席が気軽に体験できて楽しめる恒例のチャリティー茶会が3月21、22日の両日、大阪美術倶楽部（大阪市中央区今橋2丁目）で開催されました。関西を中心に活動する各流派の茶道宗匠の協力を得て、毎年開催している催しで、早春の陽気に誘われて2日間で延べ5千人が訪れました。

懸釜担当の宗匠は以下の通り（敬称略・順不同）。

- ・【21日】表千家＝生形貴重▽裏千家＝中尾宗勢▽武者小路千家＝芳野宗春▽藪内流＝随竹庵▽宗徧流＝宗徧流大阪支部▽一茶庵＝佃一輝
  - ・【22日】表千家＝表千家同門会大阪支部▽裏千家＝矢野宗菁▽武者小路千家＝三宅真翁▽松尾流＝上西宗慶▽庸軒流＝柿本梅軒▽松風清社＝泉谷巨風
- ◇協賛宗匠◇

表千家＝木村雅基、森泰輔▽裏千家＝杉本宗璋、村上宗秀、村司宗紫▽武者小路千家＝木津宗詮、佐伯江南斎▽藪内流＝藪内流大阪支部五葉会▽古石州流＝本庄扇宗▽遠州流茶道＝筭新会▽花月菴流＝花月菴流大阪支部▽習軒流＝坂田柏苑



## 朝日関西学生チャリティー茶会（大阪）

関西学生チャリティー茶会実行委員会、当事業団主催、大阪美術倶楽部協力

関西の大学の茶道部で活動する学生たちが3月23日、大阪市中央区今橋2丁目の大阪美術倶楽部で茶会を開催しました。参加校は、関西学院大＝表千家、大阪医科大、神戸女学院大、同志社大＝以上裏千家、京都女子大、龍谷大＝以上藪内流の6大学。近畿大は運営で協力しました。

関西学生チャリティー茶会は昨年からはまり、今年で2回目。各大学とも、ふだんは学園祭などで茶会を開くなど学内での活動がほとんどで、一般の人にお茶をたてる機会はほとんどありませんでした。5月に実行委員会を立ち上げ、毎月20人近くの実行委員が集まって準備を重ねてきました。参加者は延べ700人で、「ていねいなお点前に感動」「春らしいお菓子を堪能した」といった好意的な反響が多く、「伝統文化の継承にがんばってください」という励ましの言葉も寄せられました。収益金18万7654円は、朝日新聞厚生文化事業団に寄付され、進学応援金にあてられます。



## 第60回歳末朝日チャリティー茶会（名古屋）

当事業団主催、名古屋美術倶楽部協賛

名古屋の茶道8流派によるチャリティー茶会を12月14日、名古屋市中区の名古屋美術クラブで開きました＝写真。冬晴れの日、約900人が各流派のお点前を楽しみました。和服姿の女性が多く華やかな歳末茶会となりました。



お点前の順番を待つ間、先生持参の道具類をめめたりする光景もありました。

ご協力いただいた各流派と席主は次の通り（敬称略）。

第1席 宗偏流（寺尾宗康）、志野流（蜂谷宗玄）、裏千家（庄司宗文）、遠州流（丸山宗翠）

第2席 久田流（加藤久道）、表千家（谷口宗清、柴田紹和、棚橋和雄）、松尾流（松尾宗典）、尾州久田流（下村瑞晃）

## 第52回チャリティー大茶会（北九州）

茶道裏千家淡交会北九州支部主催。当事業団など後援

第52回チャリティー大茶会が9月6、7日に北九州市小倉北区の小倉井筒屋で開かれました。秋の訪れを告げる茶会には、女性客を中心に2日間で約1000人が訪れ、茶道裏千家淡交会北九州支部の会員によるお点前で、美味しいお茶とお菓子を楽しんでいました。後日、収益金の58万4869円が当事業団に寄せられました。

## 杵勝会歳末チャリティー長唄演奏会（東京）

一般財団法人杵勝会主催。当事業団後援

長唄演奏家の集まり「杵勝会」の「歳末チャリティー長唄演奏会」が12月21日、東京・有楽町朝日ホールで開かれ、八代目家元の杵屋勝三郎さんなど会員ら約70人が出演しました。収益金から20万円が当事業団へ寄付されました。

## 浦和学院高校吹奏楽部チャリティーコンサート（埼玉）

浦和学院高校吹奏楽部主催。当事業団後援

浦和学院高校吹奏楽部の第10回チャリティーコンサートが、さいたま市民会館おおみやで15年1月12日に開催され、ディズニー映画「アナと雪の女王」の主題歌や、歌姫・美空ひばりメドレーなど多彩な曲を披露しました。同高校吹奏楽部員の2人が1月21日に朝日新聞さいたま総局を訪れ、当事業団の東日本大震災救援事業に15万2455円を寄付しました。

## 主な後援・協賛・協力事業一覧

(※各事務所の区分は管轄内)

日程	催事		主催者	会場
<b>本部事務所(東京)</b>				
3/30～8/31	第8回全東京ろう社会人軟式野球TDリーグ戦大会	後援	全東京ろう社会人軟式野球連盟	新荒川大橋球場ほか
4/13, 6/29, 11/15～16 ほか	朝日キャンプ	後援	NPO法人 朝日キャンプ	千葉印旛郡ぼうそう村ほか
4/14・15	第6回国際シニア合唱祭「ゴールデンウェーブin横浜」	特別 後援	ゴールデンウェーブ開催委員会、横浜みなとみらいホール	横浜みなとみらいホール
5/3・4	第19回ウオーキングフェスタ東京 ツーデーマーチ	後援	日本ウオーキング協会、朝日新聞社、小金井市ほか	都立小金井公園など 多摩・武蔵野地域
5/17・18	第42回日本車椅子バスケットボール選手権大会	後援	日本車椅子バスケットボール連盟、日本障害者スポーツ協会ほか	東京体育館
5/23・24	第62回日本医療社会福祉協会全国大会ほか	後援	日本医療社会福祉協会、茨城県ソーシャルワーカー協会	日立シビックセンター
6/11～15	第29回全国聴覚障害者写真コンテスト	後援	全日本ろうあ連盟	長野市若里市民文化ホール
6/13	日本聾話学校チャリティー映画会	後援	日本聾話学校	日比谷公会堂
6/14・15	第30回DPI日本会議全国集会in静岡ほか	後援	同実行委員会、DPI日本会議	静岡市・清水文化会館ほか
6/21	日本リウマチ友の会第54回全国大会	後援	日本リウマチ友の会	ホテルメトロポリタン 盛岡ニューウイング
7/4・5	第63回関東聾学校陸上競技大会	後援	関東聾学校体育連盟	静岡県・愛鷹広域公園 多目的競技場
7/6	施設・里親以後の子どもたちの自立支援に関するシンポジウム	後援	NPO法人 ふたばふらっとホーム	日本大学文理学部 百年記念館
7/22～27	第29回療育音楽指導者養成研修会	後援	東京ミュージック・ボランティア協会	新宿区、小平市ほか
7/23～25	第63回関東聾学校バレーボール大会	後援	関東聾学校体育連盟	所沢市民体育館
8/1～3	第26回ろう教育を考える全国討論集会 in 東京	後援	ろう教育を考える全国協議会	日本大学文理学部
9/11	東京都老人クラブ芸能大会	後援	東京都老人クラブ連合会	新宿文化センター
9/13	光バンドチャリティコンサート 愛のサウンドフェスティバル	後援	東京光の家	立川市民会館大ホール
9/13・14	日本自閉症協会第23回全国大会	後援	日本自閉症協会	山形テルサ
9/21、29	みんなの音楽会	後援	東京ミュージック・ボランティア協会	浴風会大ホールほか
9/22・23	きょうされん第37回全国大会 in かながわ	後援	きょうされん	パシフィコ横浜
9/23	第18回電動車椅子サッカー関東大会	後援	関東ブロック電動車椅子サッカー協会	府中市立郷土の森総合体育館

日程	催 事		主 催 者	会 場
9/25	日本点字図書館 秋のチャリティ映画祭	後援	日本点字図書館	なかのZERO
9/26	第44回「朗読録音奉仕者感謝の集い」	後援	鉄道弘済会、日本盲人福祉委員会	弘済会館
10/1～3	第41回 国際福祉機器展H.C.R. 2014	後援	全国社会福祉協議会、保健福祉広報協会	東京国際展示場
10/10～12	第39回全日本ろう社会人軟式野球選手権大会	後援	全日本ろう社会人軟式野球連盟	日進市総合運動公園ほか
10/16・17	第7回全国精神保健福祉家族大会「みんなねっと石川大会」	後援	全国精神保健福祉会連合会、大阪府精神障害者家族会連合会	金沢歌劇座
10/21	第26回国民の健康会議	協賛	全国公私病院連盟	ヤクルトホール
10/25	第46回愛隣会チャリティバザー	後援	愛隣会	愛隣会（東京都目黒区）
10/26	交通遺児等を支援する会 第11回チャリティーバザー	後援	交通遺児等を支援する会	新宿・エステック広場
11/1～3	第37回日本スリーデーマーチ	後援	東松山市、日本ウォーキング協会、朝日新聞社ほか	埼玉・比企丘陵一帯
11/1～3	サイトワールド2014	後援	同実行委員会、日本盲人福祉委員会	すみだ産業会館
11/15	第11回本間一夫文化賞	後援	日本点字図書館	新宿・ビックボックス
11/16	第61回東京都聴覚障害者大会	後援	東京都聴覚障害者総合支援機構	オリンパスホール八王子
11/21	平成26年度全国社会福祉大会	後援	厚生労働省、全国社会福祉協議会、中央共同募金会	日比谷公会堂
12/18	第12回本間一夫記念 日本点字図書館チャリティコンサート	後援	日本点字図書館	東京文化会館
12/19	第63回東京都社会福祉大会	協賛	東京都、東京都社会福祉協議会、東京都共同募金会	東京都庁
12/20～25	自立援助ホーム「憩いの家」資金バザー	後援	青少年と共に歩む会	日本橋高島屋
12/22	上野学園第55回慈善演奏会	後援	上野学園	上野学園
12/22～24	第52回「弘済学園 わたしたちが創る展」	後援	鉄道弘済会ほか	JR東京駅
15年2/28、3/1	第44回耳の日記念文化祭	後援	東京都聴覚障害者総合支援機構	東京都障害者福祉会館ほか
15年3/7	「メンタルヘルスの集い」(第29回日本精神保健会議)	後援	日本精神衛生会	有楽町朝日ホール
15年3/11	第3回NY合唱フェスティバル	後援	文化芸能国際交流機構	米カーネギーホール
<b>大 阪 事 務 所</b>				
2014/4～2016/3	第50期 電話相談ボランティア養成講座	後援	関西いのちの電話	大阪府立羽衣青少年センター
2014年通年	H26年度「地域保険福祉研究助成」ボランティア活動助成」	後援	公益財団法人 大同生命厚生事業団	大同生命厚生事業団
4/6	全国遷延性意識障害・家族の会講演会	後援	全国遷延性意識障害・家族の会講演会	ホテルグランヴィア

日程	催事		主催者	会場
4/17～19	バリアフリー2014(第20回)	後援	大阪府社会福祉協議会	インテックス大阪
4/20	第32回日本ライトハウスチャリティコンサート	後援	日本ライトハウス	ザ・シンフォニーホール
5/23	若さの栄養学	後援	若さの栄養学協会	大阪産業創造館
5/25	第21回共生・共走リレーマラソン	後援	同マラソン実行委員会	花博記念公園・鶴見緑地
6/7	「共に生きる18」コンサート	後援	「共に生きるコンサート」実行委員会	箕面市立メイプル大ホール
6/7～8	第9回堺ソーデーマーチ	後援	堺市、朝日新聞社、南海ほか	堺市大仙公園一帯
6/21	現代国際巨匠絵画展	後援	一般社団法人COOPSARI	吹田さんくすホール
6/22	第21回マインドエアロビクス	後援	マインドエアロビクス実行委員会	大阪市長居障害者スポーツセンター体育室
7/2～3	第64回近畿児童自立支援	後援	和歌山県、近畿児童養護施設協議会、	紀三井寺公園」球場他
7/5	第49回肢体不自由児者を支援するチャリティーバザー	後援	大阪市肢体不自由児者父母の会連合会	アネックスパル法円坂
7/19	福祉の就職フェアWinter in osaka	後援	大阪府、府社協ほか	インテックス大阪
7/19～21、26・27	2014年子供の城 障がい児教育夏期連続講座	後援	一般社団法人子供の城協会	公文教育会館5階
7/12～11/13	第14回全国障害者芸術・文化祭とっとり大会	後援	鳥取県など	鳥取市・とりぎん文化会館
7/21	共に生きる・交流研修会	後援	共に生きる・交流研修会実行委員会	西宮市総合福祉センター
8/5～10	第35回子どもたちの賛歌	後援	大阪特別支援教育諸学校造形教育研究会ほか	大阪市立美術館
8/6	第64回施設従事者激励会	後援	大阪民間社会福祉事業従事者共済会	新歌舞伎座
8/7	平成26年度全日本特別支援第51回近畿	後援	全日本特別支援教育研究連盟他	大阪中央公会堂
8/8	兵庫県社会福祉事業団設立50周年発達セミナー	後援	兵庫県社会福祉事業団五色精光園	洲本市文化体育館文化ホール
8/8～13	第31回「土と水と緑の学校」	後援	公益財団法人アジア協会アジア友の会	新宮市高田地区一帯
8/22	ナイトハートバザール in キューズモール	後援	大阪府社会福祉協議会大阪授産事業振興センター	あべのキューズモール
8/22～24	吃音親子サマーキャンプ	後援	日本吃音臨床研究会	彦根市荒神山自然の家
8/24	第53回近畿知的障がい者福祉大会	後援	近畿手をつなぐ育成会など	国際障害者交流センター
8/25～27	第65回全国少年野球大会	後援	全国日本少年野球連盟ほか	鳴門市・オロナミンC球場ほか
10/12 12/13	こころがシンドイときシリーズ25	後援	精神障害と社会を考える啓発の会	大阪市立総合生涯学習センター
10/13	第20回大阪YMCAチャリティーラン	後援	大阪YMCAなど	長居公演外周

日程	催事		主催者	会場
10/19	ファインエリアフェスティバル 2014	後援	ファインエリアフェスティバル 実行委員会	大阪府障がい者交流 促進センター
10/26	第42回全大阪ろうあ者文化祭	後援	大阪聴力障害者協会	大阪市長居障害者 スポーツセンター
11/4	第15回大阪救護施設合同文化事業運 営委員会	後援	大阪救護施設合同文化事業運 営委員会	太閤園迎賓館3階
11/8	第35回全国歯科保健大会	後援	大阪府歯科医師会ほか	大阪交流センター
11/8・9	第18回全国聴覚言語障害者福祉研 究交流集会	後援	全国ろう重複児・者家族連絡会 ほか	サンスクエア堺
11/9	第38回「福祉まつり」	後援	第39回「福祉まつり」実行委 員会	城東区 関目学園
11/12	平成26年度大阪府社会福祉大会	後援	大阪府社会福祉協議会	大阪国際交流センター
11/14・15	平成26年度医療社会事業従事者 講習会	後援	大阪医療ソーシャルワーカー	エル大阪南ホール
11/18	第50回肢体不自由者を支援する チャリティーバザー	後援	大阪府肢体不自由者父母の会 連合会	八尾市山城町1丁目 第1公園
11/23	手話パフォーマンス甲子園	後援	同実行委員会	鳥取市・県民ふれあい 会館
11/28	若さの栄養学秋ノ講演会	後援	一般財団法人若さの栄養学	大阪産業創造間
12/3～6	第21回ノーマイゼーション「絵画・ 創作展」	後援	ノーマイゼーションクラブ	大阪市立総合生涯学習 センター
12/20	NPO法人こころ子育てインターネット 関西第25回フォーラム	後援	NPO法人こころ子育てインター ネット関西第26回フォーラム	大阪人間科学大学 庄屋学舎
2015 1/22 ～27	第34回障がいのある子どもに学ぶ 図工展	後援	大阪市小学校教育研究会特別 支援教育部	大阪市長居障害者 スポーツセンター
2/7	素のままフェスタ2014	後援	素のままフェスタ2014 実行委員	豊中市立アクア文化 ホール
2/11～14	2015国際親善女子車椅子バスケット ボール大阪大会	後援	同実行委員会	大阪市中央体育館
2/12	第53回衛生教育大阪 第57回公衆衛生大阪	後援	大阪公衆衛生協会	大阪薬業年金会館6階
2/14	第35回みんなで作るコンサート	後援	同実行委員会	西宮市プレラホール
2/15	府民のつどい大きく変わる難病対策 の全体像	後援	NPO大阪難病連	エル・おおさか (中央区北浜東)
3/11～15	第30回肢体不自由者の作品展	後援	社会福祉法人大阪府肢体不自 由者協会	ドーンセンター
3/12	福祉の就職フェア Winter in osaka	後援	大阪府、府社協ほか	大阪マックス・マート (OMMビル)2階
3/15	バリアフリーオペラ 「アマルと夜の訪問者」	後援	社会福祉法人旭川荘、グラチア アートプロジェクトなど	岡山シンフォニーホール
3/15	平成26年度認知症講演会	後援	大阪認知症研究会	千里ライフサイエンス センター
3/21～29	世界ダウン症の日写真展 In大阪	後援	日本ダウン症協会	梅田スカイビル40階
3/22	こどもホスピスプロジェクト第2回 セミナー	後援	一般社団法人こどもホスピス・ プロジェクト	大阪中央公会堂大集 会室

日程	催事		主催者	会場
<b>西部事務所</b>				
通年	西日本カラオケ連合協議会のチャリティー発表会(4回)	後援	西日本カラオケ連合	北九州市内の生涯学習センターほか
4/13、7/13、8/24	第4回全九州ろう社会人軟式野球大会	後援	全九州ろう社会人軟式野球連盟	福岡県・大牟田市延命球場ほか
5/24	第32回北九州精神障害者家族会連合会総会:記念講演会	後援	北九州精神障害者家族会連合会	あかつき会「さんらいず小芝事業所」
5/25	第52回北九州市障害者スポーツ大会	後援	北九州市障害者スポーツ協会ほか	北九州市立本城陸上競技場ほか
5/27～6/1 6/18～23	第49回西部伝統工芸展	協力	日本工芸会ほか	福岡三越 熊本市・鶴屋百貨店
8/10～12	第59回在宅肢体不自由児海の療育キャンプ	共催	福岡県肢体不自由児協会ほか	福岡県立少年自然の家「玄海の家」
9/12～15	第35回脳性マヒ児のための母親研修キャンプ	後援	福岡あゆみの会	やすらぎ荘
10/12・26	第51回福岡県ろうあ者体育大会	後援	福岡県聴覚障害者協会	北九州市障害者スポーツセンターほか
10/26	平成26年度ひとり親家庭・寡婦のふれあいスポーツ大会	協力	北九州市母子寡婦福祉会ほか	北九州市小倉北体育館
11/10～12/10	第62回手足の不自由な子どもを育てる運動	後援	福岡県肢体不自由児協会ほか	福岡市など福岡県内主要都市
12/14	福岡県肢体不自由児協会創立60周年記念の会	後援	福岡県肢体不自由児協会	福岡市市民福祉プラザ
<b>名古屋事務所</b>				
4月～10月	第66回赤い羽根協賛児童生徒作品コンクール	後援	愛知県共同募金会ほか	愛知県庁本庁舎ほか
4/13	第34回愛知県聴覚障害者体育大会	後援	愛知県聴覚障害者協会	昭和スポーツセンターほか
4/20～5/25	平成26年度愛知県障害者スポーツ大会	後援	愛知県、愛知県社会福祉協議会	名古屋・星ヶ丘ボウルほか
5/8～11/23	第11回名古屋市障害者スポーツ大会	後援	名古屋市ほか	瑞穂公園陸上競技場ほか
5/23～25	第17回国際福祉健康産業展～ウェルフェア2014～	後援	名古屋国際見本市委員会	ポートメッセなごや
6/14	第52回心身障害問題を考える集い	後援	社会福祉法人あさみどりの会	朝日ホール
7/6	第31回愛知県聴覚障害者大会	後援	愛知県聴覚障害者協会	安城市文化センター
7/12	東海グループホームスタッフ研修会	後援	東海グループホームスタッフ研修会	ヨナワールド
8/11～16	第31回岐阜心理リハビリテーション療育キャンプ	後援	岐阜心理リハビリテーション部会親の会ほか	大垣市山村体験宿泊施設「奥養老」
8/17～23	第29回中部ブロック動作法セミナー	後援	三重県心理リハビリテーション連合会	鈴鹿青少年センター
8/18～23	第42回愛知心理療育キャンプ	後援	愛知心理療育親の会	ホテルボンセジュール
9/10～12/10	第62回手足の不自由な子どもを育てる運動	後援	愛知県肢体不自由児協会	愛知県内

日程	催事		主催者	会場
9/14～17	第20回子ども虐待防止世界会議 名古屋2014	後援	国際子ども虐待防止学会、 日本子ども虐待防止学会	名古屋国際会議場
9/29	第38回'14愛のフェスティバル	後援	名古屋手をつなぐ育成会	名古屋手をつなぐ育 成会福祉会館ひろば
10/18	生き生き長寿フェア2014「はつら つ健康プラザ」	後援	愛知県社会福祉協議会ほか	あいち健康の森公園 (大府市、東浦町)
10/21	第62回愛知県社会福祉大会	後援	愛知県社会福祉協議会ほか	愛知県体育館
11/1	脳外傷リハビリテーション講習会	後援	同講習会実行委員会	名古屋市中区役所 ホール
11/22	東海グループホームスタッフ研修会	後援	東海グループホームスタッフ 研修会	松原学区センター
11/24	第59回名古屋市身体障害者福祉大 会	後援	名古屋市身体障害者福祉連合 会	名古屋市中区役所 ホール
11/30	第42回医療講演会	後援	三重県重症心身障害児(者)を 守る会	四日市市総合会館
12/21	第54回愛知県身体障害者福祉大会	後援	愛知県身体障害者福祉団体 連合会ほか	ライフポートとよはし
15年2/15	第17回 なるほど!なっとく!!高 次脳機能障害	後援	NPO高次脳機能障害者支援 笑い太鼓	朝日ホール
2/15・21	平成26年度知的障害者支援者養成 講座	後援	名古屋手をつなぐ育成会	名古屋手をつなぐ育 成会福祉会館ほか
3/8	第33回耳の日記念聴覚障害者と県民 の集い	後援	愛知県聴覚障害者協会	北名古屋市勤労文化 会館

## チャリティー美術展に出展いただいた皆様

(50音順、敬称は略させていただきました)

## 【日本画】

## (あ行)

青山博之	赤井春水	赤沢嘉則	秋本幸一	浅島裕志	浅野忠	朝比奈陽心	安達英志郎
荒井孝	新井陽子	安藤徹	池田夏乎	石踊紘一	石踊達哉	石塚青篁	伊勢巧
板垣青仁	市川保道	市野鷹生	市野晴美	市橋豊美	井手康人	伊藤正男	井上耐子
井上時子	井上北斗	猪熊佳子	今井武久	岩崎美代子	岩田三枝	岩波昭彦	岩本峯齊
植田清子	上村淳之	鵜飼千佐子	白井治	内田広己	烏頭尾精	梅原幸雄	江川敦志
江川照美	蝦名芳枝	遠藤隆稔	王荻地	大嶋英子	大竹紫水	大月紅石	大野廣子
大野幹彦	大森運夫	大矢時保	大矢十四彦	大矢紀	大矢眞弓	岡田郁子	岡信孝
小川国亜起	小倉理山	落合初美	小山硬	折式田生子			

## (か行)

加藤恵	加藤美恵子	兼島聖司	鎌田紀子	上岡奈苗	川合和子	河合重政	川崎マリ子
川島睦郎	川島優	川嶋渉	河津胖子	河村沙希	河本正	川本淑子	神林久子
菊川三織子	菊池治子	岸野圭作	絹谷香菜子	木村英史	木村光宏	金原保則	久芳道信
久保孝久	久保田聖淳	久保嶺爾	倉田富美	倉地千枝子	栗原幸彦	黒光茂明	小泉智英
郷倉和子	香西坦子	香野ルミ子	国府克	小島光徑	後藤順一	後藤紳也	後藤純男
後藤芳世	小林済	小林裕子	小林六博	近藤恵三子			

## (さ行)

齋藤陽	斎藤和	斎藤宗	坂元洋介	佐久間顕一	佐々木経二	佐々木裕而	笹本正明
佐治満澄	佐竹雲遊	佐藤晨	佐藤継雄	里見顕伸(故人)		澤山輝彦	椎名保
重岡良子	品川成明	篠崎美保子(故人)		清水信行	下川辰彦	下川立夏(故人)	
下田義寛	霜鳥忍	杉谷彩光	杉山律夫	鈴木紀和子	鈴木竹柏	鈴木至夫	千住博
染谷聡之							

## (た行)

高越甚	高野純子	高橋新三郎	高橋浩規	田口愛子	武市斉孝	武田州左	田島奈須美
多治見早苗	辰巳寛	伊達良	田中重造	谷井恵紅	谷口蕙香	田宮栄子	田村仁美
千村俊二	月居和子	土屋雅裕	道家珍彦	戸田みどり	殿南直也	富元秀俊	鳥垣英子
鳥山武弘							

## (な行)

中岡友子	長崎莫人	中澤静	中島千波	永田実子	中谷温男	中野貴雄	中野嘉之
仲林敏次	中村宗弘	永森一郎	那波多目功一		成田環	新美葉子	仁木寿美子
西村勝廣	西村光人	西山英子	西脇繁華	沼本三郎			

## (は行)

長谷川喜久	服部倫子	服部誠子	浜上俊和	濱田昇児	浜田泰介	林孝彦	林田啓江
林美枝子	原武子	原田巧	稗田一穂	日置宏輔	日景博	日比野光雄	平岩洋彦
平尾秀明	平松礼二	福王寺一彦	藤井康夫	藤原祐寛	二川和之	紅山幸水	堀川えい子
本間正英							

## (ま行)

前島恵里乃	馬驍	馬瀬里子	町田泰宣	松生歩	松尾敏男	松木秋佳	松崎良太
松下明生	松下勝正	松下宣廉	松下園江	松村公嗣	松本進	松本高明	松本勝
真野尚文	三浦絵衣子	三上俊樹	三沢英伍	水江東穹	水谷勝子	三谷青子	三宅和光

宮野孝司 (や行)	宮本脩子	宮本和胡	村井玉峰	村田晴彦	森田りえ子	森英明	
矢澤貞子	安川眞慈	谷中武彦	柳績	柳沢正人	山口溪華	山口義明	山下まゆみ
山本恭子 (わ行)	山本真一	山本真也	山本兆揚	吉岡三樹子	吉田祥子	吉田多最	依田有立
若麻績敏隆	和田洸珀	和田利造	渡辺章雄	渡邊幸子	渡辺富栄	渡邊美喜	亘征子

【洋画】

(あ行)

青江健二	青木今陽	赤塚一三	阿久津正志	浅井清貴	浅井義弘	麻田博子	安食慎太郎
遊馬賢一	東弘孝	安達康夫	渥美静子	阿部信行	阿部晴美	安部英夫	天津恵
天野吉則	荒井孝	安藤公一	飯田道嗣	池口史子	池田くみ子	池田清明	池田洋子
恵俊彦	井阪仁	石倉豊	石阪春生	石田聖子	石塚浩養	石根三千代	石野紀美子
石野容三	石橋武夫	石原章吾	石原ミチオ	板垣千鶴子	板倉美智子	伊丹重男	市川光雄
市村一	井手典子	伊藤郁	伊藤和義	伊藤清和	伊藤順子	伊藤純子	伊藤隆
伊藤秀男	伊東博子	伊藤文男	井藤雅博	伊藤康夫	稲垣考二	稲垣龍雄	
稲田ハル(故人)		井上圭史	井上慎介	井上利哉	井口由多可	今村昭寛	今村价男
入江観	岩井康頼	岩崎雄造	岩田視司	岩田知幸	岩谷康世	岩淵晃三	岩本かずえ
イ・ワヤン・シーラ		上木伸之	植木美代子	上嶋スミコ	上尚司	上田真澄	上野憲一
上野千代子	上野理男	白井恵之輔	碓井たか子	宇田喜久子	内山懋	宇野義行	生方純一
梅村徹	浦川彰子	栄永大治良	江上寿夫	榎本多恵子	江本繪門	遠藤晴夫	王前一馬
大石つね子	大岡立	大川浩市	大島泰子	大谷哲生	大津英敏	大西生余子	大西弘之
大淵繁樹	大見巧	大森良三	岡貞徳	緒方洪章	岡田全良	岡千秋	岡宏
小川幸紅	小川周二	沖田廉平	奥田喜一	奥村聰臣	納健	小澤一正	尾澤達也
小沢眞弓	小田島えい子		織田義郎	越智節昇	乙丸哲延	小野仁良	小野知久
尾松直	面矢元子	折本美祢子					

(か行)

加古千恵子	笠井誠一	梶浦寿布	春日井正	片山弘明	勝呂隆光	加藤助八	加藤千太郎
加藤照	加藤トオル	加藤信子	加藤吉春	金井順子	壁下孝	上所幹彦	
辛島一誓(故人)		加覧裕子	川井一義	河西昭治	河野宗之蒸	川原比瑛子	河村侏世子
菊池郁子	菊地正男	菊地洋二	喜澤のり子	岸田淳平	岸田夏子	岸野昭	北口嘉亮
木谷利江	北見隆	北村美枝	橘田政明	木寺淳二	鬼頭恭子	絹谷幸二	木下實之
樹林雅生	木村信之	木村正志	木村優博	木脇康一	日下直樹	草壁隆	草野直己
久世瑠璃	久保輝秋	倉田政子	倉持正	栗田政勝	黒川彰夫	黒木郁朝	黒木トシ子
黒沢信男	黒田秀方	黒田富紀子	黒田勝	桑島春彦	小池かよ	小泉元生	河本和子
小阪謙造	五島まさを	小杉小二郎	小瀬垣宏郎	後藤昭夫	小早川協右	小林千枝	小林雅英
小林裕児	小柳晟	小柳景義	小柳幸代	小柳吉次	小山成	近藤昭彦	

(さ行)

斎藤高志	斎藤孝弘	斎藤千川予	斎藤由比	佐伯浩	沙海苑子	酒井英利	坂谷和夫
坂本直	坂本よしこ	櫻井孝美	桜井陽彦	佐光亜紀子	佐崎紘一	佐々木澄江	佐々木友幸
佐藤一成	佐藤勝信	佐藤泰生	佐藤富美子	佐藤義光	佐野千津子	佐伯喜三郎	猿渡士郎
塩川佑子	四方道夫	七里和子	芝田キク	柴田美智子	芝芳雄	嶋谷卓之	嶋谷美鈴

島田安雄	島村信之	清水亟悞	清水鉄彌	清水佳子	下園由莉	白川順子	
白坂介明 (故人)		白山扶士子	新宅光男	菅沼正則	杉浦充	杉田明維子	杉本澄男
杉山重雄	杉山英子	鈴江章郎	鈴木勝之	鈴木貞子	鈴木延雄	鈴木福男	鈴木マサハル
瀬尾一嘉	関口貴美	関拓司	瀬下ゆり子	世利徹郎	相馬貞夫	園山幹生	祖父江弘幸
<b>(た行)</b>							
田浦信勝	高浦雅子	高松政子	多賀谷無人	滝沢直次	滝滋	瀧下和之	瀧田依子
宅田忠正	田口正子	竹内喜久江	竹内重行	竹内靖夫	竹内雍子	竹生節男	竹下功
竹中稔量	竹原邦樹	多田すみえ	多田晴義	辰将成	楯岡和子	田中敏夫	田中仁士
田中良	谷川泰宏	谷本暁雄	タマカワ千恵		玉谷明美	玉谷優	田村正幸
千原稔	中條健史	塚田清	塚原ヨリ子	塚本英一	塚本吉廣	津川純子	津田勝利
堤慶	椿野浩二	鶴房健蔵	鶴見雅夫	鶴山好一	出口修	出村幸代	寺沢順子
寺西進	土井邦晃	遠山源吾	戸狩公久	戸高明義	富澤尚美	富田伸介	友成晴雄
<b>(な行)</b>							
中井一誠	長井宏之	長尾浩一	長川清悦	長澤すみ江	長澤卓重	ナカジマカツ	
中嶋国博	中島千恵	中島裕司	中嶋美瑛子	中田順	中谷健三	長富博子	中西良招
中野治朗	中野洋一	長濱伶子	中村郁夫	中村英	中村晃子	中村輝行	中村光幸
生井京子	植崎重視	難波忍	仁木雅子	西井義晃	西田藤三郎	西野一郎	西村壽郎
西山徹	新田ゆき子	丹羽直子	抜井亀良	塗師祥一郎	沼尾雅代	根萩斎門	野村亜紀子
ノムラカツキ		乃村豊和					
<b>(は行)</b>							
橋本忠夫	長谷岩友	長谷川和子	濱田進	濱田弘康	濱本恵一	早川勝	林孝三
林茂樹	原賢二	原田たかし	原田嘉徳	原尚子	原秀樹	半澤満	日賀野兼一
樋口貞男	平磯彰	平井智子	平岩郁郎	平尾倫子	平川富貴子	廣岡清武	広瀬範
広田和典	深川和久	深津静男	福岡幸子	福岡通男	福原満江	福満よさ美	藤井勉
藤崎恒頼	藤浪成喜	藤村サツ子	藤本正男	藤森悠二	布施久美子	ブライアン・ウィリアムズ	
別府忠雄	帆足ゆり	保ヶ淵静彦	保科浩一	細川進	細谷久美子	堀井克代	堀尾一郎
堀太郎 (故人)		本多しず子	本間千恵子				
<b>(ま行)</b>							
前川雅幸	前島隆宇	槇利光	牧野美代子	巻山昌宏	正木茂	柁木高	真砂貞二
マサルw	増本憲樹	松井三希央	松浦正博	松浦安弘	松樹路人	松沢茂雄	松田貴美子
松永諄子	松永知久	松原政祐	松村和紀	松室重親	松本年晃	三浦敏和	三浦勉
三木義尚	三塩清巳	水野伊津子	水野一	水野尚	源尊磨	三耕明子	三宅四郎
宮崎進	宮下由夫	宮田翁輔	宮平勉	宮本玄雲	宮本裕之	宮山博司	村井成好
村井洋子	村岡顕美	村瀬京平	村田伊佐夫	村山容子	村山陽	毛利弘子	森勇
森下ヒロ子	森田眞	森田幸宏	森長武雄	森文男	森本計一	森本有一	
<b>(や行)</b>							
八木時子	安井啓二	安井正子	安富信也	安福葉子	柳瀬俊泰	矢野喜久男	藪野健
山尾才	山岸用之介	山口剛生	山口静治	山口ひろみ	山口美佐子	山下恒子	山下毅
山田正二	山田精一	山田嘉彦	山手正彦	山寺重子	山本亞稀	山本悦子	やまもと悦子
山本虎雄	山本文彦	横井三郎	横内襄	横山申生	吉岡均二	吉岡耕二	吉城弘
吉田清光	吉田淳一	吉田敏男	吉野清	吉村美令由	米田整弘		
<b>(わ行)</b>							
渡辺明	渡辺卓美	渡辺正夫	渡邊妙法	渡辺良一	渡部ひでき	和田行雄	渡紀美子

【工芸】

(あ行)

相羽鴻一郎	青木九仁博	青木拳	粟生屋東洗	青山鉄郎	青山双男	赤毛敏男	秋野宏和
浅井秀子	浅蔵五十吉	浅蔵一華	浅野紀胡	浅原千代治	足利直子	東正之	東好昭
与勇輝	安達章	安達雅一	新歓嗣	雨宮弥太郎	荒井さつき	荒川達	荒川文彦
嵐一夫	有松進	有本空玄	安藤和久	安藤源一郎	安藤工	安藤敏彦	安藤則義
安藤日出武	安藤博允	安洞雅彦	安藤友紀	安藤良輔	井尾建二	池田瑠子	石井視子
石川満	石野泰造	石橋裕史	石山静男	伊豆蔵幸治	伊勢崎淳	伊勢崎創	市川清鱗
市川博一	市川正美	市野悦夫	市野勝磯	市野元祥	市野元和	市野信水	市野哲次
市野年成	市野英一	市野雅彦	市野正大	市野勝	一宮現	一宮侑	糸井康博
伊藤敦子	伊藤憲一	伊藤公洋	伊藤美月	伊藤秀人	伊藤峯子	伊藤優	伊藤雄志
伊藤良典	伊藤渡	稲垣太津男	稲垣幹夫	稲荷作	井上浩一	井上萬二	井上康徳
井上楊彩	今泉今右衛門		今井紀昭	今井政之	今西方哉	伊村徳子	井村まゆみ
岩井香楠子	岩瀬健一	岩瀬弘二	岩田溪山	岩本孝志	上田哲也	上江田ひとみ	
鵜飼敏伸	浮田健剛	宇田川溪山	内堀敏房	内村幹雄	内村由紀	内山政義	浦上光弘
うら林あきお		永楽善五郎	江口康成	大泉讚	大角裕二	大上巧	大河内泰弘
大川正洋	大倉貞義	大倉真汝	大塩玉泉	大塩昭山	大城一夫	大須賀選	大角幸枝
太田公典	大谷昌拙	太田貢	大槻昌子	大野晃幹	大野耕太郎	大野昭和斎	大野誠二
大橋聡子	大場匠	大樋勘兵衛	大樋朔芳	大樋年雄	大平和正	大平孝昭	大湾美枝子
岡田崇人	小形こず恵	岡田親彦	岡田春海	岡田泰	岡田裕	岡本篤	岡本信也
岡本白水	岡本碧山(故人)		小川真之助	小川長楽	小川二楽	荻原毅久	荻原守彦
小口千鶴子	奥村公規	奥山峰石	小倉健	小椋範彦	桶谷洋	小畑裕司	尾張裕峯

(か行)

角谷英明	各見飛出記	隠崎隆一	鹿兒島成恵	加古若菜	鹿島和生	梶原茂正	春日井範之
片山雅博	勝尾青龍洞	勝尾龍彦	勝田保子	加藤永司	加藤錦雄	加藤錦三	加藤溪山
加藤圭史	加藤敬也	加藤孝造	加藤幸兵衛	加藤作助	加藤悖	加藤春鼎	加藤眞也
加藤尊也	加藤委	加藤唐三郎	加藤土史路	加藤土代久	加藤真雪	加藤美土里	加藤陽児
加藤嘉明	加藤リ工	加藤亮太郎	加藤廉平	金子信彦	金子認	金重晃介	金重利右衛門
加納義光	樺澤健治	鎌田幸二	亀井幸一	亀井勝	加守田太郎	川井明子	川井明美
河井喜代子	河合竹彦	河井透	河井敏孝	河上恭一郎	川上力三	川喜田敦	川北浩彦
川北良造	河口純一	川口清三	川口保規	川崎鳳嶽	川崎靖英	川手敏雄	河端一海
川端文男	川淵直樹	神崎継春	神崎正英	神戸義憲	菊池拳子	北大路泰嗣	北岡秀雄
北口夢石	北野勝彦	北村和義	北村堅治	北村昭斎	北村英昭	吉向孝造(九世松月)	
吉向琮斎(八世松月)		絹谷幸太	木村玉舟	木村素静	木村展之	木村雅子	木村将人
木村充良	木村元次	木村盛和	木村盛伸	木村盛康	木村好博	清水六兵衛	工藤和子
久野勝生	久場政一	熊沢文太	熊本栄司	栗林一夫	黒岩卓實	黒岩達大	黒木国昭
黒田正玄	黒田暢	黒田儀男	桑原みさ雄	元田五山	鯉江敏弘	鯉江廣	小出芳弘
厚東孝明	神山清子	神山直彦	神山易久	小島憲二	小嶋太郎	小峠葛芳	小西陶蔵
小西朋子	小西博雄	小橋川清次	小橋川太郎	小林一雄	小林一富美	小林東洋	小林浩
小林貢	小林勇超	小林理恵	小南吉彦	小室幸雄	小森邦衛	小谷内和央	小柳種圃
小山貴由	近藤精宏	今野春雄					

(さ行)

斎木勲	齋藤修	斎藤則行	斎藤裕子	西念秋生	佐伯健剛	坂井修	酒井甲夫
酒井紫羊	坂井貂聖	坂井教人	酒井博司	榊原啓司	榊原勇一		

坂高麗左衛門 (十三世・故人)	坂田甚内	坂手春美	坂本俊人	佐久間藤也	佐々木省庵
佐々木二郎	佐々木苑子	佐々木強	佐々木雅浩	佐々木悠紀子	佐藤和彦
佐藤苔助	佐藤喬	佐藤巧	佐藤二三子	佐藤泰子	佐藤亮
寒川義崇	鮫島豊	沢田重雄	澤田利光	沢田豊山	柴岡信義
島田敏男	島田緋陶志	島田文雄	清水潮	清水潤	清水醉月
清水俊彦	志村ふくみ	志村洋子	祝嶺恭子	庄村健	白武初芳
新庄貞嗣	新谷一郎	水津和之	末吉清一	杉浦文泰	杉江善次
鈴木環	鈴木五郎	鈴木三成	鈴木茂至	鈴木爽司	鈴木大三朗
鈴木量	砂田正博	諏訪蘇山	瀬津純司	曾我阿嬉子	十河慶子

## (た行)

平良恒雄	平良敏子	高岡久美子	高木廣司	高権成	高聡文	高橋彰	高橋新六
高橋榮斎	高橋和二郎 (故人)	高原卓史	高見勝代	滝川幸志	滝口和男	瀧口喜兵衛	瀧口喜兵衛
瀧口大喜	武石和春	竹内真吾	竹内眞三郎	武腰潤	武腰敏昭	竹田忠生 (尋牛)	
武田敏男	竹之内彬裕	武村豊徳	竹村繁男	多田幸史	田中忍	田中孝	田中紀子
田中源彦	田中悠子	棚橋淳	田邊小竹	谷川仁	谷口玄	谷口幸二	谷口正典
谷清右衛門 (五代)	谷野明夫	谷本あけみ	谷本洋	田沼春二	田原陶兵衛	玉木弘一	
玉村松月	力石俊二	塚原三千勝	塚本治彦	塚本満	辻英芳	辻勘之	
辻毅彦 (故人)	辻常陸	津田哲司	土田育弘	土谷道仙	土田友湖	土屋順紀	
土屋典康	筒井修	筒井辰也	都築青峰	堤圭一	恒岡光興	鶴田明子	出口清廣
手塚隆	手塚央	寺沢香織	寺田みのる	寺本守	照井一玄	天坊昌彦	徳田八十吉
戸津圭之介	飛井隆司	富岡大資	豊住和廣	豊場惺也	豊本信子		

## (な行)

永井素懂	長江哲男	中尾彰秀	中尾英純	中尾恭純	中川進	中里重利	
中里太郎右衛門 (十四代)	中里壽	中島翁助	中島卓	中嶋武仁	中嶋虎男	中島保美	
中島悠紀夫	中塚佐一	長野惠之輔	中野陶痴 (五代)	中野亘	中村眞一	中村雅明	
中村實	中村豊	名倉鳳山	新里明士	新野素子	新美吉昭	二貝清一	西浦武
西岡良弘	西尾茂	西尾瑞舟	西尾武人	西川勝	西川實	西功一	西田真也
西村源治	西村松逸 (優)	西村直城	二十歩文雄	額賀円也	根崎隆博	納富晋	
野坂和左	野崎賀代子	野嶋峰男	野田東山				

## (は行)

萩井一丘	萩井一司	迫二郎	橋爪靖雄	蓮善隆	糠川孝之	長谷川文陽	波多野善蔵
波多野英生	羽田登	波多野正典	麦畑耕生	花輪滋實	羽石修二	馬場九洲夫	馬場弘吉
浜田英峰	早川嘉則	林慶六	林健人	林正太郎	林寧彦	林亮次	原田拾六
ピーター・ハーモン	稗田寿炎	比嘉恵美子	東田茂正	東直人	樋口雅之	久田邦男	
樋上千哲	日野田崇	平野祐一	平野由佳	廣澤益次郎	広沢葉子	廣瀬友美	広田優美子
深石美穂	深川巖	福井由美	福岡琢也	福島善三	福島武山	福田喜重	福田参平
藤井敬之	藤岡周平	藤田潤	藤塚松星	藤村州二	藤本智弘	冬柴文廣	古堅幸雄
古瀬堯三	古田好孝	古谷徹	古家喜義	星野友幸	細江稔	堀川十喜	堀俊郎
堀野証嗣	本郷大田子						

## (ま行)

前端春斉	味舌隆司	眞清水蔵六	松井康陽	松尾潤	松尾剛彦	松吉	松崎健
松嶋弘	松田由岐子	松林正人	松村仁団望	松村拓夫	松本為佐視	松本勝哉	松本佐一
松本尚	松本達弥	松本政昭	松本良夫	馬淵弘美	丸田延親	三木表悦	水野敬子
水野静仙	水野銘一	水野富弘	水野智路	水野教雄	水野真澄	溝上藻風	三ツ井詠一

美藤康夫	皆川隆	宮川香雲	宮川香齋	宮川弘尚	宮城須美子	三宅紀保	宮田亮平
宮地生成	宮地陶博	宮本直樹	宮本雅夫	宮本茂利	美和隆治	迎里正光	椋原佳俊
向山文也	夢童由里子	村井一郎	村上東市	村越風月	村瀬玄之	村田肇一	村山明
室瀬和美	室町勝廣	モーガン・ルイス		百田暁生	森一蔵	森伊呂久	森一洋
森勝資	森克徳	森里秀夫	森下育郎	森大雅	森田芳伯	森陶山	森本英助
森泰司	森山寛二郎	森脇文直					

(や行)

屋我平尋	安田龍彦	安田道雄	矢内齊	柳橋修二	簀内佐斗司	山内厚可	山内一生
山口美智江	山口良子	山路和夫	山田和	山田耕作	山田孝三	山田孝藏	山田晋一朗
山田進二	山田正博	山田みどり	山田義明	山近剛	山近泰	山出勝治	大和潔
大和努	大和保男	大和祐二	大和義昌	山中辰次	山本象成	山本雄一	山本竜一
湯村京子	横山尚人	吉賀将夫	吉川修身	吉川千香子	吉川正道	吉田隆	吉田宏信
吉田真人	吉田美統	吉田喜彦	吉富文代	好本敦郎	好本宗峯	吉本正	米田和
米田萬太郎	米山雅司						

(わ行)

若尾経	若尾圭介	若尾利貞	脇田宗孝	脇本定三	湧田弘	和田桐山	
渡辺松華(礼而)		渡辺琢哉	和田一人				

【版画】

(あ行)

霰嘔	秋元幸茂	安東菜々	井川鉞之介	池上壮豊	池間英治	井堂雅夫	井上勝江
浦田周社	尾崎淳子	尾崎斎晃	小原喜夫	園城寺建治			

(か行)

片山誓泉	河内成幸	木嶋ちさ加	木田安彦	日下賢二	日下里美	國安珣子	熊谷吾良
黒木良典	古賀章	小崎侃					

(さ行)

サイトウ良	佐久間嘉明	桜井貞夫	塩田みはる	志野和男	白木俊之	須田敏夫	世古剛
-------	-------	------	-------	------	------	------	-----

(た行)

高部多恵子	高柳裕	瀧秀水	田中喜一	地井紅雲	辻憲	鶴岡さゆり	富田文雄
富張広司							

(な行)

中林忠良	西貝和子	野田哲也	乗兼広人				
------	------	------	------	--	--	--	--

(は行)

浜本幸男	原三佳恵	藤田慶次	二見彰一	船坂芳助	堀江良一		
------	------	------	------	------	------	--	--

(ま行)

増田陽一	望月厚介						
------	------	--	--	--	--	--	--

(や行)

柳沢京子	山本桂右	山本光生	矢柳剛	吉田賢治	吉田正樹	米倉泰民	
------	------	------	-----	------	------	------	--

(わ行)

渡辺達正	渡会純价						
------	------	--	--	--	--	--	--

【書】

(あ行)

浅井機山 綾村捷子 新井光風 飯高和子 石本法子 江口大象 榎倉香邨 大石三世子  
 太田義久 小川東洲 尾崎邑鵬 恩地春洋

(か行)

笠原祥道 榎本桑牛 金澤翔子 杭迫柏樹 小島寿 後藤汀鶯 小伏竹村

(さ行)

佐藤煒水 座馬井邨 師村妙石 鈴木春朝

(た行)

高木聖鶴 田口尹基子 竹中青琥 田中光穂 田中蘆雪 鼓芳石

(な行)

中川裕皓 中村秀峰

(は行)

秀島踏波 藤野北辰 甫田鶏川

(ま行)

増永広春 村上俄山

(や行)

山添鼎石

(わ行)

渡邊笙鶴

【著名人】

(あ行)

藍弥生 吾妻ひでお 有馬頼底 安齋肇 いしいひさいち 石田隆 市田ひろみ  
 井筒啓之 稲畑汀子 植田豊弼 上野道善 宇野亜喜良 江上泰山 蛸原あきら 王貞治  
 大野玄妙 岡田圭介 小澤一雄

(か行)

片山治之 金子兜太 かわぐちかいじ 川津祐介 河村立司 木内達朗 岸徹心  
 きたざわけんじ 北見けんいち きむらゆういち 清原なつ の 工藤直子

(さ行)

酒井駒子 坂田藤十郎 狭川宗玄 佐々木悟郎 佐藤邦雄 三遊亭円楽 ジェームス三木  
 下瀬翠 下村瑞晃 宿輪貴子 笑福亭仁鶴 新川和江 菅原信海 鈴木英人 千玄室  
 千宗左 千宗室 千宗守

(た行)

高田明浦 高田良信 高橋真琴 多川俊映 武内祐人 田島征三 田代卓 立本倫子  
 田中恭一 谷川浩司 ちばてつや 中条春野 趙治勲 辻和雲 唐仁原教久

(な行)

内藤貞夫 永井ひろし 中原誠 中村梅之助 なかむらるみ 鯉江光二

(は行)

萩尾望都 長谷川大眞 長谷川義史 蜂谷宗玄 羽生善治 はまのゆか ヒサクニヒコ  
 日野西光尊 日比野克彦 藤子不二雄<sup>Ⓐ</sup> 古川タク 堀江漣子

(ま行)

前田昌道 松井秀喜 松長剛山 マツモトヨーコ 松本零士 美樹本晴彦 嶺興嶽  
 村上康成 森清範 モンキー・パンチ

(や行)

やくみつる 八代亜紀 安井寿磨子 安彦良和 矢吹申彦 山口哲司 山口はるみ 山口マサル  
 ヤマザキマリ 山田ケンジ 山藤章二 やよいとしん 蓬田やすひろ

(わ行)

若尾真一郎

【Next Art 展推薦作品の制作者】

稲恒佳奈	岩崎夏子	大平由香理	奥村彰一
遅野井梨絵	小田伊織	北川安希子	北直人
久保俊太郎	後藤勇治	顧洛水	
佐藤明日香	島崎良平	社本奈美	新直子
竹中薫	立木美江	丁子紅子	津田翔一
内藤亜澄	永井優	中島淳志	撫子凜
藤川さき	前川ひな	松尾彩加	松川佳代
松沢真紀	渡部仁美		



## ご寄付をいただいた皆様

2014年度に全国の皆様から当事業団に寄せられたご寄付は、総額2億257万8,729円にのぼりました（当事業団の東日本大震災救援事業への寄付を含む）。朝日新聞読者をはじめ、企業、団体、グループ、学校など、多くの皆様が当事業団を寄託先として選んでくださいました。また、近年は遺贈の送り先に当事業団をご指定いただくことも増えてまいりました。ご寄付いただいた皆様に厚く御礼申し上げます。

お寄せいただいた温かいお志はこの事業報告で紹介している、さまざまな福祉事業に充てさせていただきます。今後ともご支援、ご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。

なお、ご寄付いただいた皆様は次の通りです（敬称略、順不同）。

※掲載スペースに限りがあるため、東日本大震災救援事業へご寄付いただいた方のお名前は、匿名希望の方とともに省かせていただきました。

- ▼北海道：石橋昭二郎、泉賢司、今村正克、浦山澄雄、大島陽太郎、大谷隆夫、長内諄子、加藤佳夫・多満喜、川端暢文、川村三枝子、菊地正義、久保商店、小岸由美子、坂井洋一、桜井智康、佐藤巖、佐藤栄、鈴木真知子、世良雄二、高木医院、田代理枝子、発寒中央病院、服部昌男、浜島泉、藤山直子、堀井英子、増田裕一、宮地昌代、毛利京子、山本紳朗
- ▼青森県：小山田良三、佐藤内科小児科医院、佐藤正哉、佐藤祐逸、中野京子、八戸市立高館小学校、藤田雪乃、山崎みゆき
- ▼岩手県：飯島医院、石川洋子、佐々木茂、沢良恭、榎東北堂、ドライブイン湯田・木ぼっこ基金
- ▼宮城県：天粕典子、木村由子、日下英夫、佐藤富美子、菅原裕子、鈴木慎二、田中妙子、日野洋子、松本真奈美、三浦七郎、吉田正子
- ▼秋田県：飯塚久雄・春美、池田金二、大佐賀良子、小熊君子、斉藤信幸、佐々木雅敏、菅原芳徳、須田房二、須藤礼次、高橋彰彦、高橋凌風、鶴田貢、橋本真理子
- ▼山形県：佐藤玲子、豊川和弘、布川久美子、村山正司、渡部美智子
- ▼福島県：安藤治、上野照男、折笠百合子、樋口勇、星熊雄
- ▼茨城県：荒川一雄、石津幸枝、岡山伸一、荻原奉祐、奥沢裕二、小澤皓雄、粕谷日出夫、加藤勝英、川野辺薫、神原好彦、窪田敏廣、小張クリニック、駒井英子、斎藤保夫、酒井弥寿子、坂本泰徳、櫻井一郎、櫻井忠男、(有)佐藤新聞舗、柴崎俊子、千葉茂、辻久茂、早川準治朗、星野秀雄、升田航貴、百々塚光征、山口正司、山本幸市
- ▼栃木県：縣君子、ASA宇都宮西部、荒井俊邦、新井正男、伊藤洋子、大澤典夫、小野勇、鎌田正信、越川栄子、ササキノブヨシ、塩野谷信夫、杉信賢一、滝童内のり子、手塚正志、西田一巳、野田励司、原喜久子、平野敬、星野恵子、三村美知子、矢作喜久夫、渡辺時夫
- ▼群馬県：ASA前橋西部、荒井武正、伊藤恵美、掛川美代子、金井清、木村隆彦、斉藤恵利華、佐俣奨、清水明貞、鈴木憲一、田所とみよ、田中嘉親、樋田博、松澤弘子、矢作正夫、山丸幸子、山本道子
- ▼埼玉県：相関淳子、相原幸子、青木克美、青木登喜夫、秋田宗亮、ASA川越南部・ASA川越中央・ASA西部・ASA南大塚・ASA川越東部・ASA霞ヶ関、ASA小手指・狭山ヶ丘、浅野幸子、浅見廣郷・時江、尼子文子、天野志津江、新井昭男、荒井規行、荒井健次郎、飯島進、五十嵐公輝、五十嵐弘至、五十嵐隆治、磯芳枝、一の割やきとりひょうたんお客様一同、井上桂子、入間市立金子中学、上杉清秀、上田豊、江本房利、江本哲也・美奈子、遠藤正義、遠藤靖夫、大神雅子、大島昭義、岡崎弘子、岡見宏道、小田切豊雄・正子、落合勝安・一江、鬼塚磐雄、小野博之、笠原政二、樫原隆、加藤徹、兼岩直子、金子千侍、菊池皆子、菊地七郎、菊池真帆・夏帆、岸紀久子、木嶋良吉、木津寛美、久保田鷹光、倉持彩子、鯉登信義、小室クリニック、埼玉中部朝日会川口支部一同、斉藤祐輔、佐藤一利、佐藤けい、佐藤守、澤田雅夫、柴田眞樹、白石道子、鈴木良子、関根武、関根登世子、関本千恵子、曾我淑人、高佐屋三郎、高崎道子、高橋道男、高野真理子、高橋治男、高橋仁、田代和子、峪ヨシ子、田林クリニック、千葉光昭、津田信一、手塚リリ子、鉄子写真頒布の会、寺田英行、寺田眞廣、陶芸教室「トモ&ミキ」、(有)堂下新聞舗、トラムカフェ、内藤哲、永井安子、長崎悦子、永野エイ、長村行晃、中本久、名越啓史、西川牽造・秀子、西野優子、西本愛子、西森幸雄、襦屋照夫、野見勇、蓮田育郎、羽石史生、馬場夕美子、馬場常正、浜中隆彦、原島保美、飯能ウオーキング倶楽部、飯能新緑ツーデーマーチ実行委員会、(株)ピーエスケー、日高護、比留間一男、廣澤成昭・攝子、福田利幸、福田宏征、伏見泰子、プラスワン印刷企画、(株)フルカワ、古谷信雄、星野宗弘・伸子、細谷厚夫、堀康彦、町田金治、松田光、松本一男・せつ、松本輝子、松盛将三、丸山康三、水谷道枝、宮澤健蔵、宮嶋祐一、宮本眼科医院、宮本富雄、村岡美佐男、村岡洋子、村田千穂子、村山律子、茂木克己、元吉泰幸、森川光一、安河内功・

弘子、安富諭、柳本晴子、矢野勝喜・佳子、湯田明美、吉川豊、吉田栄吉、米元直幸、笠満利子、渡邊恭子、渡辺茂樹、渡辺利夫、渡辺洋右

▼千葉県：青木皓修、ASA白井、ASA行徳東部、朝日カルチャーセンター千葉、天野昌紀、雨森勇、安藤博、飯島勢津子、池田守、石井従道、石川三朗、石倉仁、伊森由美子、植草光春、薄葉千恵、宇都宮利善、梅澤一、浦田義一、大慈彌豊子、大島サク・順一、大塚雄志、大村泰司、大屋康夫、小野玲子、大和久すみえ、小河原輝子、岡戸土母子、岡部匡克、小野雅子、尾花喜久子、一井美代子、加藤章吏、門脇幸親、唐木田卓司、川島正治、川田雅昭、川野歳治、川畑俊和、岸栄輔、岸波弥栄、木下智雄・幸子、木村洋子、黒川澄夫、小池菊平、小泉孝一、桑折勇一、小宮山良男、今裕之・久子、近藤洋一郎、齋藤和子、斉藤晃汰・智菜、斉藤勉、斉藤まき子、酒井重秋、坂野康郎、桜庭繁子、笹生則子、佐々木信代、佐藤梅代、塩川敞司、信太忠二、嶋田博子、清水和男、下野千晴、下村順子、白濱雄三、榛村輝子、菅谷鮎子、杉田幸子、杉戸一恵、杉原純、スギヤ英数塾、杉山すみ子、鈴木延勇、関根一権、善當治昌、高岡信男、高木和夫、高波泰、高橋巖、高橋和哉、高橋正弘、田口久雄、竹内達、竹内信行、立田文夫、田中耕一、田中良治、「小さな親切」運動ちばぎん支部、千葉北部朝日会、土田芳孝、常泉孝、手嶋洋子、手塚たま子、戸田さとみ、都丸司、富永敬子、富永貴子、富永啓信・コ一太、友成精利、内藤文春、内藤たぬ・ビス、中岡進、中川喜三、中野澄子、長峯弘記、成田能美、布屋春美、根津澄子・珠美、橋光子、長谷川寿々子、蜂谷佳子、はっぴい・べっせる、早川静子、林常蔵、林正子、檜垣進、東勝也、東富美子、平本尚靖、広田栄次郎、福田耕三、福地美津子、藤木武夫、藤谷玲子、古川喜一郎、古川明美、古谷皮膚科クリニック、細田康子、松谷順子、松戸いずみ幼稚園、松丸博昭、三石昭、三浦マリヤ、三島隆徳、三須菊枝、水田敏子、峰岡英子、三宅久行、宮本民雄、武藤弘、村松知・真理子、森下蓮子、守田正照、森弘、八尋淳一、山内幸夫、山形まち子、山崎昇二・真弓・大右・心太、山田和雄・恭子、山田恵子、山田修一、大和均、山根和子、山本家彦、横井陽一、吉岡真利子、吉田英一、若泉史、和田弘子

▼東京都：相澤勇、㈱アイ・ビー・サプライ、青木幸子、青木房江、秋田三穂子、秋山信義、ASA大塚仲町、ASA仙川、ASA八王子南口、ASA府中西部、ASA町田木曾、ASA大和西部、浅賀登志子、朝日カルチャーセンター立川教室、朝日新聞信用組合、朝日新聞社販売局、朝日トップス㈱社員会、阿部義郎・三紗子、天野重夫、雨森剛三・れい子、安室礼三、鮎川泰夫・陽子、鮎澤知枝子、荒井久夫、荒井康博、有田孝久、飯塚キヨ、飯山早智子、五十嵐篤男、五十嵐信日子、井口国子、井口澄子、池亀頼江、池田暁、池田久美子、池田恵子、池田幸子、池田忠子、池田徹治・コト子、池田康・紀子、池田史生、石井明美、石井八栄子、石賀武、石川剛毅、石毛綾子、石田駿一郎、石戸純一、石戸谷信志、泉泰祐、和泉屋節子、磯貝博司、市川泰子、一布会、糸井はるゑ、伊藤文子、伊藤重定、伊藤静代、伊藤俊雄、伊藤典子、伊藤正直、井上敦夫、井上よし江、いの耳鼻咽喉科、今尾梨津子、今村栄子、岩上貞子、岩城忠之、岩城勝、岩崎千恵子、植田静子、上野学園、上野菊枝、上原修、上原京子、宇佐見清・勝美、宇田川亮一、宇野勝己、浦野ますみ、江川礼子、榎本明江、M・F、遠藤早苗、遠藤耳鼻咽喉科・アレルギークリニック、櫻美会、大熊孝子、大澤金政、大島尚子、大竹茂仁・太上・信子、大多和彦一、大塚隆、大塚正子、大塚美枝子、大西信也、大沼正博、大林道子、大洲雄一郎・靖子、大房順雄、大藪龍子、大脇勲臣、小笠原将・典子、岡田和義、岡田肇、岡村悦子、岡村早陽子、岡本一郎、小川順子、小川達郎、小川美恵子、興野清、押田佐知子、小野寺フミ、各務正吾、影山兼道、鹿兒島玲子、笠原陽子、梶加代子、柏原恵、春日直也、加藤昭、加藤徹郎、加藤ミチ、加藤幸雄、金澤恵子、加納有二、鎌田昭次、鴨下清純、川口義昭、川瀬純子、河野哲夫・弘子、河野芙美江、川端章一・百代、河部寛美、川本敏郎、韓国家庭料理・珍味、菊地まり、岸修、北村満子、杵勝会、木下照子、木下勝、木村文治、木村将、巨勢典子、工藤進、工藤三夫、國見大・健、熊崎和代、倉持雅子、栗原一郎、栗原勝雄、黒須誠、小池咲子、高円寺・珈琲あろうむ、国府田七郎、小勝竹雄、小平三郎、小西由里子、小林一正、小林建次、小林尚希、小林宏、小林光江、小林ユキ、小船次子、小峰真紀子、小宮昌枝、古明地幸勇、小谷田利郎、小山和子、小山千宏・量恵、小山知之、小山睦子、近藤麗、近藤和恵、齊藤善五郎、齊藤智江子、坂井悦子、酒井賢、坂井昭七、境井敬昌、坂井則幸、酒井珍儀、酒枝康郎、坂口悟、作間敏夫、佐古浩敏、佐甲和、佐々木胤郎、佐竹芳浩、佐藤きぬ江、佐藤澄・くみ子、佐藤肇、佐藤治子、佐野武房、重信喜世子、重松昌三、実践家政科会福祉部、品川珠代、篠倉正信、篠原喜美雄、柴田恵美子、柴田琇一、柴田正光、Jibe、島崎芳巳、清水歯科医院、清水太一、清水大輔、清水勝、清水美佐江、白石みどり、杉浦和子、杉浦美奈子、杉田隆志、杉本淳子、鈴木和子、鈴木邦子、鈴木秀子、鈴木正義、鈴木ユリ子、須田明子、諏訪眞司・邦子、聖学院幼稚園、聖学院幼稚園保護者会、関野和子、世田谷区立用賀中学第16期生同窓会、(有)専修クリエイト、仙田勝、仙頭邦子、全日写連東京12支部クリスマス合同例会、相馬志津子、第一期朝日洋上大学45周年記念同窓会、大東学園高校ものづくり研究所部一同、高木文博、高木芳子、高島志津、高嶋久枝、高田典子、高梨輝雄、鷹野寿恵子、高橋薫、高橋千枝子、高橋不二夫、高橋真理子、滝沢ふみ子、田口真義、武井鑑、武井靖子、竹上秋彦、竹中勇、竹村隆司、田代田鶴子、館花民雄、橘ダンススクール、田中修、田中一俊、田中喜久子、田中清、田中寿子、田中美郷、田中理恵、田辺眼科、田辺東平、谷口一郎、谷下一夫、谷尚子、田部美智子、玉井道裕・美枝子、田宮貞和、田村クリニック

ク、田村けい、辻久美子、津島法子、土田純二、土田豊・あつ子、土屋翠子、堤次雄、常川紀子、角田和彦、角田邦明、鶴田康、手塚統夫、寺坂勝、寺田眞文、傳田和子、東城百合子、戸田貞夫、戸田盛忠、利根澤正弘、飛田寿美子、飛田満彦、富塚茂雄、富永聖一、富村憲一、内藤齊、中井裕夫、中川潔・泰子、中川雅代、長沢淳、中沢昌子、中島和子、永谷美耶子、中村英、中村邦彦、中村寿美、中村斐子、中村玲子、中山正子、名取こずえ、奈良昌一、南條継雄、南晴病院、新名郁子、西尾初枝、西尾美重、新田國夫、仁平富美江、日本コントラクトブリッジ連盟、二村克彦、沼沢良樹、野尻裕一、野間口至・敞子、野本登、橋本秀明、長谷川潮、長谷川真、長谷部信也、羽立賢二、浜田隆、浜田ひろし、羽村富士見SC27期、早坂實、林幹夫、林田和泉、林部邦子、早野良子、原環、原嶋美雪、原田積善会、伴亘、坂東邦夫、番場隆、東晃、日上操、樋口信三郎、檜山博昭、(株)病院アシスト、兵庫悠子、平井明生、平岩千代子、平川恒久、平田多恵子、広瀬藍子、枇杷阪秀明、深川スミ子、福井一彦、福井正行、福岡紀子、藤井裕子、藤川雅彦、藤田恵子、藤田紀久、藤田美江、藤田実、藤本きみ、瀧崎勝憲、古川キヨ子、古谷亀鶴、古屋幹子、朋優学院高校PTA、保坂修蔵、星野富榮、堀恒子、堀水美津子、本浄寺、本田二郎、本多武、本間久美子、真板幸子、前川信朝、前田まち、眞貝緋奈子、増田エミ子、増田福秀、増田実・益子・智子、増田善計、町田寛子、松尾純子、松澤俊志、松村敦子、黛巖、丸山彰、丸山みえ、萬代貢一、見市元、三浦すみ子、水上篤・よし美、水越次男、水野園、三鷹市消費者活動センター運営協議会、緑川勝子、宮内繁、宮崎亮・かちこ、宮田誠志、宮平五百子、宮村正廣、宮本節子、三好ヒサ、三輪登士夫、村井丕子、村井善郎、村田三枝、村野富貴子、日黒進、持田政彦、望月紘一、本橋常彦、森井閑江、森田恭生、八木皓一、矢島伸治、安彦忠彦、柳春子、柳原國臣、藪崎光子、山岸律子、山口なを子、山崎清、山崎敏光、山下クリニック、山下妙子、山下泰子、山田信一、山田美江、山村伸一郎、山本以和貴、山本やす子、吉澤忠一、吉田雅一、吉田米一、与芝豊、吉原清美、吉原安夫、吉森浩子、米川信子、(株)楽天地オアシス・法典の湯、若山麻美、涌嶋俊計、和田裕久、渡辺伎美、渡辺咲子、渡邊秀子、渡辺正江、渡辺泰明・美智子、渡邊康子、渡部通英

▼神奈川県：青木幸雄、赤山康和、秋本典子、秋山康吉、ASA青葉台北部、ASA大倉山東部、ASA大沼、ASA大船西部、ASA大船北部、ASA上永谷、ASA港北NT東部、ASA腰越、ASA田園田奈店従業員一同、ASA秦野、浅場馨、朝日新聞販売(有)、あしび、網代和枝・多恵、厚木荻野走友会6時間走、阿部勝朗、(有)アミッド、新井敏文、新侃、有田一家、安藤愛子、飯島幸子、池川明、石川一彦、石川和子、石塚香津代、石原三喜男、板倉秀男・和子、伊東欣二、伊藤嘉知子、伊藤道子、犬塚初江、今井孝一、今村義弘、岩下健三、岩田力、内海伸子、梅村紀子、(株)エイワ、恵畑欣一、m・m、遠藤ゆき、大倉房江、大関タカ、太田美和、大野出穂、大堀末雄、岡田啓介、岡村内科医院、小川悌三、小栗正文、小沢英雄、柿生中央商店会、掛川節子、櫻田素子、梶原孝久、春日廣之助、算義広、片岡淑、加藤清二郎・富子、加藤弘道、加藤光子、加藤陽一・静子、神奈川県少林寺武道競技連盟、金子志げ代、鎌田佐規子、讓原昇、川本キクエ、瓦田信彦、菅野喜和、菊池武、北村馨、木村成一・瑞千代、木村晴信、木村ひな子、草野智行、久保芳文、倉知千枝子、黒沢政雄、ケアリー美代子、高口湧太郎、颯太郎、瀨瀬蒼洲、神山充世、小坂幸男・泰子、小嶋一夫、小杉弘、小菅興正、(株)コスモテック、小林清重、小林清吉、小松憲司、小室真、小柳節子、近藤勝、斉藤絹子、佐伯泰志、坂井田実、酒井徳三郎・米子、佐々木光明、さつき町ファーマーズ、佐藤幸子、佐藤順二、佐藤正・久美子、佐藤正典、座間博、猿田逸夫、澤田叶也、澤田君代、三和看護婦家政婦紹介所、品川孝昭、地引弘、清水夏江、清水雅良、志村三知子、下島和子、下野昇、白沢勲、新谷洋子、菅井良幸、杉山明、鈴木由佳理、角和江、関ひさ、瀬戸三雄・美智子、体操の会さざんか、田籠雅、高崎修、高崎昌司、高谷喜美子、高橋虎彦、高橋宏之、高橋幸雄、高平孝一、竹市義弘、竹内晟・淑江、武田敏、(株)武田新聞舗、伊達知史、田中京子、田中さわこ、田中博、田中正男、田辺幸子、田辺勇、玉岡博文、地崎広、土屋紀代、手島温子、寺尾康隆、濤崎恭平、遠矢尚子、富山重成、戸村隆子、中尾英一、中川美榮子、中里厚実、中澤誠、中島善範、中野泰子、中村士郎、中村啓信、中村美佐保、中村康子、中村行男、西富房江、西山由巳子、丹羽邦彦、野澤美重子・ヒロ子、能登屋良子、野村良彦、野本久米代、萩森康子、橋本直樹・鏡子、花澤武、濱清造、羽毛田修、半田喜久子、半田幸子、菱沼保幸、平澤あい子、平田キヨ、平綿孝一・陽子、弘田茂穂、福田稔子、福原隆司、袋康男、藤田まさみ、藤野芳郎、藤原美佐子、別府純一・貴美子、ボイス遊3、細谷正二・洋子、堀井祐二、堀口幹彦・和子、本田昌子、前山寿一、松岡圭子、松田久美子、松本キク、松元英子、三浦恵子、三浦隆子、三木昭・明美、水口妙子、宮崎善雄、宮本尚武・美也子、美代川ひさ子、室井忠六、面川宏美、望月節子、(有)森国薬局、森勉、八十田医院、矢野耕司、山浦恒央、山口喜一、山崎富久子、山室睦雄、山本芳枝、山本よしゑ、山本瑠美子、洋裁倶楽部、横山田鶴子、由井平和、吉池泰子、吉井悠美子、吉居浩二、吉澤千恵子、吉田裕子、吉田善治、吉野恭子、代田治彦、米須昭子、米村雅世、脇中利宣、和田尚道、渡辺昭栄、渡辺逸郎、渡辺克己、渡辺当美、渡辺夕子、渡部綾子

▼新潟県：(有)岩崎新聞店、大平健夫、風間淑子、金子美智子、黒田喜久二、小林町子、斉藤陽一、高橋鐵行、田辺アツ子、玉木清、藤崎良美、宮下菊代、山口彰二・貞子、山崎康子、山本美保子、山本宗明

▼富山県：浅畑道子、黒澤誠、三上徳次郎

▼石川県：進地三雄、砺波朱美、藤村和昌、山越栄幸・喜美子

▼福井県：小川公一、鹿野経夫、吉田正美

- ▼山梨県：倉澤角三、坂巻嘉子、重野隆雄、高橋純男、日原良二、藤田みや子、藤原静男、堀田幸江、三科省三、三森あき江
- ▼長野県：浅沼直和、上田腎臓クリニック、臼井直義、大橋春武・友子、小金沢保重、近藤幸夫、佐藤友美、篠田仁宏、清水栄治、清水もと子、上中一六会、筑摩補装具、塚田修、塚本充雄、常盤欣司、中根明子、株浜新聞店、宮沢東洋雄、望月正子、師岡恒司、山瀬敏郎・田鶴子、和井田祐三
- ▼岐阜県：ASA多治見中央、大迫輝通、尾関たみ代、工藤学而、黒田英郎、澤田英夫、正者敬一、市立岐阜商業高校「岐商デパート」、杉山博恵、根崎浩郎、野田嘉則、長谷川弘、八賀弘、服部弘子・圭子、廣江和直、前田晃造、松本美千代、水口和子、森園司、吉田伸子
- ▼静岡県：浅井博、浅井真美、浅川浩慶、石田敏、伊藤求・明德、今村重美子、岩谷三四郎、ウィンディー風間、内山さわ子、宇野眼科医院、遠藤まつゑ、尾崎文春、片山偉三男、片山志津子、金子妙子、川合房子、甘露寺、稀代幸雄、後藤晃之介、近藤康幸、静岡県高校野球連盟、鈴木千代子、鈴木壽雄、多々良幸子、侑多々良新聞店、津田司、戸塚忠、西方さかゑ、野村長夫・レイ子、野村育代、長谷川大地、長谷川舞、服部医院、馬場庄三、久村洋子、晝間登久子、藤田宗文、榊田けい子、村松尚代、望月保宏、森下和夫・三千代、山下知子、横石恵子、吉川医院、吉田徹、吉田三毅夫
- ▼愛知県：相川正男、青木茂、青島鍵一、ASA笠寺・柴田・道徳・桜、ASA丸山、浅野明美、浅野和男・恵津子、浅野哲治、朝日カルチャーセンター「朗読教室」「ストーリーテリング」一同、安藤君衛、池田隆義、伊藤栄一、伊藤健、伊藤隆之、伊藤智章、稲垣克己・脩世、今井正、今枝康、岩崎栄一、岩村良平、内海紀章、大石文恵、奥山富子、尾関博、尾野忠雄、影山遼、可知功子、勝田由紀子、加藤孝平、加藤繁雄、加藤忠、加藤文男、加藤誠・みづ江、金子博夫、兼松栄子、神谷一嘉、川口澄男、川端優男、川本由美子、木村佐登美、木村夕エ子、黒田斌嗣、黒谷次郎一、小出公芳、小久保茂樹、小崎広治・早苗、後藤修、近藤恵子、斎木清治、齊間匡司、坂井恵美子、坂井忠夫、坂上雄、桜井勝、笹淵千紗、佐治満里子、佐藤孝一、柴田紀作、渋谷正一、清水緑、下山敬、杉山広光、鈴木武・尚美、鈴木恒裕、巢永健二、瀬川昂生、大同高校、竹田勝代、丹蔭輝男、田中清、田中真砂子、田中雅仁、田中八代子、谷口国雄、千種教之、株中部朝日広告、デイヴィッド・ストーンズ、徳永岑生、長尾浅吉、中田重子、中野喜久子、名古屋美術青年会、名古屋深雪会、七ツ村繁、南原彩稀子、新美幸子・荻村百合子、西雪良雄・春子、野田隆稔、野田一三、野武二郎、服部明、早川常彦・祥子、平塚久男、深谷攻、藤川鈕子、藤丸勝己、ヘンデル協会、堀田ひさ子、堀田利男、前田豊子、松野辰弥、松本直良、三木眞嗣、宮木秀男、三輪菊夫・栄子、村上匠、村上睦代、村越誠一、村田光敏、森本末男・久代、森本順子、森本とよ子、山口知、山口徹、山崎美子、山田恵子、山田美智子、山中明美、湯瀬逸雄・美知子、横井龍一、吉田明夫・ハツ子、渡邊剛
- ▼三重県：青木秀生、ASA津販売、浅田はみ、井坂世紀子、伊藤好一、大野早苗、奥野洋子、亀井百合子、川村憲一、近藤育夫、酒徳芙美子、清水廣幸、玉岡輝男、中世古浩子、中村文世、野村淳刀、服部政夫、濱口宏子、樋口徹也、盆栽友人趣味の会、松岡雅子、三重県朝日会、水谷皓子、森本真人・弘子、柳瀬恒範、山本克己
- ▼滋賀県：石名栄佑、石原愛子、井上ミチコ、岩元俊子、上田一郎、植村良雄、梶原武、北村郁夫、小林照夫・初子、重本ひさの、谷柿勝彦、辻寅建設㈱、豊島秀人、鳥居久仁子、野村喜代子、廣嶋忠代、藤野滋、松田孝子、村井宏行、山村昭夫、吉永行夫
- ▼京都府：ASA宇治西、浅輪信子、安達晴紀、稲田満行、今福庄治、大谷光真、岡崎芳弘、尾寄千恵子、小田垣義明、折井英子、北川光夫・恵美子、京都聖母学院中学・高校・生徒会、京都日経会婦人会、小出耕資、古玉克平、小林タマエ、小牧貫治、小山猛、佐伯征大・照美、佐々木克巳、杉山毅、高石照子、竹中陽子、多田教亮、塚本文啓、辻嘉津子、中間桂子、中村善治、西村政夫、長谷川きくゑ、福井紀美子・美香、升山春彦、松本香、溝浩、光田小夸、三間寛次・俊代、村井五郎、村田晶子、村松陽子、森下ヒサ子、森田紀子、山下美智子、山田健一、渡辺桂子
- ▼大阪府：赤井泰子、秋田仁士、浅井サチ子、朝日新聞河南販売㈱、大阪府レクリエーション協会（朝日民踊大会）、芦田達夫、ASA深井侑アネット、天野仁・きみ子、荒川房江、安藤はるこ、井口理、池田有、井澤一郎、石城戸博子、石田昭勝、石田章、泉原昭三・ちさと、磯邊延宏、稲瀬修治、乾敏郎、井上友治、井上義雄、今給黎勉、今村明美、伊山道子、入木邦子、岩井壽恵子、岩井春恵、岩井良三、岩本春美、上田輝雄、上原秀和、宇澤善一郎、宇野米太郎、上羽福太郎、遠藤昭・ツヤ子、大北勇司、大黒孝満、大阪学芸高校平成26年度2年12組、大阪シティ信用金庫、大阪市ママさんバレーボール連盟、大阪府高齢者大学校・大阪の良さ再発見科一同、大阪深雪会、大塚伸二、大塚盛信、大野俊彦、大橋研造、岡田和子、岡本純恵、小河文治、奥井基子、奥野哲哉・美耶子、織田皓一、甲斐田美智子、海部要三、加川和代、垣内邦明、角谷陽子、梶村チエ子、粕谷久遠、片山哲子、金澤文子、金沢楨、金子紀恵、神木昌子、亀田英明、川口六郎、川崎優子、木岡逸子、北之坊皓司、北箸一雄、喜田充郎、木田稔、北村幾恵、木村富雄、木本弘子、京谷慶二郎、切通良昭、日下敦子、楠宗一、久保田健一、久保道子、栗原義美、栗本透、菓正継、桑原諄治・ひろ子、月輪寺・榎本桑牛、甲田尚子、甲村文子、古河拓、小櫻孝司、後藤和彦、琴谷敏治、小林一雄、小林たね子、小峰聖子、小室泰子、小山大亮、小山敏子、近藤節子、近藤朋子、齋信繁珍、酒井俊悟、榊原明子、坂口博康、阪口厚子、佐藤令

子、佐飛辰雄、澤充子、(株)サンディ、山東利一、塩見克美、七野佳子、柴田玲子、柴原梅子、島津順子、清水勇、清水猛、下浦宏允、下出喜久子、白井医院、人生道場、新谷洋二、末吉武男、菅原猛行、杉浦幸弘、杉本房枝、鈴木サヨ子、諏訪百々子、聖愛幼稚園、星翔高校生徒会、瀬部紀美子、總田賢治・純次・剛志、添田美代子、鯛島達雄、大道研二、高木玲子、高野和浩、高野とし江、高橋良子、田口鐵男、武居トシ子、武林明、橘容子、辰巳砂仁美、辰巳新枝、辰巳孝、田中悦二、田中勝美、田中穂積、田中泰子、田中康久、田野ヒサ子、田渕哲・多恵子、段野邦夫、津国民雄、辻友美、辻井伝七・種子・美代子、辻外科リハビリテーション病院、辻谷英治、堤芳子、浦西美智子、津野泰子、出口孝友、寺中正義、土居利夫、百目鬼主計、徳永綾子、栃原忠昌・サダ子、登村輝夫、友近綾子、戸谷孝子、内藤季夫、長尾昌治・怜子、長岡靖裕、中尾サチ子、長尾谷高校、中尾英樹・みどり、中上佳昌、中川英子、中嶋謙吉、中島忠男、中島チエ子、中島正典、中島了右、中瀬嘉幸、永田勇、中屋敷清、名村正勝、新船満江、西浦貴美子、西川恭子、西口澄子、西田加代子、西田義幸、西仲茂、西村富士代、西山幸恵、野口美智子、野下之男、野呂義隆、萩尾千里、萩原永美子、萩原克己、橋爪喜久子、橋本美知子、羽瀬宏一、畑中二郎、服部浩子、服部昌子、林昭男、林郁、林威三雄、林トミ子、日置雄毅、東大阪大学・東大阪大学短期大学部・翔愛祭実行委員会、人見善三郎、日野泉哉、平井留吉、平野四次男・元子、昼埜文子、福井富美恵、福岡利男、福島康夫・美知代、福永正弘、福野成雄、福山章紀、藤井喜美子、藤崎まり子、藤田勇、古谷満子、細井洋子、上枝照子、堀田喜久、堀池芳江、堀尾裕幸、堀切裕行、堀古利明、堀野有美子、前田紀美代、前田ひろみ、前野博之助、真砂信三、松井きみ子、松浦敏成、松岡学・朝生、松下勤、松林睦夫、松原美佐男、松本欣子、松本忠能、間宮敏雄、三浦光夫、水谷泰子、水野禎一、三谷節子、(有)緑工業所、南洋子、三村晃、宮木暁子、宮崎弘、宮崎由美、百地俊一、百野隆一、森快三、森美代子、森栄明子、森本恵子、八木黎子、安井一雄、安岡邦昭、(株)安田薬局・お客様、安田吉美、山形恭弘、山口厚美・牧子、山下寛、山田章博、山田健三、山田貞夫、山田幸子、大和梱包、山中守、山本治、山本紀夫、山本幸男・共子・聡子・尚史、湯浅康子、横内洋子、芳井恒治、吉岡和子、吉田繁則・直美、吉田正、義積通子、吉永由美子、吉村隆、吉本信子、和田綾子、和田信矢、渡辺、渡辺雅美、渡辺良子

▼兵庫県：合田梢三、赤尾征一、赤金義一、ASA尼崎東、ASA雲雀ヶ丘、ASA名谷、浅岡芳司、朝倉吉平、朝田菊緒・展子、阿部栄夫、飯田規子、池本輝久、石井日出夫、石田あかり・遥香・遼介・優香、市原貞夫、井戸トヨミ、井上英土、井上壽子、井上美知子、猪原退蔵、岩田フミ子、植田弘、上野秀俊、上堀順一、宇田公美、梅田和子、梅原隆治、大石京二、大江良一、大久保宣明、大高修作、小笠原順子、岡田樹久代、沖塩眞一郎、尾崎久枝、落合滋、金井富太郎、金澤敬子、鐘撞恵美子、加納良男、鏑木栄一郎、加味忠司、亀井悟郎、川上大林、川上信男・廣子、川瀬亮太郎、川端保雄・治子・真子、河村慶子、木下勝弘、木村功也、車野依子、権田武、斉藤文子、斉藤郁子、坂元紀子、佐野隆二郎、篠田武、柴田寛、嶋村郁子、清水勤、真生園有志、新免篤司、菅村和弘、杉本力、鈴木敏男、外山清登、外山妙子、高雄厚子、高福誠・憲子、高村英子、竹内竹司、竹下キミ子、竹中宗雄、多田羅螢子、龍田早苗、田中貞子、田中誠一朗、田中幸雄、谷稔子、谷政敏、垂井和也・冷子、丹治明子、筑瀬重喜、手塚晴彦、寺田秀子・宏貴、寺本躬久、富島祥二、富田佳志、内藤睦、中井正、中江義雄、長尾絢子、中園日出彦、中原征人、中道健治、中村幸夫、西村俊・嘉子、橋本壽明、長谷川榮治・幸、畑尾雅子、花井彩、早川保子、稗島照代、日笠久美、東米子、樋口量子、平井由美、廣辻逸郎、弘山夕ケ子、深津秀子、藤井保男、藤岡賢子、藤木克尚、藤本洋敏・陽子、藤本善之、佛立寺婦人会、前田久美男、松岡美代子、松本茂、真殿みさ子、水嶋幸江、水本雅子、三原憲二、宮西すず子、宮本美智子、村居哲、村越婦美代、望月佐和子、森川昌長、矢達貞子、山川香子、山崎敏明、山下兼一、山田保、山本桂子、杠葉義隆、吉田貞芳、若林正也、脇坂正之、和田産婦人科医院

▼奈良県：明日香青陽窯陶芸教室、池田登美子、石田勇、岩崎順一、大西和子、大西絹次郎、大西利明、大山武、岡嶋俊男、川畑宗一、菅野チカ子、北相模勝・孝子、木村佐喜夫、芝原俊一、下村宏、崇徳寺・安井良道、平恵子、高桑邦子、竹岡勇、田中政治、谷義郎、東大寺、栃窪貞司、中江作郎、中之瀬文代、西川勝、西川泰次、野村進、花森俊之、濱川利郎、日根文男、藤井昌代、藤澤幸子、本田佐智子、松井一夫、松本寛子

▼和歌山県：市ノ瀬伊久男、市原孝、貝川好延、笠松雅子、高村真知子、竹中信夫、中村啓子、野口稔、東谷好子、馬淵義也、光定和男、諸橋道代、山本一郎

▼鳥取県：田中幸夫、矢谷啓、米原章喜

▼島根県：江口茂雄、太田早苗、秀蕊気光研究会、福岡典子、丸山浩二、山根武・愛子、山穂

▼岡山県：今井眞澄、大森マサ子、小田朗美、金平洋子、金光義弘、神山敏雄、草下伸介、高橋辰雄、寺川利子、徳山孝義、中村淳一、西山のぞみ、原田格二・雄一、星野謙蔵、松本英明

▼広島県：ASA可部、石井美智子、石田泰正、井上年光、井上尚子、畝田俊治・怜子、柏葉義明・幸枝、上垣内伸宏、金永謙、児玉百合子、崔成源、斉藤皓三、佐藤嘉展、曾根順子、田中誠之、田村節子、築山直弘、角田幸信、中村耕也、中村順子、浜田春之、東三千年、福原賢治、藤本文恵、藤原紀男、水田耕嗣、椋代敦子、村上益夫、矢上睦子、矢野清

▼山口県：赤川医院、朝日新聞下関販売部、池田和生、今住功・ミチ子、潮浩、大久保太一郎、大津緑洋高校

日置校舎、岡基子、岡崎鶴子、岡村和典、織田哲至、河村茂延、河本眞龍、木村猛雄、隅田茂生、高松恵美子、高山晋洋、武居稔博、天空静香、徳田修、中尾文雄、並川宏、原昭彦、原田巖(初称)、原田英治、平田晋、広重清子、広田幸名、深本良一、福山道義、松崎浩司、宮本甫子、山岡邦雄・恵美子、山根喜美、山本久美子、山本春夫、湯田自動車学校、吉見ラジオ体操おはよう会、和田鵬亮、渡邊おでみ

- ▼徳島県：泉公允、小畑安子、紅露三太郎、後藤恵子、小山国雄、上甲哲史、スクール、K(株)、原田寛子、待田和枝
- ▼香川県：合田友子、菅忠三、西山美智子、松原哲也・由美、森口正則、屋島中3-6、山口隆行
- ▼愛媛県：ASA北条、越智睦美、笠原正直、河井典子、合田治二、近藤幸雄、高橋功次、砥部焼陶芸館・館長・中村昭光、舟川幸司、村上由利子
- ▼高知県：小川千賀子、堀内恭一子
- ▼福岡県：青野二郎、青見胃腸・内視鏡内科クリニック、赤木輝子、秋枝蕭子、秋成府左治、秋山武雄、穴井頼信、油絵屋大哲、阿部志朗、荒木見悟、有馬護宏、栗屋梧、安西義孝、飯塚聖母幼稚園、池田暁彦・加寿子、池野美都子、石橋大海、石原タロー、一森軍生、稲永徹彦、井上祐毅・麻衣子・直哉、井上聰、井上静子、(株)井上商会、井上雄二、今村寿和、今本久美子・文徳、入江十三子、岩崎健治、岩田光雄、植木隆導・恵子、上田初音、植田朋子、上野潔、内山健治、梅田勇、梅谷敬哲、裏千家淡交会北九州支部、江口悦子、江口直、江島幸子、江藤多喜男、(株)エムケイ、遠藤信重・ひろみ、扇谷範可、大石雅史、大久保主税、大谷英憲、大塚保人・明子、大西克己、大西純一、大野クミ子、大林りり子、大村公人、岡田良一、小方和子、岡村幸子、奥野豊、奥平成男、小倉弘孝、尾尻義博、OZUMIクリニック、小館三郎、小原秀俊、柿添皮膚科医院、風師山早朝登山会、加治篤、梶務、加治屋三郎、春日雅樹、加藤隆、蟹川英幸、金子隆彦、嘉村起美子、鴨川隆彦、苅田ロータリークラブ一同、苅野隼人、川井清彦、川関富美子、川村勝自、川元忠男、きとう胃腸科内科クリニック、木下京子、木下景子、木村賢示、木村幸隆、工藤五六、久保一博、藏永知彦、藏本一郎、倉本恵美子、倉本和美、栗山太、黒田哲玄、桑原純、桑原俊治・しのぶ、軽労会会員一同、古賀明、国際ソロプチミスト北九州一東、小熊坂静子、小嶋房江、児玉正子、後藤トヨ子、小林宗男、金光教若松教会、西生寺護持会、西明義晃、酒井チヨ子、佐久間紘一・充子、佐々木愛子、佐々木清、佐藤武美、實藤正利・さかゑ、佐野靖夫、佐保肇、椎野千代子、清水久枝、城島伸介、白石敏、神野国男・由美子、鈴木統久、曾根泰子、田尾美智代、高嶋康年、高村広、高本昭男、田川勇、多川洋子、竹内サキ子、竹中征治、竹中久、田中大二、田中時雄、田中義明、谷川榮彦、田端一敏・小枝子、田村龍夫・末子、丹下重則、ツジ胃腸科医院、土川勝美、恒富誠、(株)坪井商店、手嶋啓治・ヒトミ、手嶋秀子、天満紀子、土居麗子、戸田三七生、富岡春子、友井滋、取違芳弘、中川一能、中島敏夫、中島乃婦子、中島與志行、中荘政子、永田諫也、長田慎一、永田泰徳、長野宏子、長治良知、中村税子、中村進一、中村寿、中村洋子、成重博美・まり子、日鉄住金ハード(株)、野上智宏、野田満記子、野原勲、芳賀幸助、栢淵義光、島中保實、濱田致雄、林則幸、原トモ子、原田睦夫、原田礼子、日高義之、日野喜美男、日比生隼斗、姫路秀明、冷牟田つる子、平井信廣、平岡賢治、平野敏弘、平松隆壽、福岡吹奏楽連盟、福田宏行、福田佳文、福知山登、吹原正子、福吉美代子、藤尾且一郎、藤崎良之、藤田健司・逸子、藤田雅之、藤巻義範、藤見胃腸科内科医院、藤本種明、藤山清郷、藤由会、淵上鯉一、古川和則、古庄三喜男、古野千枝子、古野治子、法泉寺、細井勇、保永惇治、堀芳和、本多スワ子・順子・正治、前田奉一郎、前田稔、牧山薫、松井昭子、松井和弘、松井啓輔、松浦範子、松岡順之介、松下徹、松永ユキエ、松本靖子、丸野了、水上平吉、溝口義晴、溝部忠増、光安孝夫、宮崎照男、宮崎冬樹、宮本産商(株)、向笠洋三、村上歯科医院スタッフ一同、村上葉子・靖子、村田純治、村田規子、目原清嗣、森脇巖、安岡廣信、安恒茂子、安村茂男、安元サツ、矢野寿啓、山家内科医院、山口祐司、山下幸子、山下新一郎、山下淳子、山田初子、大和ひろみ、山本哲夫、横手一雄、吉永正人・郁子、米倉医院、脇畑文雄、渡邊千鶴子、和田麻由、和田康彦
- ▼佐賀県：楢本純一、林田隆雄
- ▼長崎県：池田明美、伊藤檜路美、後田敏子、小柳一、須磨律子、永田耕作、ピアチェーレ、三根真理子、牟田義人、百田眞瑳彦、
- ▼熊本県：荒木鎮雄、岡野正義、佐藤堯、橘寛、樽海友希、姫戸医院、増岡光義、宮田和子、森本政幸
- ▼大分県：石崎晃一郎、石橋弘行、加藤幸俊、工藤修二、栗本康江、河野喬二、河野なみ子、神戸信之、(株)古城新聞店、佐藤トシ子、角勝典、友弘清文、友松功一、荷宮正雄・珠子、野上和恵、野坂浩代、宮本勝彦、椋園ミヨ子、矢永英子、柳瀬陽之助、矢野、山崎福男、吉松忠徳
- ▼宮崎県：赤池義昭、県南病院、相馬敏廣、田中榮次、松園博史、松山広子
- ▼鹿児島県：袴廣洲、木村龍一郎・理、久木田康、田原睦郎、徳世津夫、西あつ子、春山雅美、松元秀雄・ツル子
- ▼沖縄県：仲地清

## 新3年計画 2013-2015

朝日新聞厚生文化事業団は「新3年計画2013-2015」を作り、2013年3月28日の理事会・評議員会で承認されました。

「新3年計画」は、2008年10月に定めたガイドライン「朝日新聞厚生文化事業団の改革と今後の運営」（以下「2008計画」）を改めて総括したうえ、13年に創立85年を迎えた事業団が歩む新しい道筋を示そうと、中長期的な視野も踏まえてまとめたものです。

また、定期預金資産についての新規事業計画による活用や資金運用の基本方針も織り込むこととし、当事業団の理事らで構成する財務委員会の意見も仰いで検討しました。

新3年計画のうち、事業、資産の運用の概要は次の通りです。

### 事業

#### (1) 3本柱の継続

「2008計画」で重点事業とした「障害のある人」「子ども」「高齢者」の事業3本柱は、朝日新聞厚生文化事業団の独自性を示すものとして評価を受け、事業の態勢も整いつつある。新たな3年計画においても、この3本柱を重点事業として踏襲していく。それぞれに、東日本大震災関連の救援事業も取り込んで、今後も他のメディア事業団にはない独自性を発揮していく。

#### (2) 定期預金資産を活用して新規事業計画

事業団は現在、約20億円の定期預金資産を保有している（基本財産3億円を含まず、東日本大震災指定寄付5億円を含む）。

この定期預金資産を活用した積立資金を充て、3つの特定目的事業に取りかかり、継続中の東日本大震災救援事業とともに実施することとする。創立85周年記念事業を含んで、向こう4-5年を目途に実施していきたい。積立資金の合計額は約13億円とする。

##### ①自閉症支援センターを設立するための事業

積立資金3億円

当事業団の自閉症支援事業は、TEACCHプログラムの紹介、普及を中心に25年を超える実績を持ち、福祉や教育現場に大きな影響を与えてきた。これまでに培った実績と人的資源のネットワークを生かし、自閉症の人への支援を前進させるために「自閉症支援センター（仮）」を創設するプロジェクトをスタートさせる。2013年度は準備や調査に充て、14年度に準備室開設、15年度の本格スタートを目指す。

##### ②グリーンステーションを全国に普及促進する事業

積立資金3億円

東日本大震災に遭った子どものグリーンケアのために学習や生活支援を行う事業を2012年9月に仙台でスタートさせた。この活動の拠点を今後、岩手（陸前高田）と福島（いわき市）にも広げていく予定だが、震災だけでなく交通事故や自殺、病気、あるいは増加する虐待や離婚などによって「親を失った子ども」（社会的養護）へのケアができる機関として全国に拡大することを目指すプロジェクトを推進する。

## ③高齢者在宅ケアモデル事業

積立資金 2 億円

人生の最期を迎えるときに、住み慣れた自宅やまち、地域で支援を受けながら生活を送るために何が必要かを具体的にし、在宅（地域）介護の全国モデルとなる事業を実践する。2013年度は事前検討会議、準備室開設にあて、14年度から実施のための事業立案を行う。センター機能を持った在宅看護・介護の拠点を開設し、ユニークな活動を展開することを目指す。

## ④東日本大震災救援事業

積立資金 5 億円

東日本大震災救援で当事業団に寄せられた指定寄付金を積立資金として、事業団が独自に行う同震災救援事業の事業費として活用する。②の事業でも、同震災に関連する部分はここから支出する。救援事業は今後3年間にとどまらない。どの事業にも息の長さが求められることを想定して対応していく。

## 財産の運用

定期預金資産約20億円のうち、「2. 事業」で積立資金として活用するとした計13億円を除く7億円は運用財産として、安定的に運用し、利子収入を事業に活用する。

効率的で安全な運用を図るために、新たに資産運用規程を策定した上で、国債、公債、社債などの安全、安定的な運用方法（投資有価証券の購入）を選択する。

この7億円については、1本にまとめて運用するのではなく、緊急の事態発生時にも臨機応変に支出対応できるよう、分割して運用することとする。財務委員会では、運用財産の活用方法として、突発的に発生する次の災害に即応できるような「災害対策準備積立資金」の設置案もあったが、使用が災害に限定されてしまうため、より広範に即応できるよう、限定をつけずに運用財産とする。

2011年3月の東日本大震災から4年が過ぎました。

朝日新聞厚生文化事業団は14年度も引き続き、この大災害で特に過酷な状況に置かれている子ども、障害のある人、高齢者に焦点を当てた独自の被災者救援・復興支援事業に精力的に取り組みました。

朝日のあたる家、こども応援金、子どもグリーフサポート、グリーフキャンプ、被災地ビジットなどが主なものです。

こうした活動には、朝日新聞厚生文化事業団の震災救援事業へのご寄付と、東日本大震災救援募金（震災直後から12年3月末まで）のご寄付のうち用途について「朝日新聞厚生文化事業団に一任する」というご意思が確認できた分を充てさせていただいています。

## 朝日福祉ガイド DVD・ビデオ・本のご案内

## ◆朝日福祉ガイドDVD◆

<p>『自閉症の人が求める支援 全3巻』</p> <p>セット価格 10,692円</p> <p>各巻 4,320円</p>	<p>自閉症の人、それぞれの個性に合わせた支援の基本である「構造化」を映像化した画期的なDVDです。第1巻「基本編 基礎からわかる構造化」(60分)・第2巻「実技編 構造化と再構造化のしかた」(85分)・第3巻「実践編 自立のための構造化」(112分)。</p>
<p>『自閉症の人が見ている世界 全3巻』</p> <p>セット価格 10,692円</p> <p>各巻 4,320円</p>	<p>自閉症の人の考え方や感じ方の「違い」について、自閉症の人自身が語る言葉と映像は、自閉症を正しく理解する原点です。第1巻「自閉症の人の学習スタイル」(63分)・第2巻「自閉症の人が好むこと」(39分+全3巻のダイジェスト21分)・第3巻「13人のエピソード」(85分)。</p>
<p>『自閉症の子どもの評価 全4巻』</p> <p>セット価格 18,144円</p> <p>各巻 4,860円</p>	<p>自閉症の人たちを正しく支援する上で、すべての基礎となる評価を詳しく、具体的に、分かりやすく映像化。第1巻「評価のしかた」(65分)・第2巻「評価のポイント」(48分)・第3巻「評価と課題設定」(86分)・第4巻「自立のための評価」(71分)。</p>
<p>『自閉症の子どもの自立課題 全3巻』</p> <p>セット価格 13,608円</p> <p>各巻 4,860円</p>	<p>「自分是可以する」という感覚を養い、いろいろなことに取り組む意欲を育て、将来の自立した活動につながる「自立課題」を詳しく紹介。第1巻「自立課題の選び方」(64分)・第2巻「自立課題の作り方」(59分)・第3巻「自立課題のできあがり」(49分)。</p>
<p>自閉症児の治療教育シリーズ(米国ノースカロライナ州TEACCHプログラム) 各巻3,024円</p>	
<p>『自閉症児の明日のために -TEACCHのねらいと考え方-』</p>	<p>プログラムの全体像をセラピストの立場から紹介、自閉症の人たちを援助する上で何が必要かを示唆(49分)。</p>
<p>『親のためのTEACCHプログラム』</p>	<p>親が実践できるように、家庭での援助の実際を具体的に分かりやすく紹介(67分)。</p>
<p>『教師のためのTEACCHプログラム』</p>	<p>教室やスケジュールの設定、親との連携など、教師や指導員の参考に(69分)。</p>
<p>『青年期・成人期のTEACCHプログラム』</p>	<p>学校卒業後の就職・居住・余暇など青年期・成人期向けの援助法を紹介(55分)。</p>
<p>◆朝日福祉ガイドビデオ◆</p>	
<p>『自閉症の治療教育』</p> <p>3,024円</p>	<p>全米自閉症児親の会の様子や米国ノースカロライナ州の自閉症の療育への取り組みを紹介。(60分)</p>
<p>『TEACCH』</p> <p>3,024円</p>	<p>TEACCH部で行われている1週間にわたる教師のための訓練セミナーの様子を詳しく紹介。(90分)</p>

<b>◆朝日福祉ガイドブック◆</b>	
『生き方、逝き方ガイドブック』 1,296円	どうすれば本人らしい「逝き方」ができるのか。タブー視されがちだったこの命題を新田國夫医師とともに考え、整理しました。
『なるほど高次脳機能障害』 1,296円	高次脳機能障害を、その障害の理解に始まり、発症から診断、リハビリ、社会参加まで、豊富な事例で解説しています。
『みんなのうつ』 1,080円	うつ病の「分かりにくさ」を整理し、正しく理解するための入門書。治療法や対処法も解説。監修は精神科医の大野裕さん。
『認知症とともに』 1,080円	認知症の人や、その家族のために、診断から治療・ケア・介護サービス、施設への入所や看取りまでイラスト入りで解説。
『自閉症の人を支援するということ』 864円	TEACCHプログラムの最高責任者、ゲーリー・メジボフ教授が自閉症の障害とプログラムの内容を分かりやすく解説。
『自閉症のひとたちへの援助システム』 540円	TEACCHプログラムの実践事例を豊富な写真とイラストで紹介しながら、プログラムを日本でいかに生かすかを提案。
『100%あたらくん』 648円	自閉症のあたらくんの大活躍を、母親が描いた4コママンガ。自閉症の子どもと、その家族の日常が理解できます。
『精神障害者のホームヘルプサービス』 864円	精神障害を正しく理解し、当事者の立場で支援できるよう、関係者の体験談や豊富な事例で分かりやすく解説しています。
『きみといっしょに』 540円	全国のLD児を持つ親たちが、LD児への理解や付き合い方をまとめた手引。Q&Aと、推薦する相談・診断機関なども掲載。
『くるまいす-第3改訂版』 324円	車いすの種類や構造、介助の基礎的な方法やポイントを分かりやすく解説、公共交通機関の利用についても触れています。
『新・川崎病がわかる本改訂増補版』 540円	乳幼児を中心に発病する原因不明の“川崎病”について症状や特色、療養上の注意、相談窓口などの情報を加えて解説。

※価格はいずれも税込み(2015年5月1日現在)

### ◆お申し込み・お問い合わせ◆

ご希望の方は電話かファクス、電子メール (guide@asahi-welfare.or.jp)  
で下記までお申し込みください。

(タイトル名、数量、送り先、電話番号を明記してください)

ホームページ (<http://www.asahi-welfare.or.jp/>) からもお申し込みができます。

朝日新聞厚生文化事業団 朝日福祉ガイドブック・DVD・ビデオ係

〒104-8011 東京都中央区築地5-3-2

tel:03-5540-7446 fax:03-5565-1643

## 朝日新聞厚生文化事業団のあゆみ

### 人間尊重の原点に立って

朝日新聞厚生文化事業団の設立のきっかけは1923（大正12）年9月1日の関東大震災の被災者救援活動です。朝日新聞社は全国から寄せられた義援金や食料、生活用品を被災者に配り、震災の翌年末には「歳末同情週間」（現在の「歳末助け合い」）を主催し、紙面キャンペーンや街頭募金を始め、美術家や作家などの協力を得た「色紙・短冊即売会」（現在の「朝日チャリティー美術展」）を催しました。これらの寄金を食料や衣料品にかえて生活に困る人々に贈りました。

その後、世界的な経済恐慌で生活困窮者が増え、社会問題が続発したため、28年1月に「社団法人朝日新聞社会事業団」を大阪朝日新聞社に創設しました。「歳末同情週間」の寄金で生活困窮者に慰問袋や無料診療券、常備白米券を配り、困窮者への「出世資金」の貸し出しや農繁期託児所の開設、水上生活者のための無料診療船巡航などを実施しました。学校に弁当を持参できない子どもたちの「欠食児童給食運動」キャンペーンは、現在の学校給食のきっかけとなりました。大阪に公衆衛生訪問婦協会を設立し、保健・育児など多岐にわたる活動は日本の保健師制度の基礎を築きました。

第2次大戦後は、戦災者や引き揚げ者への家庭常備薬や衣料品の配布、傷病兵慰問などの援護事業から始まりました。廃虚の中での明るい話題は、49年9月にインドのネール首相から贈られた象「インディラ」の「移動動物園」でした。半年間で東日本18都市を回り、子どもたちの笑顔を取り戻しました。

52年に社会福祉事業法が制定され、朝日新聞社の東京・大阪・西部各本社にそれぞれ独立の社会福祉法人を設け、「朝日新聞厚生文化事業団」と改称しました。63年には大阪事業団の名古屋支部が独立し、全国展開事業とともに地域福祉事業の推進に着手しました。

戦後の復興とともに本格的な福祉事業への取り組みが始まり、児童福祉法施行5周年を記念して大阪に「アサヒ生駒山キャンプセンター」を開設、児童養護施設の中学生修学旅行や福祉施設で暮らす高齢者の温泉旅行も始まりました。54年8月に第1回の「朝日夏季保育大学」が開かれ、56年2月から始まった「この子たちの親を探そう」運動は、戦争で生き別れた親子146組の対面を実現しました。ハンセン病の正しい理解と患者支援のために「大阪ハンセン病協力会」を設立し、「アサヒベビー相談室」を大阪・名古屋のデパートで開設したほか、大学医学部による全国の無医地区診療など、医療と公衆衛生事業にも力を注ぎました。59年9月の伊勢湾台風、64年6月の新潟地震では被災地に朝日診療車が出動して被災者救護にあたり、全国からの救援物資を配布しました。

高度経済成長とともに事業を拡大しました。三重県多徳島の「アサヒ志摩キャンプセンター」、愛知県梶島の「アサヒキャンプセンター」、千葉県保田海岸の「朝日臨海福祉センター」、大分県九重町の「朝日高原福祉センター」を開設し、福祉施設の子どもや障害のある子どもが参加するキャンプ事業が始まりました。また、激増する交通遺児家庭への支援活動を始め、視覚障害の学生のための奨学金制度も創設しました。

障害のある人や難病患者への支援も本格化し、電動タイプライター・電動車いすの贈呈や普及キャンペーンを展開。福祉のまちづくりを進める「車いす市民交流集会」や、福祉先進国を訪ね

る「車いすヨーロッパの旅」も始まりました。「ヨーロッパの旅」は障害のある人の海外旅行の先駆けとして注目され、これらの集会や旅の参加者の多くが、障害のある人の自立生活運動の中心となりました。また、「朝日ボランティア奨励金」「朝日福祉設備助成金」（86年に「朝日福祉助成金」に統合）を相次いで創設、各地でボランティア講座を開くなど、草の根福祉活動の支援を進め、認知症など介護の必要な高齢者の問題に対応する「アサヒ老人家族相談室」も開設しました。

81年の国際障害者年には「障害者の自立を考えるシンポジウム」を全国で開催し、ノーマライゼーションの理念を基に、コミュニケーション・プリンターや手書き電話、福祉電話装置「ふれあい」などの贈呈運動を展開しました。精神障害者の医療や福祉の先進国である欧米5カ国に視察団を派遣し、日中平和友好条約締結10周年を記念した「日本・中国車いす市民友好相互交流」も実施しました。

また、自閉症の支援システム「TEACCH（ティーチ）プログラム」に着目、米国ノースカロライナ大学から講師を招いて研修会を開き、ガイドブックやビデオを制作・頒布するなど、本格的な普及活動を開始。2002年からはその実践者千人余りが集う「自閉症カンファレンスNIPPON」を開催しています。同時に学習障害児（LD）の理解を進める公開相談会や、深刻な社会問題となった青少年の「ひきこもり」問題を考えるシンポジウムも各地で開きました。手話の普及とボランティア活動・福祉教育の推進をはかる「全国高校生（大学生）の手話のスピーチコンテスト」は84年にスタート、「手話の甲子園大会」として定着しています。91年からの「アジア障害者の10年」にあたり、全国の障害者施設・団体と協力して、タイ・ベトナム・カンボジア・フィリピンなどに車いすを贈る運動を展開、障害のある現地の人が車いすを製作・修理する工場を開設しました。

一方、83年のアフリカ飢餓救援キャンペーンをはじめ、国内外で起こった災害に対応して、救援募金を呼びかけてきました。91年には「チェルノブイリに光を」キャンペーンを開始、広島・長崎の赤十字病院で被災地の子どもを診療し、現地の医師が被曝（ひばく）治療の研修を受けました。95年1月の阪神淡路大震災では、救援拠点として「朝日ボランティア基地」を開設し、高齢者・障害のある人への緊急援助や仮設住宅世帯、アジアからの留学生、被災児への支援など、多岐にわたって活動。2004年の新潟県中越地震では、被災者の心のケアをはかる事業を展開しました。この実績は11年3月の東日本大震災でも生かされ、両親を失った子どもに一時金を贈る「こども応援金」や、岩手県陸前高田市の地域交流施設「朝日のあたる家」の開設など、独自の救援事業に取り組んでいます。

東京・大阪・西部・名古屋で独立して活動してきた各事業団は01年4月1日に合併して、「社会福祉法人朝日新聞厚生文化事業団」となり、全国的な活動に力を注いでいます。

08年には創設80年を迎え、記念事業として「子どもへの暴力防止プロジェクト助成」を実施しました。「児童養護施設・里親家庭の高校生進学応援金」も継続しています。09年度からは「子ども」「障害のある人」「高齢者」を事業の3本柱とする基本方針のもと、活動を続けています。今後とも、これまでの実績を生かし、人間尊重の原点に立って、「共に生きる豊かな福祉社会」の実現をめざし、先駆的な事業に取り組んでまいります。

## 2014年度 事業活動計算書より抜粋

(2014年4月1日~2015年3月31日)

単位:円

サービス活動収益	356,630,880	サービス活動費用	417,328,270
事業収益	153,907,706	事業費用	193,048,756
児童福祉事業	4,141,127	児童福祉事業	49,766,509
障害者福祉サービス等事業	14,410,715	障害者福祉サービス等事業	26,636,350
老人福祉事業	1,680,807	老人福祉事業	28,026,394
チャリティー事業	118,379,175	チャリティー事業	79,394,149
医療と公衆衛生	3,790,500	医療と公衆衛生	527,664
福祉啓発推進	0	福祉啓発推進	1,301,105
朝日福祉ガイド(DVD他)	11,505,382	朝日福祉ガイド(DVD他)	7,396,585
経常経費寄附金収益	202,578,729		
その他の収益	144,445	人件費	175,437,407
		事務費	47,635,450
		減価償却費	1,194,883
		徴収不能額	11,774
サービス活動外・特別収益	4,094,551	サービス活動外・特別費用	0
受取利息配当金収益	3,052,629		
その他の特別収益	1,041,922	当期活動増減差額	-56,602,839
合計	360,725,431	合計	360,725,431

本年度より新社会福祉法人会計基準(平成23年基準)を採用しています。

詳細は、当事業団のホームページをご覧ください。

## 理事・監事・評議員名簿

2015年3月31日現在

## 社会福祉法人 朝日新聞厚生文化事業団／理事・監事・評議員

(理事 6人 監事 2人 評議員 13人) 敬称略・順不同

理事長	池内 文雄	朝日新聞社顧問
常務理事	高畑 芳秋	朝日新聞厚生文化事業団常務理事
理事	佐々木正美	川崎医療福祉大学客員教授
同	炭谷 茂	社会福祉法人恩賜財団済生会理事長 元環境事務次官
同	早瀬 昇	認定特定非営利活動法人日本NPOセンター代表理事
同	越村佳代子	元社会福祉法人こどもの国協会常勤理事・副園長
監事	南 靖武	元東京都高齢者施策推進室高齢政策部長
同	亀岡 保夫	公認会計士 大光監査法人理事長
評議員	山田 昭義	社会福祉法人AJU自立の家専務理事
同	野村 寛	社会福祉法人福栄会理事長
同	影山 秀人	弁護士 子どもセンターてんぼ理事長
同	佐藤 佳則	社会福祉法人テレビ朝日福祉文化事業団事務局長
同	石川 到覚	一般社団法人日本精神保健福祉学会会長
同	大塚 晃	上智大学総合人間科学部社会福祉学科教授
同	佐野 信三	社会福祉法人東光学園理事長
同	大谷 泰夫	国立研究開発法人 日本医療研究開発機構理事
同	長浜 力雄	認定特定非営利活動法人トリトン・アーツ・ネットワーク理事長
同	関戸 衛	元朝日新聞厚生文化事業団常務理事
同	谷 啓之	前朝日新聞厚生文化事業団広報担当部長
同	鈴木 健	朝日新聞社ブランド推進担当補佐
同	高地 忠	朝日新聞社財務本部長補佐

## お問い合わせ・寄付の受け付け・職員名簿

## ■本部

〒104-8011 東京都中央区築地5-3-2  
 TEL03(5540)7446 FAX03(5565)1643  
郵便振替…口座番号「00130-1-9166」  
銀行振り込み…三井住友銀行新橋支店 普通「303668」

## ■大阪事務所

〒530-8211 大阪府大阪市北区中之島2-3-18  
 TEL06(6201)8008 FAX06(6231)3004

## ■西部事務所

〒803-8586 福岡県北九州市小倉北区室町1-1-1  
 TEL093(563)1284 FAX093(563)1287

## ■名古屋事務所

〒460-8488 愛知県名古屋市中区栄1-3-3  
 TEL052(221)0307 FAX052(221)5453

※ご寄付に際して朝日新聞厚生文化事業団が振込料金を負担する「郵便振替用紙」をご希望の方はご請求ください。銀行振り込みの場合は事前にご連絡ください。クレジットによる寄付もホームページで受け付けています。

※各地の朝日新聞本社・支社・総局でもお受けします。

※当事業団への寄付金は所得税法・法人税法による寄付金控除が認められています。

ホームページ:<http://www.asahi-welfare.or.jp/>

## 朝日新聞厚生文化事業団職員名簿(2015年3月31日現在)

## ■本部(東京)

事務局長 大井屋 健 治  
 事業部長 福 田 年 之  
 企画部長 池 谷 澄 子  
 管理担当部長 大羽 淳 一  
 広報担当部長 久保田 裕  
 小倉 玲 子  
 中村 宣 人  
 落合 すが子  
 古屋 厚 子  
 小林 明 由  
 鳥海 大 督  
 松岡 百 合  
 中村 智佐子

## ■大阪事務所

事務所長兼西日本事業部長  
 山本 雅 彦  
 事業担当部長 中村 茂 高  
 岩切 修 次  
 野崎 貴 士  
 勝見 文 子

## ■西部事務所

事務所長 重 光 雄 二

## ■名古屋事務所

事務所長 田 中 彰

THE ASAHI SHIMBUN SOCIAL WELFARE ORGANIZATION

朝日の社会福祉

2014

平成26年度

事業  
報告

ホームページで福祉情報を発信しています

<http://www.asahi-welfare.or.jp/>

2014年度 事業報告

2014年4月 1日から

2015年3月31日まで

社会福祉法人 朝日新聞厚生文化事業団